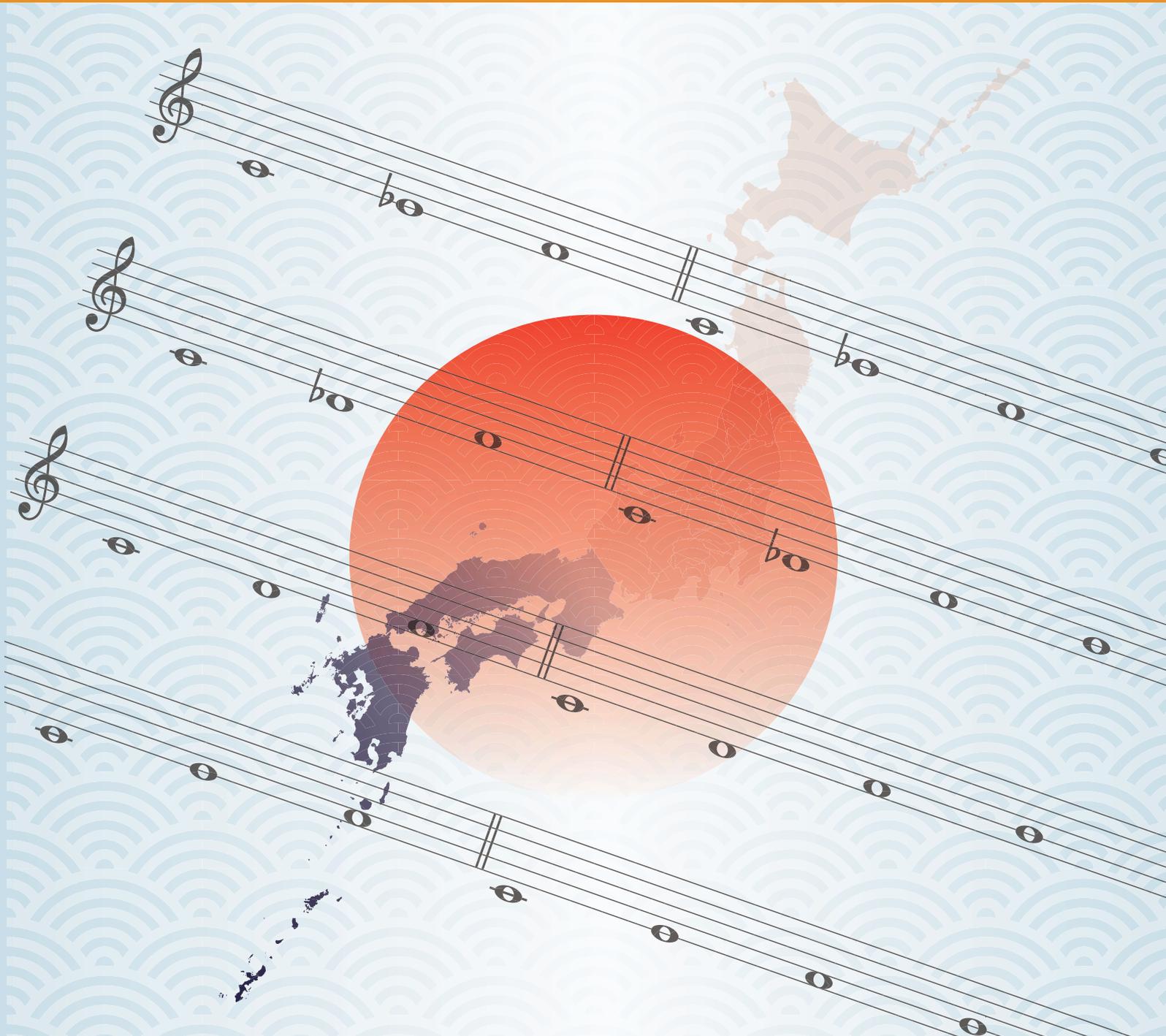


CIRAS Discussion Paper No.72

日本民謡の地域比較研究に向けて

西海道・山陰道・山陽道の地域性

河瀬 彰宏・柳澤 雅之 編著



京都大学東南アジア地域研究研究所



CIRAS Discussion Paper No. 72

日本民謡の地域比較研究に向けて

西海道・山陰道・山陽道の地域性

河瀬 彰宏・柳澤 雅之 編著



京都大学東南アジア地域研究研究所

目次

はしがき	1
<i>Chapter. 1</i> 趣旨説明——日本民謡の地域性	3
<i>Chapter. 2</i> 日本民謡とはなにか	6
<i>Chapter. 3</i> 日本音楽の基礎理論と計算機上の処理	12
<i>Chapter. 4</i> 分析手順	17
<i>Chapter. 5</i> 九州地方(西海道)の民謡の計量分析	20
<i>Chapter. 6</i> 中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析	29
<i>Chapter. 7</i> 総括	39
活動記録	41
資料 データ一覧	42
執筆者一覧	61

CIRAS Discussion Paper No. 72

KAWASE Akihiro and YANAGISAWA Masayuki (eds.)

**Toward Regional Comparative Study of Traditional Japanese Folk Songs:
Regionality of Saikaidō, San'indō and San'yōdō**

©Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University
46 Shimoadachi-cho, Yoshida Sakyo-ku, Kyoto-shi,
Kyoto, 606-8501, Japan

TEL: +81-75-753-7302

FAX: +81-75-753-9602

March, 2017

はしがき

本ディスカッション・ペーパーは、京都大学東南アジア地域研究研究所(旧・京都大学地域研究統合情報センター)の共同利用・共同ユニット「音楽文化の伝播の解明を目的とした中国地方・九州地方における日本民謡の計量的分析」(2016年4月-2017年3月)の成果報告である。

本研究ユニットは、2回の研究会を実施した。第1回研究会は日本民謡の地域性に対して計量的な観点から分析することの意義の確認に加え、分析する際の指針と問題点を取り上げ、ディスカッションを行った。第2回研究会では、近年盛んに行われている文化資源の集約・共有化のうち、音楽研究に特化した事例を取り上げ、今後の分析の方向性をまとめた(詳細については本ペーパーの「活動記録」の項目を参照)。

研究ユニットのメンバーは以下の通りである。

- 宇津木 嵩行(中央大学)
- 岡本 佳子(東京大学)
- 河瀬 彰宏(同志社大学)
- 工藤 彰(東京大学大学院)
- 福田 宏(愛知教育大学)
- 矢向 正人(九州大学)
- 柳澤 雅之(京都大学)
- 吉野 巖(北海道教育大学)

本研究ユニットの主たる目的は、日本の伝統音楽を対象にその地域的特徴——各地域の音楽を構成する要素とそれらの相互的關係——を定量化し、日本本土の民謡の特徴と比較することにより、「地域の知」の創生と再生を実践することである。日本民謡を電子データ化することで情報学的分析基盤(音楽コーパス)を構築し、これに計量的分析を実施することで、旋律的特徴(音組織)を抽出した。音組織とは、旋律に内在する法則であり、ある文化の音組織を捉えることは、その文化の音楽を形成する音の相互關係、伝播・変容、普遍性の解明につながると考えられている。九州地方(西海道)、中国地方(山陰道・山陽道)における伝統音楽の特徴を統計学と情報学の方法論を適用しながら実証的に抽出した。

以上の問題に対して、本研究ユニットでは、工学・情報学・統計学・政治学・農学・文学・音楽学・心理学の各分野の研究者が一同に介し、研究会を実施した。各研究者の専門は異なるものの、音楽文化の実態解明に向けた具体的な指針を提示できたことは、今後の音楽文化の地域情報学的研究の方向性を決定づける貴重な一歩となった。

本ペーパーの構成は次の通りである。はじめに研究ユニットの趣旨について説明し、分析対象である日本民謡および電子データ化の対象となった『日本民謡大観』の特徴をまとめる。次に、日本音楽を分析する際に利用した基礎理論について、日本伝統音楽に関する古典から抜粋するかたちで紹介する。そして、情報学と統計学の分析を通して得られた日本民謡の地域性に関するデータを九州地方、中国地方の順に示す。最後に、本ディスカッション・ペーパーの内容を総括する。

本研究ユニットの活動を進めていくにあたり、多くの方々のご協力をいただくことができた。ここに感謝を申し上げる次第である。

研究ユニット代表
河瀬 彰宏

Chapter. 1

趣旨説明——日本民謡の地域性

河瀬 彰宏

1. 日本民謡の地域性

日本民謡に地域性があることは、多くの人が体感していることである。例えば、北海道のアイヌ族の民謡は、サハリン北部からアムール川下流域の地域に住むニブフ族(旧称ギリヤーク Gilyak)の音楽と類似していることや、本州最北の青森県の民謡と本州最南の鹿児島県の民謡に地域差があることは、楽曲構造や旋律の特徴を具体的に指摘するまでもなく、一聴すれば確認できる。しかし、伝承者、教育者、研究者など、民謡に携わる多くの人が日本音楽の地域差を意識しているものの、地域間の相違について尋ねてみると、明確な境界線をもって回答できないのではなかろうか。

学術的には、日本民謡の地域差に関する代表的な考え方として、次の3点がある：

- 東物・西物による区分
- 北方様式・中央様式・南方様式による区分
- 日本海側・瀬戸内海側による区分

東物・西物による区分 民謡界では、職業的な民謡歌手を中心に、「東物」「西物」という区分が共有されている。民謡界の主流派は、東北・北海道からの出身が多く、東北民謡の小節——装飾的な発声技巧——を効かせた東物が標準とされ、小節を効かせないものを西物として対比させる認識がある。東日本では、職業的な民謡歌手らが登場し、本来は労働や生活習慣と密接な関わりをもつ民謡そのものを舞台歌謡に昇華させた背景があり、西日本では、芸姑が民謡を酒宴の座敷芸として洗練させ、三味線と間の駆け引きを重んじながらファルセットで唄う座敷歌として広く認識させた背景がある。

東日本は舞台歌謡、西日本は座敷歌という形式上の違いをもって日本音楽を東日本と西日本に区分する方針は、主観に基づくものであり、かつ、楽曲構造や旋律の特徴を考慮しない区分である。そのため、地理上

の境界線を明確に示すものではない。

北方様式・中央様式・南方様式による区分 音楽学者の柿木吾郎氏は、独自に考案した構造式(柿木1969)とピアノロール上に印刷された旋律の動きを分析することで、日本民謡を北方様式・中央様式・南方様式に区分した(柿木1984)。

北方様式は、東物にみられる小節を効かせた旋律に該当し、中央様式・南方様式は、西物の旋律が含まれることから、上述の民謡界の支持を得る東物・西物の区分に近い。しかし、柿木氏が導入した構造式が汎用性に欠けることや、分析に用いたデータ量が極めて少なかったことから、実証の見地からは地理上の境界線を明確に示すものではない。

日本海側・瀬戸内海側による区分 音楽学者の小島美子氏は、日本民謡の地域差を調査するために、『日本民謡大観』に収録された秋田県と山口県の楽曲を東日本と西日本の民謡の代表として選出し、各楽曲の音階を集計・比較した。その結果、秋田県は民謡音階を構成する楽曲が多く、山口県は民謡音階と律音階を構成する楽曲が半分ずつ存在することを示した(小島1991)。

小島氏は山口県の楽曲の分析結果を受けて、引き続き、データ量を増やし、音階を集計・比較した。この調査では、次の10府県の楽曲を『日本民謡大観』からサンプリングしている：山口県(長門国, 周防国), 広島県(安芸国, 備後国), 島根県(石見国, 出雲国, 隠岐国), 鳥取県(伯耆国, 因幡国), 兵庫県(但馬国, 丹波国), 京都府(丹波国, 丹後国), 福井県(若狭国, 越前国), 石川県(加賀国, 能登国), 富山県(越中国), 秋田県(羽後国)。また、各地の音楽的特徴を比較するために、次の5種の音階の集計を実施している：民謡音階, 律音階, 律音階変種, 都節音階, 都節音階変種。

集計の結果では、瀬戸内海側では律音階が多く、上述の東物・西物の区分や北方様式・中央様式・南方様式

の区分とは異なる日本海側と瀬戸内海側に地域差があるという仮説を提唱する。さらに、このような地域差が生じた背景要因として、小島氏は民族の移動や異文化接触などの歴史的経緯の可能性を示唆している(小島1992)。

しかし、小島氏が令制国や楽曲のサンプリングをどのような基準から実施したのか、なぜ5つの音階を集計に用いたのかについて基準が明記されていないため、筆者は実証的には説得力が弱いと考える。例えば、令制国によって選曲にばらつきがあることや、律音階や都節音階の変種を集計に加える根拠が不明瞭であること、とりわけ、後述する小泉文夫氏のテトラコルド理論に立脚した音階を分析の根幹に使用しているにも関わらず、第4種にあたる琉球のテトラコルドが(仮に本土の民謡に存在しないとしても)まったく考慮されていないことなど、疑問が残る。

以上のように、日本音楽の地域差に関する代表的な考え方は、客観性の担保が困難なものばかりであり、筆者はこの問題に対して、実証的な見地から研究を進める必要があると考えた次第である。

2. 本研究ユニットの指針

本研究ユニットでは、日本民謡の地域差を明らかにするために、従来の民俗音楽研究とは異なる方針から分析を試みている。

日本音楽の理論的側面を発展させた音楽学者の小泉文夫氏は、『日本伝統音楽の研究』(1958)の中で、民謡は、文芸学、民俗学、音楽学の3つの側面から総合的に把握されるべきものであることを述べている。とりわけ音楽学の側面について「われわれの音感の中に伝統として存在する音組織や旋律法などの客観的で理論的な把握を前提とすること」と明記している(小泉1958)。この立場は、日本の民俗音楽に限らず音楽文化を体系的に把握する上で、重要な視点であると筆者は考える。日本における民俗音楽研究は、伝承の在り方や伝統音楽の教育的意義を議論するための調査が多いものの、小泉氏のように学際的かつスケールの大きい視点をもった理論研究や新たな法則の発見事例が少なく、音楽文化の発展・衰退まで見据えた科学的な研究はほとんど展開されていない。

本研究ユニットでは、この反省から学際的研究の協力体制を構築し、客観性を担保する科学的な分析を取り入れることを心掛けた。日本民謡の地域性を明らか

にするために、対象を九州地方(西海道)および中国地方(山陰道・山陽道)の日本民謡に限定し、計算機を用いて各地の旋律に繰り返し出現するパターンを集計・比較した。これは、従来の比較音楽学の領域で行われてきた人文諸科学の手続きとは対極に位置する方針であるが、計量的な見地から日本民謡の音組織を確認することが可能となる。

3. 音楽を計量的に分析することの意義

計算機を導入した楽曲分析の多くは、任意の楽曲の分類・検索を目的としたものが多く、近代西洋音楽の理論に基づく特定の作曲家の作品、聴衆による音楽体験の解釈研究が主流である。一方で、非西洋音楽の楽曲分析については、音楽人類学(民族音楽学)の視点に踏み込んだ研究はほとんど実施されていないため、人々が音楽をどのように概念化しているのかについて不明な点が多い。

本研究ユニットでは、日本民謡の楽曲を機械可読なデータ形式に整備することにより、未解明だった音楽の伝播・変容の実証的研究を促進させる意義がある。とりわけ、本研究の特色は、その方法論と汎用性に集約される。日本音楽を対象とした従来の人文諸科学の研究では、文献調査やフィールドワークを通して音楽の伝播を発見的に記述しているものの、研究者が大量に存在する音楽作品を並列的に論じることは困難なため、方法論には一貫性・再現可能性が担保されない問題があった。この問題に対して本研究ユニットでは、音楽の1次情報(楽曲の旋律)に基づく分析を計量的に実施することにより、将来的に音楽以外の種々の文化活動と関連させるかたちで音楽現象の実証的解明を実現させる意義がある。

参考文献

- 柿木吾郎(1969)「構造式による日本民謡旋律の比較分析法」『芸能』(宮崎大学教育学部紀要)26, pp. 7-39.
- 柿木吾郎(1984)「日本民謡の音楽様式的分析」『東洋音楽研究』49, pp. 94-108.
- 小泉文夫(1958)『日本伝統音楽の研究I』. 音楽之友社.
- 小島美子(1991)「日本民謡の地域性研究に向けて

の試論——日本民謡の日本海側と瀬戸内海側」『国立歴史民俗博物館研究報告』36, p. 375-388.

- 小島美子 (1992)「日本民謡の地域性研究に向けての試論(その2)——日本民謡の日本海側と瀬戸内海側」『民俗音楽研究』12, p. 2-12.

Chapter. 2

日本民謡とはなにか

河瀬 彰宏

1. 日本民謡を分析するにあたって

本研究ユニットでは、日本音楽の伝播・変遷を解明するために、日本民謡を分析対象とする。日本音楽のあらゆる種目のうち、一般的に主流とされる雅楽、能楽、声明などではなく、日本音楽のプリミティブな要素をもつ日本民謡を直接分析することには明確な理由がある。ここでは、日本音楽における日本民謡の位置付けとその特徴を確認しながら、分析対象として選択した理由について説明する。

2. 日本音楽における日本民謡の位置付け

日本音楽の種目を器楽と声楽に区分すると、器楽は、雅楽の管絃、箏曲の段物、尺八楽、歌舞伎の演出を支える下座音楽などがあり、あわせても全体の15%程度に留まる。一方で、声楽は全体の85%以上を占めることから、日本音楽は声楽を中心としていることが分かる。

また、声楽は、音楽と歌詞のどちらを主体として構成されているのかという観点から「歌い物」と「語り物」に分けることができる。実際には、両者の中間的な種目も存在していることから、日本音楽は、声楽を中心とし、歌い物と語り物の曖昧さを併せ持つ音楽といえる。

「民謡」という用語は、Volkslied(独)あるいは folk song(英)の訳語として明治期に創出され、京都や江戸などの都会から離れた地方に存在する音楽に対して充てられた。学問上の定義は、自然性、伝承性、移動性、集団性、素朴性、郷土性の6条件を満たすこととされる。1940年代に民俗学者の柳田國男氏は、民謡の作業内容に基づく分類法を考案する。そして、1960年代に音楽学者の町田佳馨氏は、この分類法を改良し、さらに町田氏の分類法に基づき、1970年代に「文化庁方式」が作成される(e.g. 表2.1)。この「文化庁方式」は民謡を

表2.1 柳田・町田の分類法に基づく「文化庁方式」の日本民謡の分類 (Groemer 2002)

I. 労作唄	1. 農産加工に関する唄 2. 林業に係る唄 3. 漁業に関する唄 4. 交通運搬に関する唄 5. その他の唄
II. 祭歌・祝歌	1. 祭事に関する歌 2. 祝儀に関する歌 3. 行事に関する歌
III. 踊歌・舞歌	1. 神楽舞歌 2. 盆踊唄 3. その他の踊歌・舞歌
IV. 祝福芸	
V. 語り物	
VI. 子守唄	
VII. わらべ唄	1. あそび唄 2. 自然の唄 3. 行事唄など、他のわらべ唄

唄う場面と目的に応じて分類しており、とりわけ「労作唄」「神事唄」「芸事唄」の3つだけで全体の90%を占める(Groemer 2002)。

日本民謡は、わらべ歌、民俗芸能とともに民俗音楽に分類される音楽である。日本伝統音楽の系譜に照らし合わせてみると、民俗音楽は一見すると芸術音楽や仏教音楽とは異質であり、日本音楽の特徴を十分に反映していない音楽ジャンルと思われるだろう。しかし、音楽学者の樋口昭氏によれば、わらべ歌は、子どもたちが遊びの中で創造・伝承した歌であり、民謡は、歌うことを主眼として確立され、個人差・地域差・年代差を認めた大人の歌である。また、民俗芸能は、祭礼における神仏への奉納という形式で地域社会の中で伝承された音楽である(小島 1982)。したがって、民俗音楽の様式には、日本音楽の基本的な要素が具体的な旋律として残っており、とりわけ伝承性や郷土性を条件に含む日本民謡を分析することで、音楽の変遷過程や普遍性を解明する手掛かりが得られる可能性が高いと考えた次第である。

以上の理由から、日本音楽の中から一般的に主流とされる舞台音楽や仏教音楽ではなく、日本音楽のプリミティブな要素をもつ民俗音楽の日本民謡を直接分析することで、日本音楽の地域性を捉える。

3. 『日本民謡大観』

本研究ユニットでは、日本民謡の実際の録音ではなく、『日本民謡大観』に掲載された楽譜資料を分析した。『日本民謡大観』は、音楽学者の町田佳聲氏の協力のもとに1944年から1992年までの約半世紀にわたって全国津々浦々の民謡を採集した記録資料である。巻数は全9巻(1990年代に刊行された琉球の民謡を採集した4巻を合わせれば全13巻)である。各巻は、表2.2の順に日本列島の地域別に刊行された。

『日本民謡大観』に収録された資料は、東洋音楽学会から提供された録音資料を採譜したものであり、掲載楽曲は、都道府県ごとに整理されたうえで、子守唄、農作に関する唄、臼唄、建築土木に関する唄、その他の産業に関する唄、山の仕事唄、道中唄、海の仕事唄、祝唄、御座敷唄、さわぎ唄、年中行事唄、盆踊唄、その他の踊唄、の順に並ぶ。また、掲載楽曲の歌詞と、コンテンツ情報として採録地(採譜された当時の地名・旧国名)と日付が記載されている。

楽曲の選別基準は、民謡の歌われていた職業に基づくものであり、明確なジャンル区分が設けられているわけではなかったという見解がある(Groemer 2002)。そのため、複数の職業にまたがる仕事唄の存在や、歌詞と旋律の発生起源が不明な楽曲も少なくない。

4. 『日本民謡大観』の研究上の問題点と意義

『日本民謡大観』を研究上利用する際に考慮しなければならない問題は、主に3点あると筆者は考える。

第1の問題は、民謡がもつ旋律の多様性が失われることである。五線譜は、近代西洋音楽を記録するために開発された合理的なシステムである。日本民謡に限らず、プリミティブな音楽は、常に同一形式で歌われるわけではなく、環境に左右されながら演奏形態が変化する。そのため、民謡を採譜することは、民謡のもつ多様な旋律を一意的に固定して記録することになる。

第2の問題は、採譜者によって記録の隔りがあることである。旋律を一意的に固定することを容認しても、採譜者の評価基準(着眼点)は異なるため、西洋音

表2.2 『日本民謡大観』の刊行年

巻	地域(篇)	刊行年
1	関東	1946
2	東北	1952
3	中部(北陸地方)	1955
4	中部(中央高地・東海地方)	1960
5	近畿	1966
6	中国	1969
7	四国	1973
8	九州(北部)	1977
9	九州(南部)	1980

楽の12音律の半音よりも狭い微小音程、ユリなどの装飾音がどれくらい譜面上に反映するのかは、採譜者によって異なる。本来、五線譜は西洋音楽のための記録媒体であることから、この問題は民謡を五線譜上に記録した時点で避けられない宿命にある。

第3の問題は、旋律に社会的影響が多分に含まれてしまうことである。上述のように、『日本民謡大観』は約半世紀にわたって刊行された記録資料である。刊行中には、第二次世界大戦、1960年代・1970年代の高度経済成長があり、歌い手は、鉄道車両の普及に伴う交通網の発達、都市環境の施策による物流ネットワークの変化などの社会的影響に曝されており、その間に採録された楽曲の旋律の特徴がいくらか変化している可能性が考えられる。

しかしながら、本研究ユニットの目的を達成するためにあえて『日本民謡大観』に掲載された楽譜を用いる理由は、膨大な数の民謡を聴取しながら一貫した評価を下すことが現実的に不可能であり、一定水準以上の質と量を兼ね備えた記録資料に頼らざるを得ないためである。また、日本民謡に関する他の記録資料は、全国的に統一された条件下で整理されていないため、全国的規模の分析に向かないことも理由に付け加えなければならない。

このような資料の限界を承知した上で、『日本民謡大観』の楽譜資料を研究上利用することの利点は、次の2点に集約される：

- 日本民謡に関するデータ量が豊富であること
- 日本民謡に関する一定水準以上の質が保たれていること

日本民謡の楽譜集は、目的や用途にあわせて多々



図2.1: (a)陰音階の譜例と (b)陽音階の譜例

出版されている。しかし、日本民謡を計量的に分析するためには、データ量が豊富であり、かつ、一定水準以上の質が保たれている必要がある。その点で『日本民謡大観』に掲載された楽曲は、全国的規模のデータ量として申し分がなく、かつ、日本民謡に関する高い知識をもった採譜者や校正者が資料を丹念に選別していることから、音楽学者の小島美子氏は「現状で最も信頼のおける日本音楽の資料」と評している(小島1992)。

5. 掲載楽譜の特徴

『日本民謡大観』の編者は、採取した楽曲を大きく2種類に分けて掲載している。この分類は、第1巻刊行当時に主流であった日本音楽の音階論(陰音階と陽音階)に立脚している(音階論については、次章「日本音楽の基礎理論と計算機上の処理」で概説する)。

図2.1(a)および(b)は、『日本民謡大観』の編者らによってそれぞれ陰音階と陽音階と判断された楽譜である。楽曲の採録時に陰音階の旋律と判断された場合には、調号が \flat 3つの調(西洋音楽ではハ短調または変ホ長調)に移調した上で掲載し、陽音階の旋律と判断された場合には、調号が付かない調(西洋音楽ではイ短調またはハ長調)に移調した上で掲載する方針がとられている。

例えば、ある歌い手の旋律の正確な音高を記録するには、本来ならば調号が \sharp 4つの調(西洋音楽では嬰ハ短調またはホ長調)もしくは、各音符に臨時記号の \flat か \sharp を付けて記録する必要があるとする、『日本民謡大観』の掲載楽譜では、これを採譜者あるいは編者が陰音階または陽音階と判断し、旋律を移調した上で調号を使い分けて記録している。そのため、『日本民謡大観』の掲載楽譜から歌い手の正確な音高(絶対音高)を辿ることは極めて難しい。したがって、各旋律の音

高は、相対的な関係として記録されている。

6. 日本民謡の電子データ化

『日本民謡大観』に掲載されている楽曲は、各地域の生活と密接に関連した種目が豊富にあり、地域によってその特色は多種多様である。表2.3は、『日本民謡大観』全9巻の目次に掲載された種目を集計した楽曲数上位20位の結果である。ただし、表中の数値はあくまでも『日本民謡大観』の目次に出現した曲数であり、実際の譜例に複数の変型(variant)をもつ比較譜も1曲として集計していることを断っておく。

掲載楽曲数が100曲以上の種目は、盆踊唄、田植唄、地形唄、田草取唄、摺白唄、子守唄である。盆踊唄(1位)と祝唄(17位)を除く他の種目は、すべて労働に関する内容である。

さらに、掲載されている種目の巻数を集計することで、地域による種目の偏りが明らかになる。第9巻にあたる『九州(南部)・北海道編』は、九州地方南部の楽曲を掲載した後に北海道の楽曲が掲載されている。ここでは、北海道編を第10巻とみなした場合の巻数を表2.3に掲載している。100曲以上掲載されている上位6種目のうち、摺白唄のみ掲載巻数が少ない。以上の集計結果から、盆踊唄、田植唄、地形唄、田草取唄、子守唄の5種目は、全国的規模で網羅的に収録されたと見做すことができる。

7. 日本民謡の計量分析

筆者は日本民謡の地域性を明確にするために、これまでに全国的規模の統計的分析を実施してきた。「地域研究における民族音楽の情報学的分析の新たな指針」(河瀬 2015)の中で触れている内容と一部重複するが、本研究ユニットが実施した先行研究の位置付

表2.3 『日本民謡大観』全9巻の
掲載楽曲数の種目別上位20位

順位	種目	楽曲数	掲載巻数
1	盆踊唄	546	9
2	田植唄	383	9
3	地形唄	279	9
4	田草取唄	200	10
5	摺白唄	196	5
6	子守唄	139	9
7	麦打唄	89	7
8	搗臼唄	86	5
9	山行唄	85	8
10	酒屋唄	82	4
11	酒造唄	81	6
12	舟唄	74	5
13	茶作唄	72	6
14	木挽唄	63	9
15	馬子唄	62	7
15	製糸唄	62	6
17	祝唄	60	4
18	糶摺唄	58	4
19	機織唄	43	6
20	長持唄	42	7

けとなるため、ここに日本民謡の地域情報学的研究 (Kawase and Tokosumi 2010)を概説する。

この調査では、人の音楽認知メカニズムの解明に寄与することを目標として、日本民謡の音楽的特徴——旋律に内在する法則——を科学的に捉え、その上で日本民謡の地域性について客観的な判断指標を示すための比較実験を次の3点の方法によって試みた：

- 日本民謡の楽曲データを電子データ化すること
- 旋律中に繰り返し出現するパターンを抽出し、音楽的特徴を決定すること
- 決定した音楽的特徴に基づき、日本民謡の地域性を統計的に明らかにすること

分析には、前述の『日本民謡大観』に最も多く採録された上位5種目——盆踊唄546曲、田植唄383曲、地形唄279曲、田草取唄200曲、子守唄139曲、そしてそれらの変型 (variant)247曲——の全楽曲を選出・電子データ化した。この楽曲群に対して、確率論・情報理論・言語理論に基づく解析手法を適用することで、旋律中に繰り返し出現する音程推移パターンを抽出した。そして、抽出したパターンの性質を読み解くことによって、日本民謡の全国的規模での音楽的特徴を特定した。この研究から得られた日本民謡の音楽的特徴は、次の3点に要約できる：

- 日本民謡では、一音一音の動きのほとんどすべて

(分析データの97.04%) が完全4度音程を超えない狭い音程範囲内に収まること

- 旋律を形成する最も重要なパターンは、フレーズの最初の音に戻る回帰型のパターンと、フレーズ全体で完全4度音程を形成するパターンの2つであること
- いずれのパターンも音楽学者の小泉文夫氏が提唱する4種のテトラコルドを形成しようとする力学が働くこと

8. 日本の地域区分

続いて、日本本土の民謡の地域性を検証するために、使用した楽曲データを地域ごとに整理しなおし、各地域の音楽的特徴の類似性を計る分析を行った。具体的には、上述の3点目に要約した小泉氏の4種のテトラコルドを形成する音程推移パターンの出現確率を地域ごとに算出し、地域間の類似性を多変量解析の階層的クラスター分析 (hierarchical cluster analysis) によって明らかにした。階層的クラスター分析とは、分析する対象同士を定量的な距離尺度に落とし込み、類似する——距離の概念で言い換えれば近い——対象同士を段階的にグループにまとめ上げていく手法である。

ところで、日本列島の地域区分には、統一の見解がないため、日本列島の地域研究を行う際に、どのような地域区分を採用すればよいのかという問題がある。筆者は、2010年に日本民俗音楽学会の大会企画として「日本の楽器の分類」に関するシンポジウムを運営したことがある。各地域の楽器の特色について登壇者が解説し、最後に総合討論を行うという段取りであったが、地域区分に対する質問や討議が幾度となく行われた。行政区画、地理学的特徴、気候、交通事情、文化・歴史、選挙区などの地域区分の基準が取り上げられたが、限られた時間の中で最終的に結論が得られなかったと記憶している。なお、『日本民謡大観』では、北から南の順に北海道篇、東北篇、中部篇(北陸地方)、関東篇、中部篇(中央高地・東海地方)、近畿篇、中国篇、四国篇、九州篇(北部)、九州篇(南部)の構成であることや、都道府県別に見出しを作成していることから、『日本民謡大観』の編者らは行政区画に合わせて地域区分をしていたことが分かる。

日本本土の民謡の地域性を検証するための比較分析では、地理学において一般的に用いられている「八

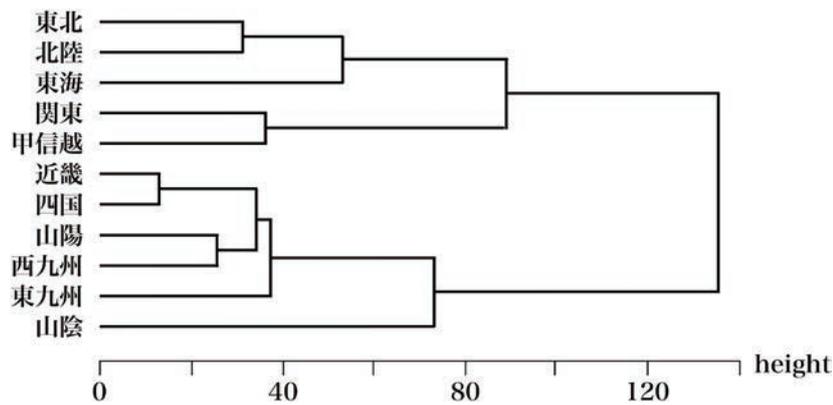


図2.2 階層的クラスター分析による11地域の分類結果 (Euclid距離とWard法を使用)

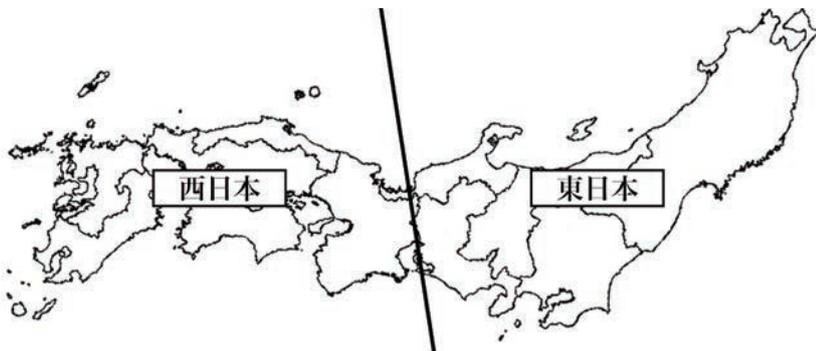


図2.3 樹形図を地図上にプロットした結果 (高さ100でクラスターを二分した場合)

地方区分」——北海道, 東北地方, 関東地方, 中部地方, 近畿 (関西) 地方, 中国地方, 四国地方, 九州・沖縄地方——に基づき, 最終的に日本列島を11地域へ区分した (詳細はKawase and Tokosumi 2010を参照). この11区分に対して小泉氏のテトラコルドを形成する音程推移パターンの出現確率を求め, これらの値を用いて地域の比較分析を実施した. 図2.2は, その分析結果の樹形図 (dendrogram) である.

樹形図の低い階層 (例えば高さ10) に着目すると, 地図上の隣接した地域同士がグループを形成している様子が確認できる. さらに高い階層 (例えば高さ100) に着目すると, 地図上の近畿地方を境目に日本列島が東西に二分される様子が確認できる (図2.3). この結果を換言すれば, 小泉氏のテトラコルドを形成する音程推移パターンの使用傾向に着目した場合に, 日本列島が大きく東日本と西日本に二分されることになる.

民俗学者の宮本常一氏は, 田楽——豊穰祈願や魔事退散祈願を目的とする伝統芸能——の調査を通じて東日本と西日本の習俗の差異を論じている (宮本 1967). 日本列島の11地域の分類実験に使用した楽曲データの約半分は, 田楽と密接な関係にある盆踊唄と

田植唄であった. その影響が少なからずこの分類結果に影響している可能性はある.

方言地理学の分野では, 方言の地域差が東西に二分されるという調査結果があり, 上述の日本民謡の分類結果と一致するところがある. しかし, 方言学者の柴田武氏は, 言語地図の境界線の機能について, 方言の地域差を明確に示すものであるが, 必ずしも行政区画と一致するものではなく, 情報伝達の粗密によって生じた地域差であるという見解を残している (柴田 1988).

日本民謡の地域差がこの分類実験の通りに東西に二分されるとしても, その境界線はどこにあり, どのような経緯から差異が生じたのか, という疑問は解消されていない. 東西の境界線をより精緻に検証するためにも, 基礎データを増強し, 現代の行政区画ではない藩や令制国 (旧国) 単位で分類実験を行う必要があるという教訓をKawase and Tokosumi (2010) の調査を通して得た. これは本研究ユニットの実施課題として引き継がれている.

参考文献

- Groemer, Gerald. (2002), “Japanese Folk Music,” *The Garland encyclopedia of world music East Asia: China, Japan, and Korea*. Routledge, pp.599-606.
- Kawase, Akihiro and Akifumi Tokosumi (2010) , “Regional Classification of Japanese Folk Songs: Classification Using Cluster Analysis,” *Kansei Engineering International Journal* 10 (1), pp.19-27.
- 河瀬彰宏 (2015)「地域研究における民族音楽の情報学的分析の新たな指針」, 福田宏・池田あいの編『国民音楽の比較研究に向けて——音楽から地域を読み解く試み——』. CIAS Discussion Paper No.49, pp.57-64.
- 小島美子 (1982)『日本音楽の古層』. 春秋社.
- 小島美子 (1992)「日本民謡の地域性研究に向けての試論(その2)——日本民謡の日本海側と瀬戸内海側」『民俗音楽研究』12, p.2-12.
- 宮本常一 (1967)「民俗から見た日本の東と西」『宮本常一著作集』第3巻『風土と文化』未来社, pp. 81-103
- 柴田武 (1988)『方言論』平凡社.

Chapter. 3

日本音楽の基礎理論と計算機上の処理

河瀬 彰宏

1. 日本音楽の基礎理論

本章では、議論に対する準備として、日本音楽に関する古典を参照しながら、その基礎理論——音と音の相互関係を体系化した基礎的な考え——について概説する。また、これを計算機上で処理する際にどのような考え方を導入したのかもあわせて紹介する。なお、日本音楽の基礎理論に関する古典として次の文献を参照している：

- 中根元圭『律原發揮』(梅村弥白 1692)
- 上原六四郎『俗楽旋律考』(岩波文庫 1895)
- 兼常清佐『日本の言葉と唄の構造』(岩波書店 1938)
- 小泉文夫『日本伝統音楽の研究』(音楽之友社 1958)
- 柴田南雄『音楽の骸骨のはなし』(音楽之友社 1978)
- 東川清一『日本の音階を探る』(音楽之友社 1990)

2. 三分損益法と十二律

日本音楽は、古代中国から伝来した文化を背景にもち、それを独自に昇華した音楽である。日本音楽は、奈良時代に大きな変革がなされたものの、楽曲の演奏面ばかりが重視されてきたため、理論面が体系化されたのは明治以降のことであった。江戸期までに発展した日本音楽の理論の根底には、古代中国の音階論があったことになる。

古代中国では、ある基準音から様々な協和音程を生成する「三分損益法」が考案された。三分損益法を11回繰り返すことで基準音を含めた「十二律」(音律)を得る。これは、原理的に完全5度音程を基準として音律を決定する方法であり、具体的には、次の手順を繰り返すことにより、器楽曲に用いる5音、7音、12音を決定していた。

はじめに基準となる絃や管の長さを三等分した長さの一つを取り除くことによって、完全5度上の音程(周

波数比が3:2の音程)が得られる(三分損一)。続いて、この長さをさらに三等分した長さの一つを加えることによって、完全4度下の音程(周波数比が4:3の音程)、すなわち、基準音から長2度上の音程(周波数比が約9:8の音程)が得られる(三分益一)。この三分損一と三分益一を交互に繰り返すことによって、基準音の長6度上の音程や長3度上の音程を順次得る(三分損益)。この操作を11回繰り返すことによって、基準音から12個の音高「十二律」を得ることができる(Yingshi 2002)。

しかし、三分損益法のアルゴリズムでは、基準音の数オクターヴ上の音高を正確に得ることはできず、理論値と実際の音程との間に僅かな誤差が生じてしまう。例えば、三分損益法を11回繰り返した場合には、理論的に基準音の7オクターヴ上の音程を得るはずだが、実際の7オクターヴ上の音程との誤差は、完全5度音程(周波数比が3:2の音程)を12回重ねた音程とオクターヴの音程(周波数比2:1)を7回重ねた音程の違いから計算できる：

$$\left(\frac{3}{2}\right)^{12} / \left(\frac{2}{1}\right)^7 \cong 1.01364.$$

この誤差は、明代の音楽理論家が平均律を考案するまで解決されなかった。

古代中国では、この手順から得た各音高に固有の音名——黄鐘、林鐘、太簇、南呂、姑洗、応鐘、蕤賓、大呂、夷則、夾鐘、無射、仲呂、黄鐘——が付けられた(図3.1)。これに対して、日本では、中国と異なる音名——壹越、黄鐘、平調、盤渉、下無、上無、鳧鐘、断金、鸞鏡、勝絶、神仙、双調、壹越——が付けられた。

三分損益法から得た最初の5音と7音から作られる音階を「五声」「七声」という。五声の音名は、低い音高から高い音高にかけて宮、商、角、徵、羽とされ、「七声」の音名は、宮、商、角、変徵、徵、羽、変宮と付けられた。



図3.1 三分損益法から得られる各音程(五線譜への近似表現)

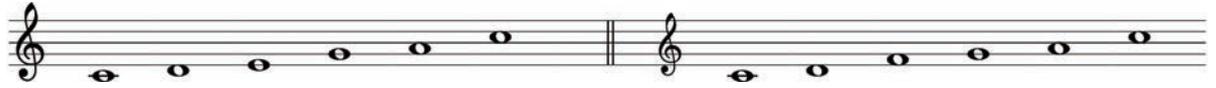


図3.2 呂音階と律音階の例

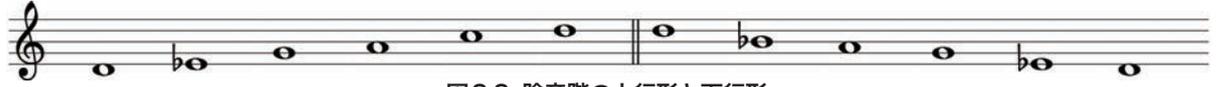


図3.3 陰音階の上行形と下行形



図3.4 陽音階の上行形と下行形

3. 律音階と呂音階

奈良時代から平安時代にかけて、中国大陸から仏教や儒学の思想とともに楽器が日本国内に輸入された。中国から輸入された主要な音階は、三分損益法によって得られる最初の5音を並び替えた五声(五音音階)、あるいは、最初の7音を並び替えた七声(七音音階)であった。しかしながら、日本ではこれらの音階を直接採用せずに「呂」と「律」に大きく分類した上で用いることにした(図3.2)。

呂音階は、古代中国の原型の五声を基準とする音階であり、音階の構成音は先頭から長2度、長2度、短3度、長2度、短3度の間隔をもつ。一方、律音階は、呂の五声の第4音(徴)を先頭にして並び替えた音階であり、音階の構成音は先頭から長2度、短3度、長2度、長2度、短3度の間隔をもつ。

重要な点は、古代中国では、ある音階から別な音階を作り出す際に、音高と音名をセットにして並び替えていたが、日本音楽では、どのような音階であっても先頭から宮、商、角、徴、羽の名前を当てたことである。そのため、日本音楽では、音階の主音(第1音)のことを「宮」と呼ぶ習慣がある。

4. 律原発揮

1692年に、和算家の中根元圭氏は、三分損益法から生じるオクターヴの誤差の問題を西洋音楽の12音平均律と同じ方法——数学的にはオクターヴ(周波数比

が2:1の音程)を12乗根に分割すること——で解決する。中根氏の理論は、日本音楽の発展に影響を与えなかったものの、日本音楽を西洋の12音平均律に近似する理論的根拠を与えたことになる。

5. 陰音階と陽音階

明治期に、物理学者の上原六四郎氏は、俗楽に使われる楽器の調律を通して、日本音楽の音階を「陰」(陰旋、都節)と「陽」(陽旋、田舎節)の2つに分類する(図3.3, 図3.4)。上原氏の調査により、日本の十二律と西洋の12音平均律の対応関係が整理され、日本音楽の旋律を五線譜上で近似的に表現できるようになる。前章で述べたように、『日本民謡大観』に掲載された楽譜資料は、この「陰」「陽」の2つの音階にあわせて主音をG音に移調し、調号を付けて区別している(e.g. 図2.1)。

しかし、日本音楽を「陰」「陽」の2つの音階だけで説明する試みには、難点があり、明治から昭和にかけて論争が繰り返される。例えば、伊沢修二氏、田辺尚雄氏、三条商太郎氏、伊庭孝氏らが様々な音階と分類法を提案している。この経緯については、『合本 日本伝統音楽の研究』(『日本伝統音楽の研究』の復刊)の解題にまとめられている。

6. テトラコルド理論

第二次世界大戦以降に、音楽学者の小泉文夫氏は、日本音楽のフィールドワークを通して、オクターヴ内に2つ以上の終止音が存在することを発見する。小泉

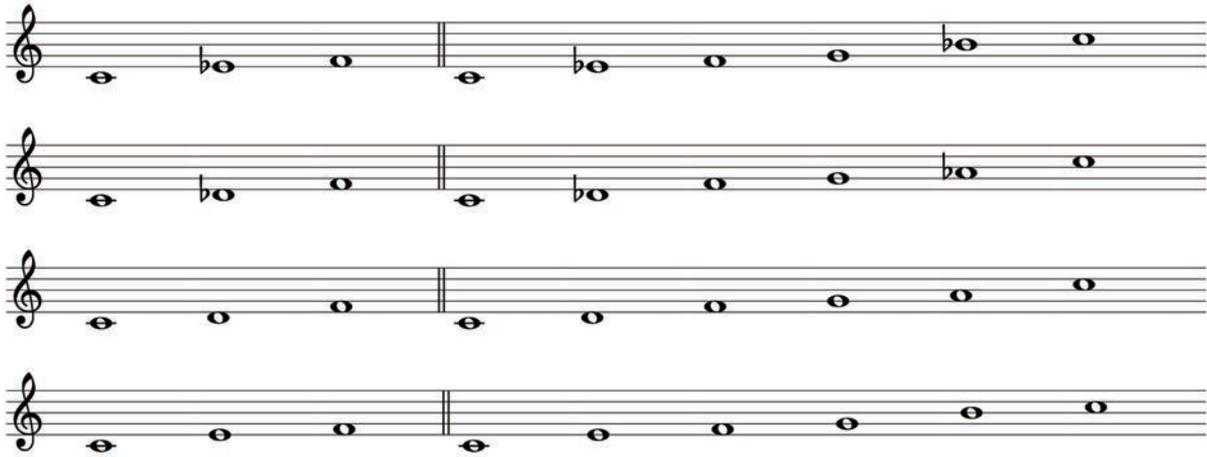


図3.5 小泉文夫のテトラコルドとその音階の例

氏はこの終止音を西洋音楽の概念と区別するために核音(Kerntone; nuclear tone)と名付ける。核音の特徴は次の3点にまとめられる：

- 西洋音楽のオクターヴのように、旋律の安定した骨組みを構成する役割がある
- 核音と核音の間隔は完全4度音程だけ離れている
- 核音と核音の間には1つの音高が存在する場合が多い

小泉氏は2つの核音と1つの中間音で構成される枠組みをテトラコルドと名付け、中間音の位置によって4種に分類する：

- 民謡のテトラコルド：民謡の旋律に多用される種類であり、構成音は短3度+長2度の間隔をもつ
- 都節のテトラコルド：箏や三味線の旋律に多用される種類であり、構成音は短2度+長3度の間隔をもつ
- 律のテトラコルド：雅楽の旋律に多用される種類であり、構成音は長2度+短3度の間隔をもつ
- 琉球のテトラコルド：琉球の旋律に多用される種類であり、構成音は長3度+短2度の間隔をもつ

本来のテトラコルドとは、古代ギリシャの音楽理論で「4つの弦」から作られる4音の並びを意味する。小泉氏のテトラコルド理論は4音ではなく、3音から構成されるため、日本国外では通用しない用語である。

7. テトラコルドの近親性と結合

同種のテトラコルドを積み上げることで民謡音階、都節音階、律音階、琉球音階を作ることができる(図

3.5)。

小泉氏の調査によれば、民謡音階と琉球音階はかなり近い性格があり、民謡のテトラコルドの中間音を半音だけ高めて琉球のテトラコルドに歌い直している実例が沖縄に存在するという。また、これと同様に、都節音階と律音階もかなり近い正確があり、現在では、律音階の旋律がほとんど都節化(陰旋化)しているという報告がなされている(小泉1977)。

また、異種のテトラコルドを積み上げることでいわゆる混合系の音階も作ることができる。例えば、わらべ歌《通りゃんせ》(図3.6)の旋律は、前半の構成音がD・F・Gの民謡のテトラコルド、後半の構成音がG・b A・Cの都節のテトラコルドから作られている。この場合、音階の下3音に民謡のテトラコルド、音階の上3音に都節のテトラコルドが結合することになる。このように日本音楽の音階をテトラコルドに分解して分析すると、民謡のテトラコルドまたは琉球のテトラコルドが音階の下にあり、都節のテトラコルドまたは律のテトラコルドが音階の上にある混合系がよく出現し、純粹に同種のテトラコルドの結合だけでは説明できない事例がある。

8. 骸骨理論

作曲家の柴田南雄氏は、小泉氏のテトラコルド理論の説明力の限界から、テトラコルドをさらに小さい単位——完全4度(協和関係 Konsonanz)と長2度・短2度(音程関係 Distanz)——に分解し、「骸骨図」(e.g. 図3.7)を考案する。テトラコルド理論の説明力の限界について柴田氏が指摘している箇所を以下に抜粋する。



図3.6 わらべ歌《通りゃんせ》の譜例

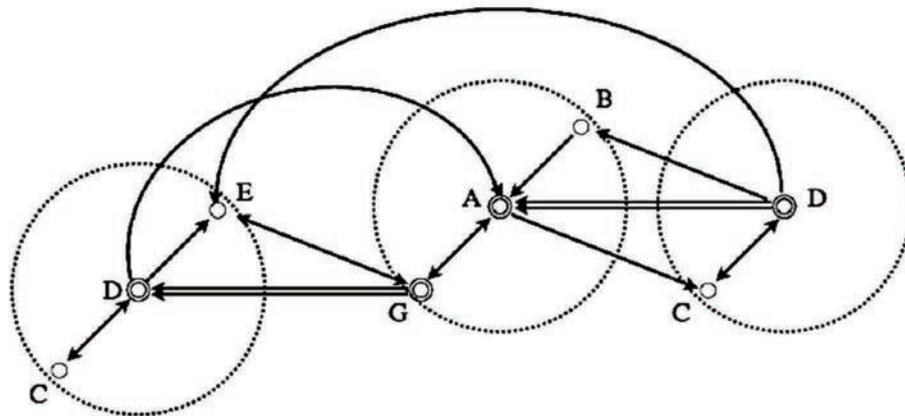


図3.7 日本国歌《君が代》から作成した骸骨図

氏の「日本伝統音楽の研究」は、じつに明哲な叙述に終始していて、日本民謡についてこれ以上モノを考える勇気を失わせる効果(?)をもっている。(……中略……)しかし遠慮なくいうと、わたくしにとっては逆にいくら疑問の残る個所もある。そういう個所では、ひじょうに簡単な、何でもない音楽的事象が複雑に解釈されているように、わたくしには思える(……中略……)。一般的にあって、1曲の民謡が1種類のテトラコルドのみから成り立っているのではない以上、この分類整理の方法で1曲全体の分析を強行しようとする、かえってひじょうに複雑な説明を必要とすることになる。そうであるなら、1曲全体の音組織の構造を、より簡単明瞭に把握できる方法が別に考えられないものであろうか。(柴田南雄(1978)『音楽の骸骨のはなし』, pp. 28-30)

骸骨図の要点は次の3点にまとめられる：

- 旋律の各音高を点^{ノード}、音高間の推移を線^{エッジ}としてネットワークを構築する
- 完全4度音程は二重線で協調することで核音の位置を明示する
- 核音を中心とした音高の領域^{テリトリー}を円で図示する

骸骨図は、時間の要素が捨象されるため、元の旋律を再現することができない。しかし、楽譜や波形では認識できない音高の動きを俯瞰して把握できる利点がある。

9. 東川清一の音階論

1990年代に入り、音楽学者の東川清一氏は、日本音楽の音階論が一類一旋法——1種類につき旋法(音階)が1つ——に規定されている点に問題があると批判し、次の特徴をもつ音階論を提唱する：

- 音階を「陽類」「陰類」「混合類」「琉球類」の4類に分ける(4つの類)
- 音階を構成する5音はどれも主音(宮音)になる可能性がある(5つの旋法)
- 音階の主音は12音平均律のどれにもなる可能性がある(12の均または調)

以上のことから、東川氏の音階論では理論的に4種×5旋法×12音=240通りの音階が存在することになる。表3.1は、東川氏の『日本の音階を探る』(1990)から引用した日本の伝統音楽の音階一覧である。ただし、東川は音名に{ラ、シ、ド、レ、ミ、ファ、ソ}を使用しているところを、本ペーパーでは音名を英語の{A, B, C, D, E, F, G}に統一している。また、表3.1左欄は、主音に対して各音階の音高が巡回(cyclic)するように並べており、右欄は、4種×5旋法=20通りの音階を比較しやすいように主音をすべてA音に揃えた場合の音階を並べている。

これまで取り上げた日本音楽の各種音階論を東川氏の音階論と対応させると次のように整理することができる：

表3.1 東川清一の音階論(音名を一部変更)

<陽類>	旋法名を主音とする場合	Aを主音とする場合
C旋法	C D E G A C	A B #C E #F A
D旋法	D E G A C D	A B D E G A
E旋法	E G A C D E	A C D F G A
G旋法	G A C D E G	A B D E #F A
A旋法	A C D E G A	A C D E G A
<陰類>	旋法名を主音とする場合	Aを主音とする場合
E旋法	E F A B C E	A bB D E F A
F旋法	F A B C E F	A #C #D E #G A
A旋法	A B C E F A	A B C E F A
B旋法	B C E F A B	A bB D bE G A
C旋法	C E F A B C	A #C D #F #G A
<混合類>	旋法名を主音とする場合	Aを主音とする場合
E旋法	E F A B D E	A bB D E G A
F旋法	F A B D E F	A #C #D #F #G A
A旋法	A B D E F A	A B D E F A
B旋法	B D E F A B	A C D bE G A
D旋法	D E F A B D	A B C E #F A
<琉球類>	旋法名を主音とする場合	Aを主音とする場合
C旋法	C E F G B C	A #C D E #G A
E旋法	E F G B C E	A bB C E F A
F旋法	F G B C E F	A B #D E #G A
G旋法	G B C E F G	A #C D #F G A
B旋法	B C E F G B	A bB D bE F A

- 呂音階:陽類C旋法
- 律音階:陽類G旋法
- 陰音階(上行形):混合類E旋法
- 陰音階(下行形):陰類E旋法
- 陽音階(上行形):陽類D旋法
- 陽音階(下行形):陽類G旋法
- テトラコルドから作られる民謡音階:陽類A旋法
- テトラコルドから作られる都節音階:陰類E旋法
- テトラコルドから作られる律音階:陽類G旋法
- テトラコルドから作られる琉球音階:琉球類C旋法

なお、小泉学派の研究者らは、東川氏の音階論がテ

トラコルド理論(核音の概念)に立脚していないという理由から、日本音楽の考察には適していないと批判しており、ほとんど使用していない。

参考文献

- 小泉文夫(1977)『日本の音』. 青土社.
- Yingshi, Chen.(2002), "Theory and Notation in China," *The Garland encyclopedia of world music East Asia: China, Japan, and Korea.* Routledge, pp.115-126.

Chapter. 4

分析手順

河瀬 彰宏

1. 分析の方針

本研究ユニットでは, Kawase and Tokosumi (2010) において実現できなかった集落間の楽曲の伝播・変遷までを精緻に把握できるように, データの拡張とともに, 令制国単位での比較を行う。そこで本ペーパーでは, 『日本民謡大観』に収録されている全楽曲を対象とした情報学的分析基盤の構築と計量的分析の実現に向けて, 九州地方(西海道)および中国地方(山陰道・山陽道)の全掲載楽曲を対象とした分析を行う。具体的には, 次の3点を実施する:

- 『日本民謡大観』に掲載されている九州地方および中国地方の全楽曲を電子データ化すること
- 各楽曲の旋律から音高情報および音程情報を抽出し, その傾向を令制国単位, 地域単位で集計すること
- 東川清一氏の音階論に基づく4種×5旋法=20通りの音階の集計を実施すること

2. 楽曲データの構造化

本ペーパーでは, 楽譜資料に記述された旋律を MusicXML形式に電子データ化し, 計算機を用いて音符情報を抽出していく。MusicXMLは, 西洋音楽の楽譜標記に特化したXML形式のファイルフォーマットであり, 2000年にMichael Goodによって開発されて以降, 現在に至るまで様々な楽譜制作ソフトウェアと互換性をもつ。楽曲情報をMusicXML形式に保存する利点は, 音高・音価・小節線・装飾記号などの楽譜情報を構造化して記述でき, さらに計算機上のプログラムを使ったデータの一括処理を行うことが適うため, 目的の情報を抽出・集計できる点にある。

MusicXMLでは, <note>(音符)要素が楽譜上の旋律に関する情報をすべて受けもつ。この<note>要素は, (a) 音符を示す場合, (b) 休符を示す場合, (c) 装飾音を示す場合の3通りに区別できる(図4.1)。

(a) 音符を示す場合は, <note>要素の内部に<pitch>(音高要素, <duration>(音価)要素, <voice>(声部)要素が入る。さらに, <pitch>要素は<step>要素, <alter>(臨時記号)要素, <octave>要素を内包しており, これ

<pre><note> <pitch> <step>A</step> <alter>-1</alter> <octave>4</octave> </pitch> <duration>2</duration> <voice>1</voice> </note></pre>	<pre><note> <rest/> <duration>2</duration> <voice>1</voice> </note></pre>	<pre><note> <grace/> <pitch> <step>A</step> <alter>-1</alter> <octave>4</octave> </pitch> <voice>1</voice> </note></pre>
<pre>· <note> · <pitch> · <step> · <alter> · <octave> · <duration> · <voice></pre>	<pre>· <note> · <rest> · <duration> · <voice></pre>	<pre>· <note> · <grace> · <pitch> · <step> · <alter> · <octave> · <voice></pre>
(a)	(b)	(c)

図4.1:分析時に抽出したMusicXMLの主要要素とその階層関係
(a) 音符の構造 (b) 休符の構造 (c) 装飾音の構造

らの情報を統合することによって、楽譜上の音高を把握することができる。

(b) 休符を示す場合は、<note>要素の内部に<rest> (休符) 空要素、<duration>要素が入る。計算機では休符位置を特定する際に、空要素である<rest>要素をマッチングする処理を行えばよい。

(c) 装飾音を示す場合は、<note>要素の内部に<grace> (装飾音) 空要素、<pitch>要素が入る。<pitch>要素は(a)と同様に<step>要素、<alter>要素、<octave>要素を内包するため、音高を把握することは可能であるが、<duration>要素が存在しないため、装飾音の持続時間を抽出することができない。

本ペーパーに記す分析では、これらの階層関係に注意しながら<pitch>要素と<duration>要素の集計を行う。MusicXMLの構文解析(parser)には、Python 2.5以降に標準搭載のElementTreeライブラリを導入したスクリプトを記述して用いた。

3. 音程情報の記号化

各楽曲のXMLデータから<pitch>情報を抽出する際に行った処理を解説する。前述のように、<pitch>要素は<step>要素、<alter>要素、<octave>要素から構成されている。例えば、ピアノの中央C音をMusicXML形式に記録する場合は、<step>要素の中身がC、臨時記号は付かないため<alter>要素は存在せず——もし臨時記号が付けば、 $\sharp: 1$, $x: 2$, $b: -1$, $b b: -2$ をもつ(e.g. 図4.1)——、<octave>要素の中身が4となる。これらの情報を統合すると、C 4という音高になる。

任意の楽曲について、 $n+1$ 個の連続する音高が存在するとき、これを $n+1$ 個の要素からなる記号列 X として次のように表現できる：

$$X = (x_1, x_2, x_3, \dots, x_i, \dots, x_{n+1}).$$

ここで記号列 X 中の要素 x_i は、楽曲の開始位置から数えて i 個目の音高を意味する。この X 中の前後の音高の差分を考えることによって、 n 個の要素をもつ記号列 T を考えることができ、次のように表現できる：

$$T = (t_1, t_2, t_3, \dots, t_i, \dots, t_n).$$

記号列 T の要素 t_i は、記号列 X における i 個目の音高 x_i と $i+1$ 個目の音高 x_{i+1} の差分(音程)を意味する。音程 t_i は、半音の数や表4.1の名称で言い換えることができる。

ただし、ここでは x_i の各音名の集合{C, $\sharp C/b D$, D,

表4.1 半音の数と音程名称の対応関係(抜粋)

t_i	音程名称	t_i	音程名称
0	完全1度	7	完全5度
1	短2度	8	増5度, 短6度
2	長2度	9	長6度
3	短3度	10	短7度
4	長3度	11	長7度, 減8度
5	完全4度	12	完全8度
6	増4度, 減5度	13	増8度



図4.2 5つの連続する音高の譜例

$\sharp D/b E, E, F, \sharp F/b G, G, \sharp G/b A, A, \sharp A/b B, B$ をピッチクラス(pitch class)——1960年にHoward Hansonが調性音楽を分析するために導入した数値表現—— $\{0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11\}$ に対応させた上で記号列 T の要素 t_i を求めている。例えば、C 4からD 4への音程推移を求める場合には、それぞれの音高を $C4: 0+4 \times 12 = 48$ と $D4: 2+4 \times 12 = 50$ に数値化し、差分 $48-50 = -2$ のように処理する。

4. テトラコルドの抽出

小泉文夫氏の4種のテトラコルドを構成する音程推移パターンを抽出するために、記号列の中から連続した2個の記号を取り出すbigramを用いる。例えば、図4.2の5つの連続する音高から生成した記号列 T からbi-gramを取り出すと次の記号列を得る： $(-2, +2)$, $(+2, +2)$, $(+2, +3)$ の3パターンがそれぞれ1回ずつである。

小泉氏の4種のテトラコルドを構成する音程関係は、下方核音から上方核音に向かってそれぞれ次のように表現できる：民謡のテトラコルド(+3, +2)；都節のテトラコルド(+1, +4)；律のテトラコルド(+2, +3)；琉球のテトラコルド(+4, +1)。これらをテトラコルドの基本形とすれば、任意のテトラコルドは、6通りの転回形——下方核音、中間音、上方核音の各音高を開始音とする並び——を考えることができる。例えば、「ラドレ」の3音から構成される民謡のテトラコルドは、「ラドレ」「ラレド」「ドレラ」「ドラレ」「レラド」「レドラ」の6通りの並びであり、bigramの音程推移を用いてそれぞれ次のように表現できる： $(+3, +2)$, $(+5, -2)$, $(+2, -5)$, $(-3, +5)$, $(-5, +3)$, $(-2,$

表4.2 半音数で表した東川清一の音階論

<陽類>	陽類の音程関係
C旋法	C 2 D 2 E 3 G 2 A 3 C
D旋法	D 2 E 3 G 2 A 3 C 2 D
E旋法	E 3 G 2 A 3 C 2 D 2 E
G旋法	G 2 A 3 C 2 D 2 E 3 G
A旋法	A 3 C 2 D 2 E 3 G 2 A
<陰類>	陰類の音程関係
E旋法	E 1 F 4 A 2 B 1 C 4 E
F旋法	F 4 A 2 B 1 C 4 E 1 F
A旋法	A 2 B 1 C 4 E 1 F 4 A
B旋法	B 1 C 4 E 1 F 4 A 2 B
C旋法	C 4 E 1 F 4 A 2 B 1 C
<混合類>	混合類の音程関係
E旋法	E 1 F 4 A 2 B 3 D 2 E
F旋法	F 4 A 2 B 3 D 2 E 1 F
A旋法	A 2 B 3 D 2 E 1 F 4 A
B旋法	B 3 D 2 E 1 F 4 A 2 B
D旋法	D 2 E 1 F 4 A 2 B 3 D
<琉球類>	琉球類の音程関係
C旋法	C 4 E 1 F 2 G 4 B 1 C
E旋法	E 1 F 2 G 4 B 1 C 4 E
F旋法	F 2 G 4 B 1 C 4 E 1 F
G旋法	G 4 B 1 C 4 E 1 F 2 G
B旋法	B 1 C 4 E 1 F 2 G 4 B

-3). 同様にして残り3種のテトラコルドについても6通りずつの転回形が用意できるため, bigramの音程推移を用いて4種全体で $6 \times 4 = 24$ 通りの音程推移パターンを決定できる. ただし, これらはいくまでも理論的な推移パターンであり, 分析結果が示すように, 実際の歌唱ではほとんど使われないものも含まれている.

5. 音階判別

各楽曲のXMLデータから<pitch>情報を抽出した後に, 音階判別アルゴリズム(Kawase 2013)を用いて, 地域ごとに音階の集計を行う. 東川清一氏の音階論では, 音階を確定するための手順が明確に記されていないため, その仕組みは一見すると複雑に思われてしまうのではないだろうか. しかし, 原理的には各音階の音程関係を比較することによってその仕組みを把握できることを筆者は発見した.

前掲の表3.1に示した東川氏の20通りの音階について, 構成音の音高配列から音程配列を書き出すことで, 表4.2の数値ベクトルを得る.

この数値を利用し, 次の手順によって音階判別——類・旋法・宮音の決定——を行う:

(1) 楽曲中に出現する音高とその持続時間を集計し,

使用されている音数が5音以上の場合は, 持続時間の最も長い上位5音を抽出する(通常, 残りの1音ないし2音は臨時に使用される経過音的な枠割であるため捨ててしまう).

- (2) 持続時間の最も長い音高(最頻値)を音階の「宮音」(均・調)に決定する. 楽曲の構成音が5音に満たない場合は音階判別ができない.
- (3) 持続時間の長い上位5音をアルファベット音名順に並べ替え, この先頭にある音名と同名のアルファベット——厳密には先頭の音高からみて1オクターヴ上の音高——を末尾に追加した音高ベクトル P を作成する.
- (4) 音高ベクトル P の先頭から順番に後続する音高との差分(半音数)を算出した音程ベクトル I を作成する. 音程ベクトル I の並びと表4.2中の各数値の並びが一致する類を楽曲の「類」として決定する.
- (5) 上の(2)において決定した宮音が先頭に配置されるようにベクトル P の構成音を巡回させ, さらに(4)と同様に, 先頭から順番に後続する音高との差分(半音数)を算出した音程ベクトル I_c を作成する. 音程ベクトル I_c の並びと表4.2中の各数値の並びが一致する旋法を楽曲の「旋法」として決定する.

東川氏は, 町田佳聲・浅野健二編『わらべうた 日本の伝承童謡』(1961 岩波文庫)と町田佳聲・浅野健二編『日本民謡集』(1960年 岩波文庫)に収録されている合計251曲について, 手作業で音階の分類を試みている. その内訳は, 陽類が198曲(78.88%), 陰類が43曲(17.13%), 混合類が7曲(2.79%), 琉球類が3曲(1.20%)であると報告されている(東川 2007).

参考文献

- Kawase, Akihiro and Akifumi Tokosumi (2010), “Regional Classification of Japanese Folk Songs: Classification Using Cluster Analysis,” *Kansei Engineering International Journal* 10 (1), pp.19-27.
- Kawase, Akihiro (2013), “Construction and Verification of the Scale Detection Method for Traditional Japanese Music: A Method Based on Pitch Sequence of Musical Scales,” *International Journal of Affective Engineering*, 12 (2), pp.309-315.
- 東川清一(2007)『《君が代》考』. 春秋社.

Chapter. 5

九州地方(西海道)の民謡の計量分析

河瀬 彰宏

1. 九州地方の令制国

九州地方(西海道)の民謡の計量分析では、『日本民謡大観 九州編(北部)』(NHK 1977)および『日本民謡大観 九州篇(南部)・北海道篇』(NHK 1980)に掲載されている九州地方の全楽曲を対象とした。図5.1は、九州地方を令制国(旧国名)に分けた地図である。

以下では、九州地方の11ヵ国について使用楽曲に関する基本統計量、楽曲中の音高の出現頻度、音程の出現頻度、小泉文夫氏の4種×6パターンのテトラコルドを形成するbigramの出現頻度、東川清一氏の4種×5旋法の音階の出現頻度を報告する。

2. 使用楽曲の基本統計量

表5.1に令制国ごとの楽曲数に関する基本統計量をまとめる。九州地方では、1曲あたりの音数は、対馬国、大隅国、筑前国の順に多く、壱岐国、薩摩国、日向国の順に少ないことがわかる。また、統計的なばらつき具合を考慮すると、筑前国と筑後国における楽曲数の多様性が目立つ。一方で、1曲あたりの音高の持続時間(音高に音価を掛けた量)は、大隅国が圧倒的に長く、筑前国、肥前国と続き、壱岐国、対馬国、筑後国の順に短いことがわかる。統計的なばらつき具合を考慮すると、音数の場合と同様に、筑後国の多様性が目立つ。

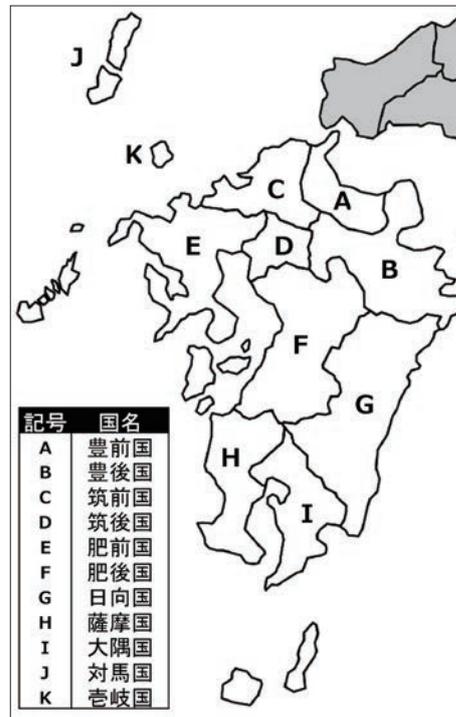


図5.1 九州地方における令制国

3. 音高の集計結果

図5.2から図5.12は、九州地方の各国で採譜された楽曲の音高情報を集計したヒストグラムである。また、図5.13は、九州地方の全楽曲の音高情報の集計結果である。

表5.1 九州地方の各国の基本統計量

	豊前	豊後	筑前	筑後	肥前	肥後	日向	薩摩	大隅	対馬	壱岐	全体	
曲数	89	99	46	29	163	150	107	77	116	11	9	896	
音高	合計	8,771	7,504	4,621	2,399	15,550	11,550	7,823	5,525	10,616	1,137	532	76,028
	平均	84.35	89.05	100.46	82.72	94.69	78.73	75.43	71.75	101.38	103.36	59.11	84.85
	s.d.	67.01	61.97	101.78	82.96	66.76	48.11	43.04	45.11	85.50	50.45	17.39	63.69
	CV	0.79	0.70	1.01	1.00	0.71	0.61	0.57	0.63	0.84	0.49	0.29	0.75
音価	合計	34,703	31,189	20,745	14,873	72,632	52,550	40,885	32,174	77,961	3,017	1,924	382,653
	平均	364.16	383.64	450.98	297.79	427.14	380.99	404.94	417.84	761.64	274.27	213.78	427.07
	s.d.	354.35	400.47	456.47	515.86	588.25	419.79	413.48	484.09	1005.85	185.94	101.48	642.44
	CV	0.97	1.04	1.01	1.73	1.38	1.10	1.02	1.16	1.32	0.68	0.47	1.50

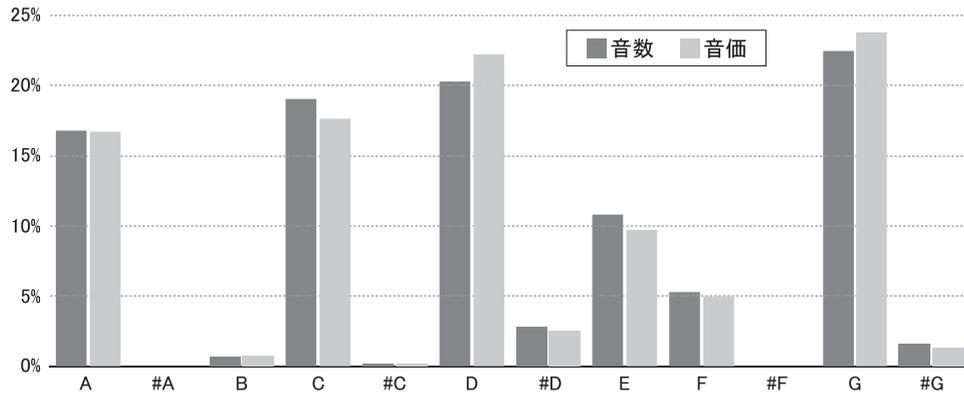


図5.2 豊前国における音高の使用傾向

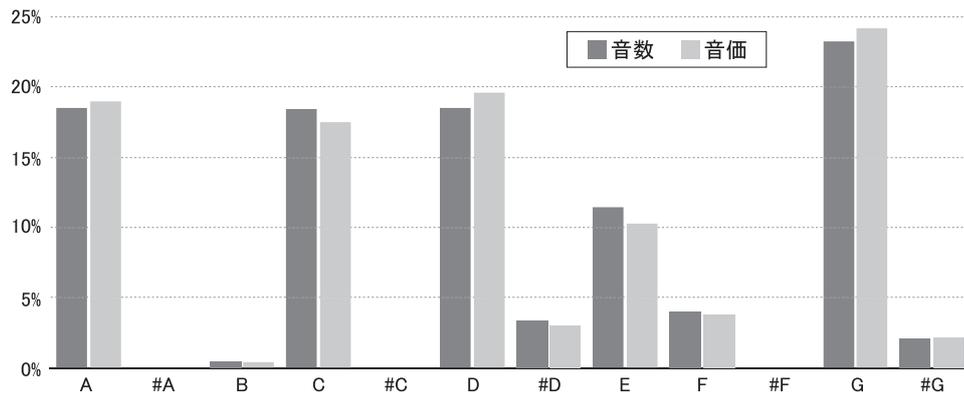


図5.3 豊後国における音高の使用傾向

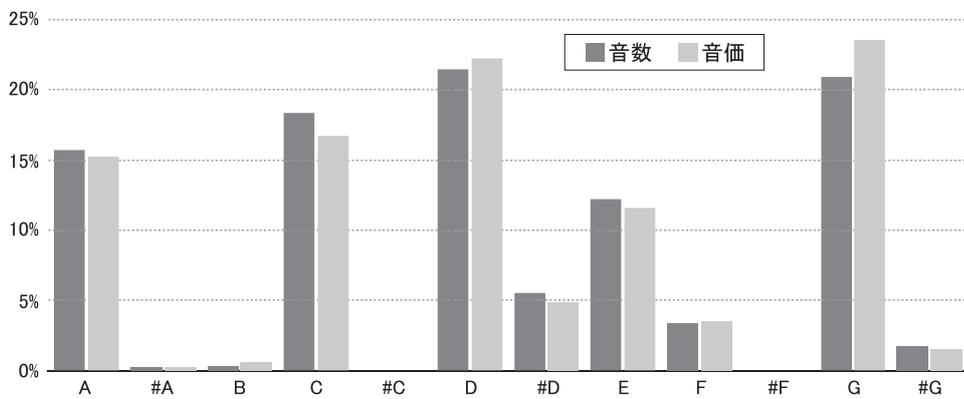


図5.4 筑前国における音高の使用傾向

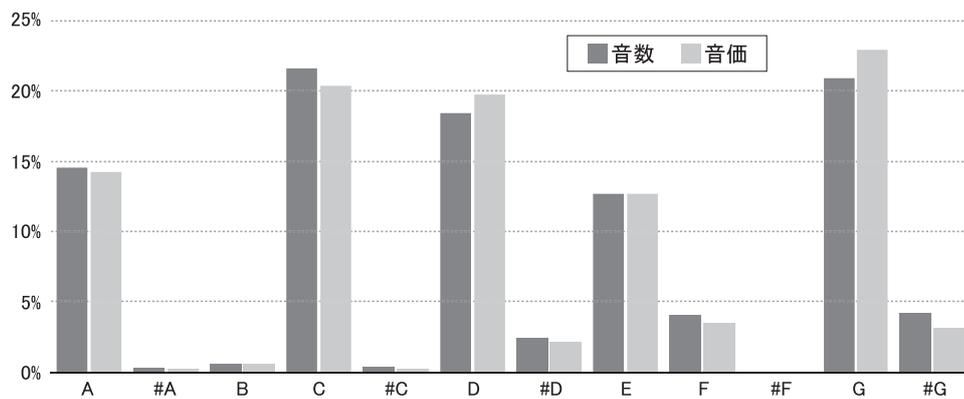


図5.5 筑後国における音高の使用傾向

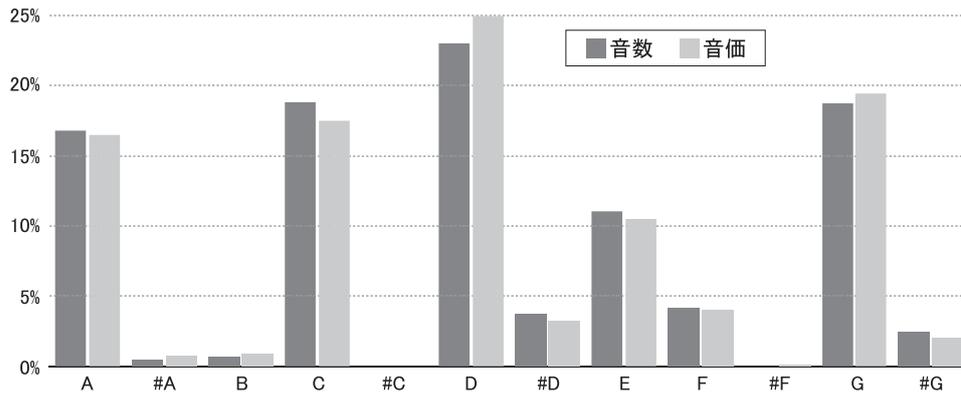


図5.6 肥前国における音高の使用傾向

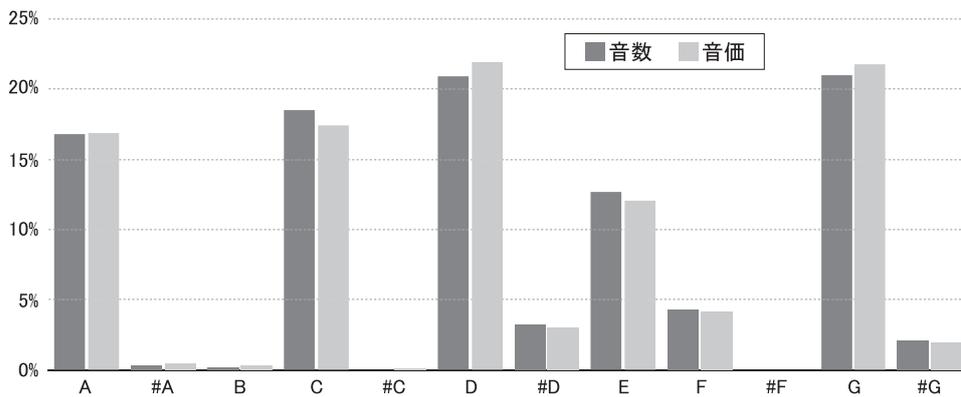


図5.7 肥後国における音高の使用傾向

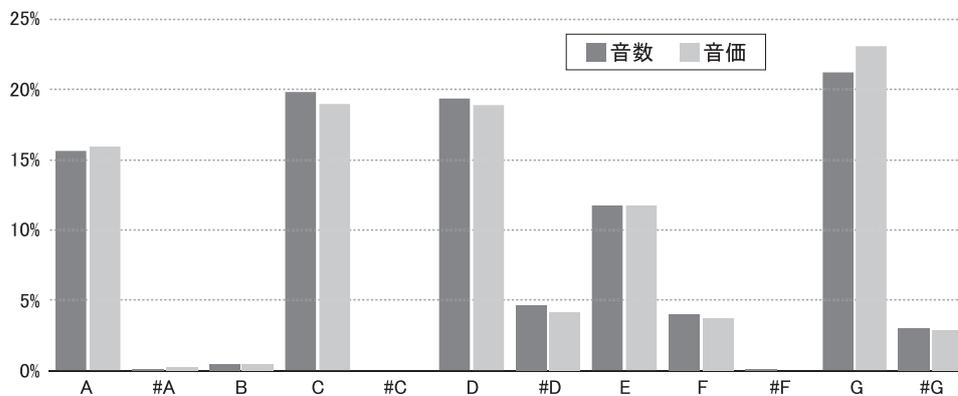


図5.8 日向国における音高の使用傾向

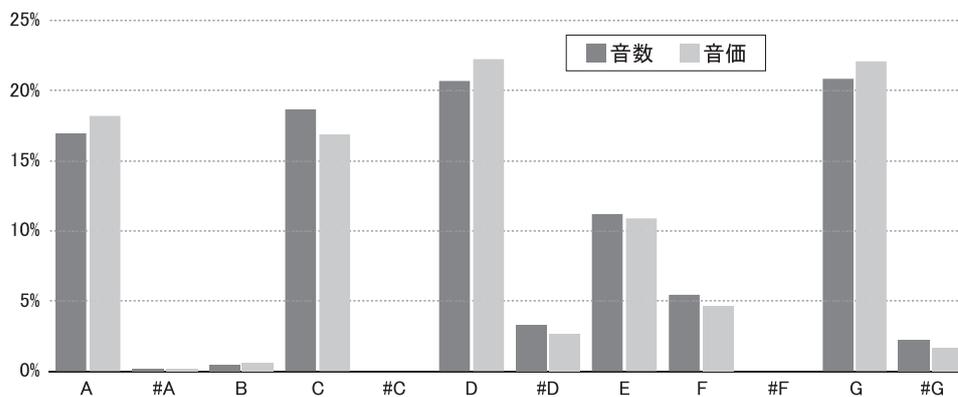


図5.9 薩摩国における音高の使用傾向

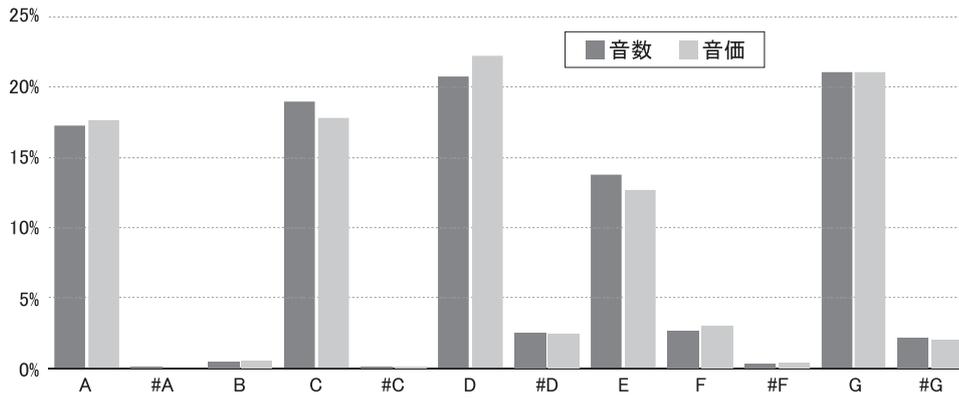


図5.10 大隅国における音高の使用傾向

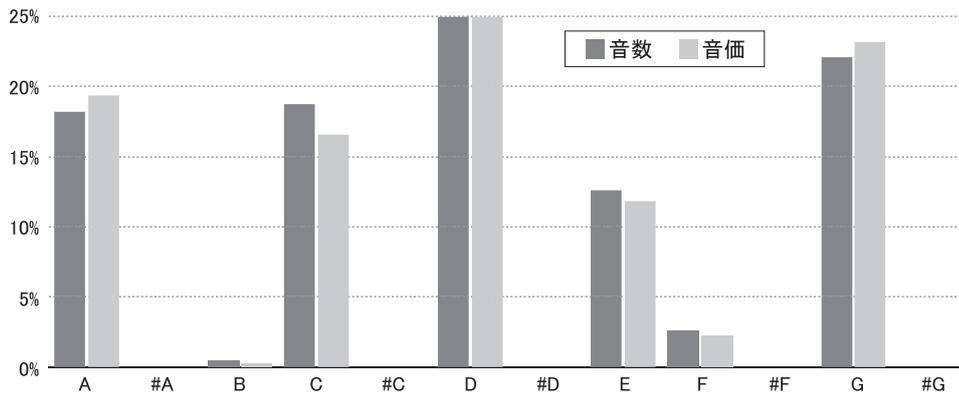


図5.11 対馬国における音高の使用傾向

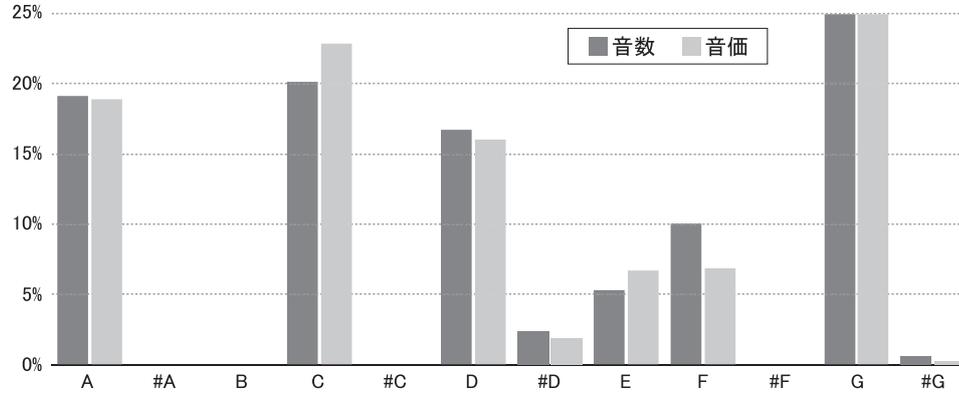


図5.12 越前国における音高の使用傾向

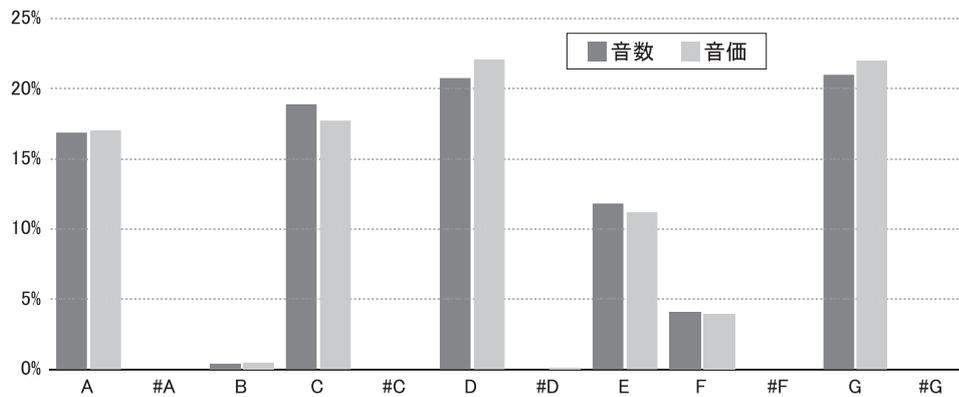


図5.13 九州全体における音高の使用傾向

4. 音程推移の集計結果

図5.14から図5.24は、九州地方の各国で採譜された楽曲の音程推移情報を集計したヒストグラムである。また、図5.25は、九州地方の全楽曲の音程推移情報の集計結果である。

九州地方全体の音程推移の出現頻度については、同度音程推移(0)の21.26%を中心に、負の音程($t_i < 0$)

が39.47%、正の音程($t_i > 0$)が39.27%をもつことから、ほぼ左右対称の分布であることが確認できる。各音程の使用傾向を確認するために、同一音程の上行形と下行形をまとめた累積度数分布を図5.26に示す。この結果から、長2度(± 2)38.69%、短3度(± 3)20.87%、完全4度(± 5)6.34%の順に使用頻度が高く、短2度(± 1)5.38%と増4度(± 6)0.18%を除くと、完全5度(± 7)よりも広い音程はほとんど歌われないことが分かる。

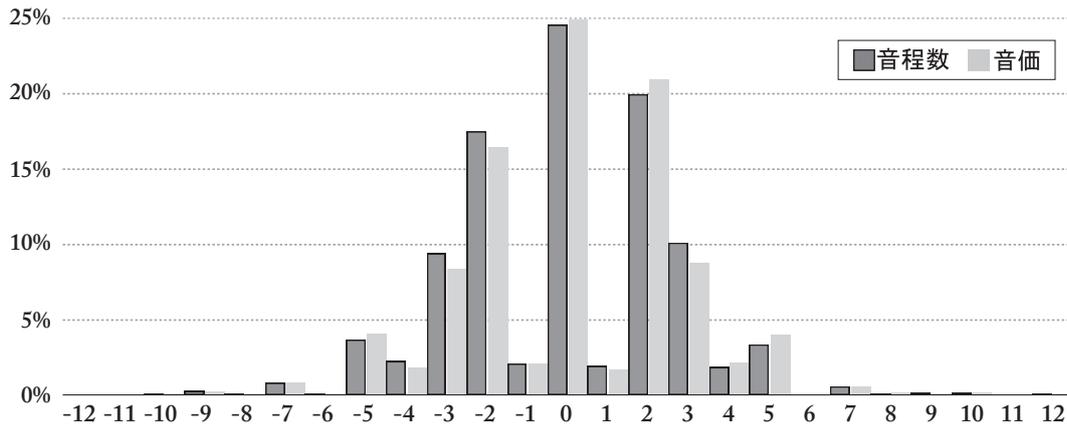


図5.14 豊前国における音程の使用傾向

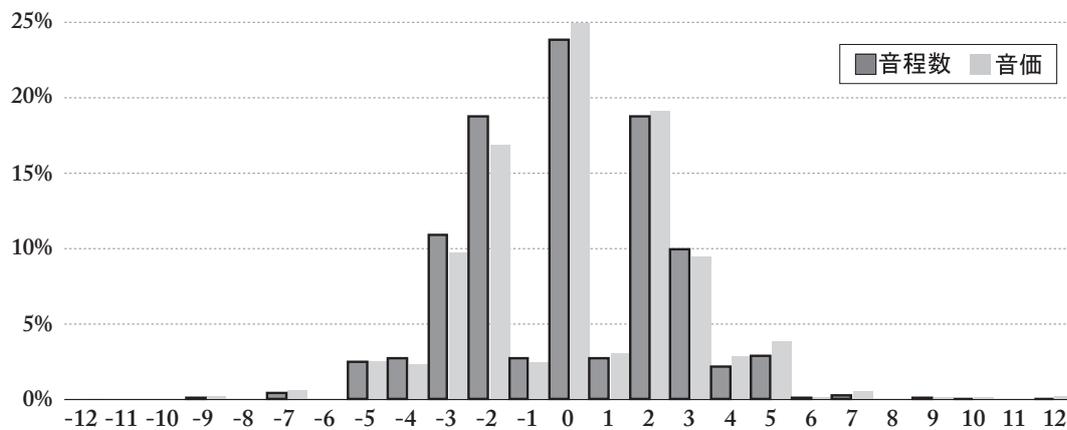


図5.15 豊後国における音程の使用傾向

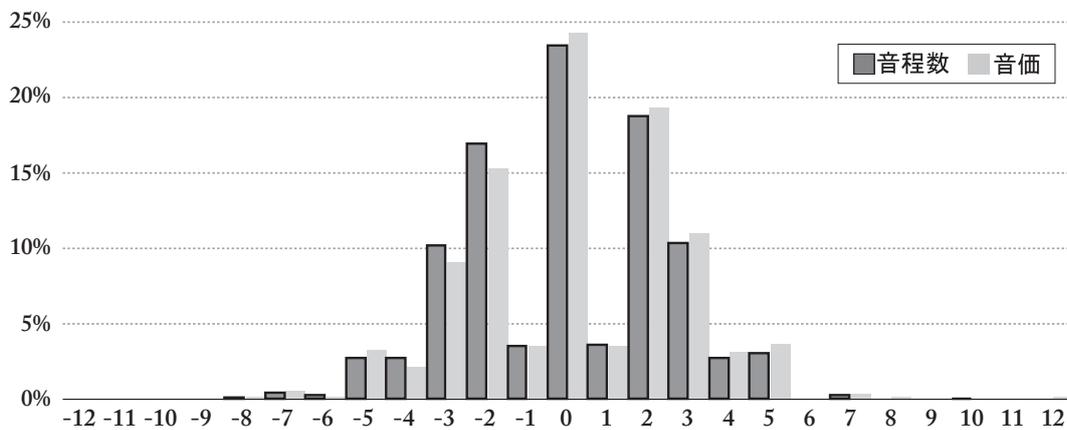


図5.16 筑前国における音程の使用傾向

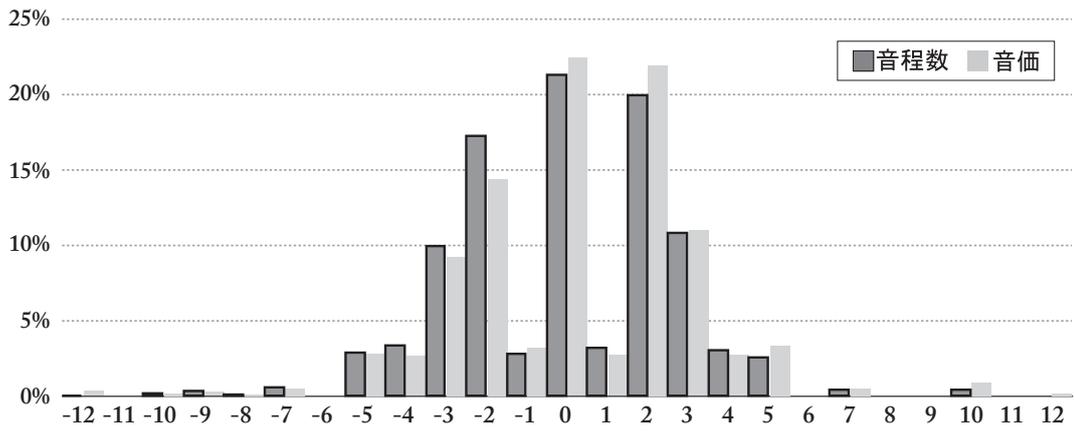


図5.17 筑後国における音程の使用傾向

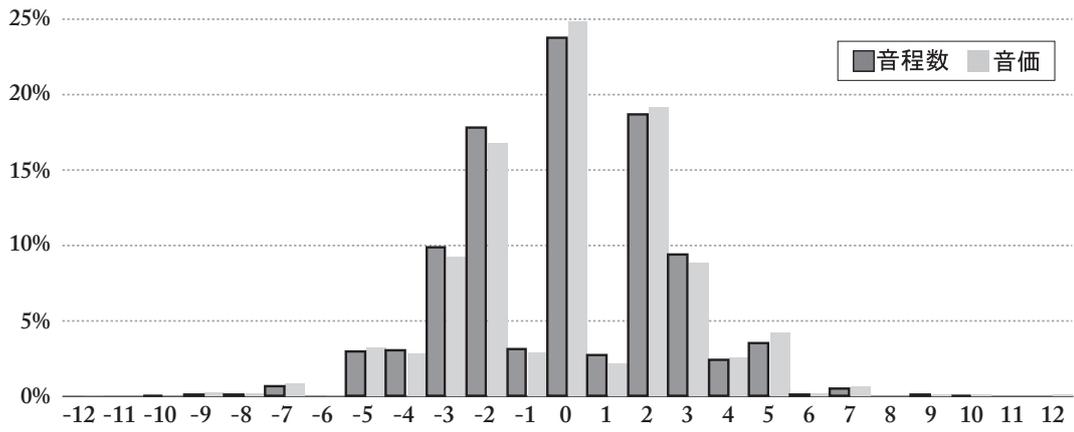


図5.18 肥前国における音程の使用傾向

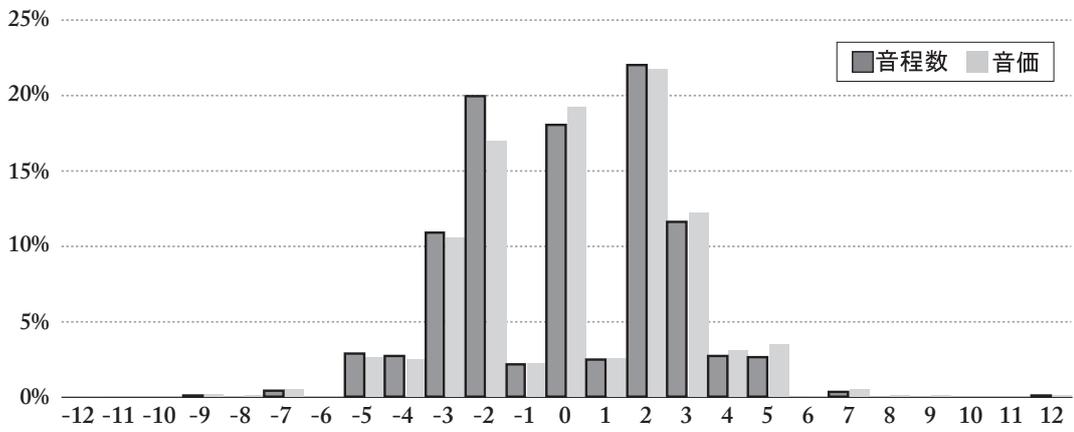


図5.19 肥後国における音程の使用傾向

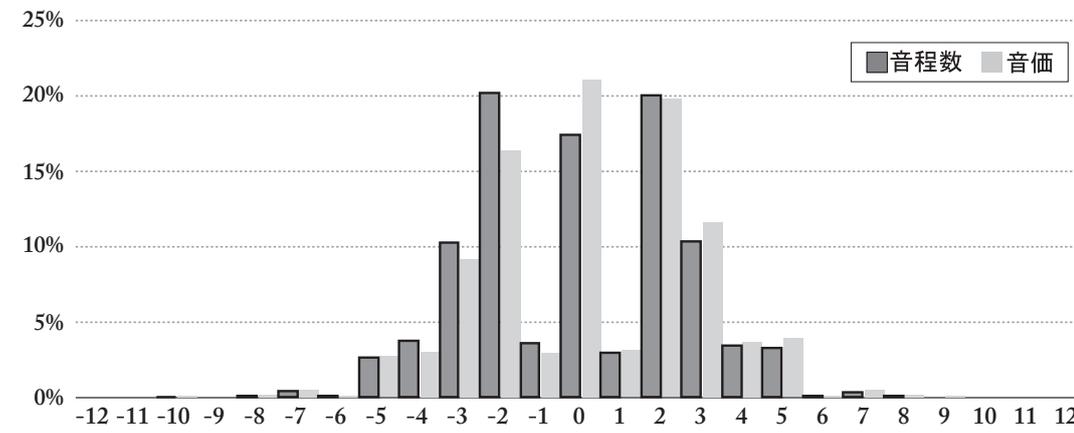


図5.20 日向国における音程の使用傾向

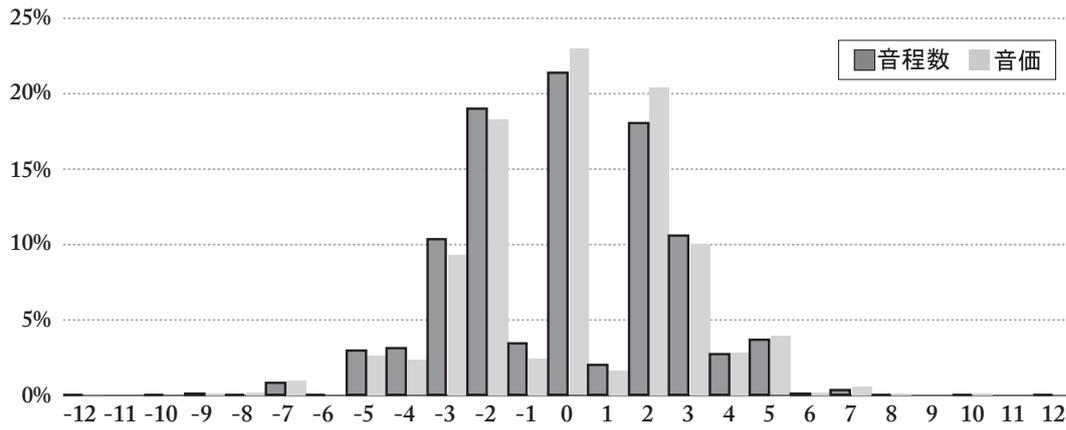


図5.21 薩摩国における音程の使用傾向

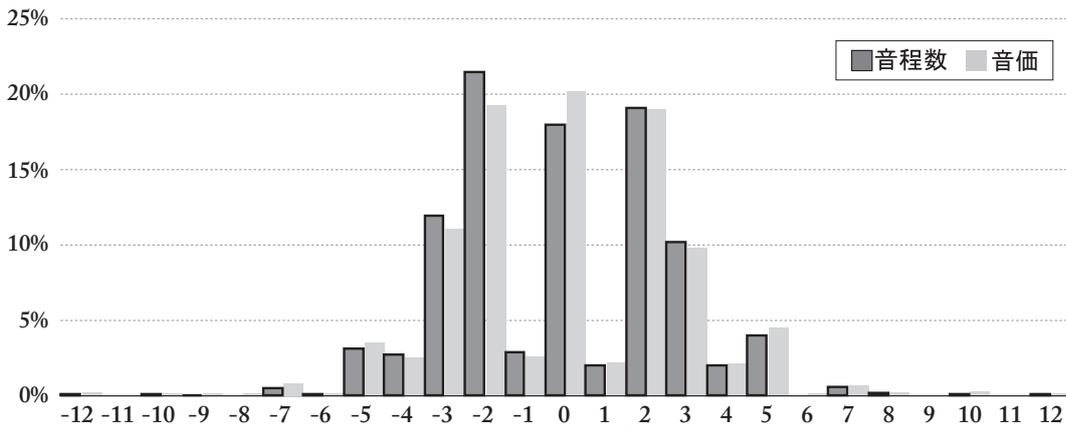


図5.22 大隅国における音程の使用傾向

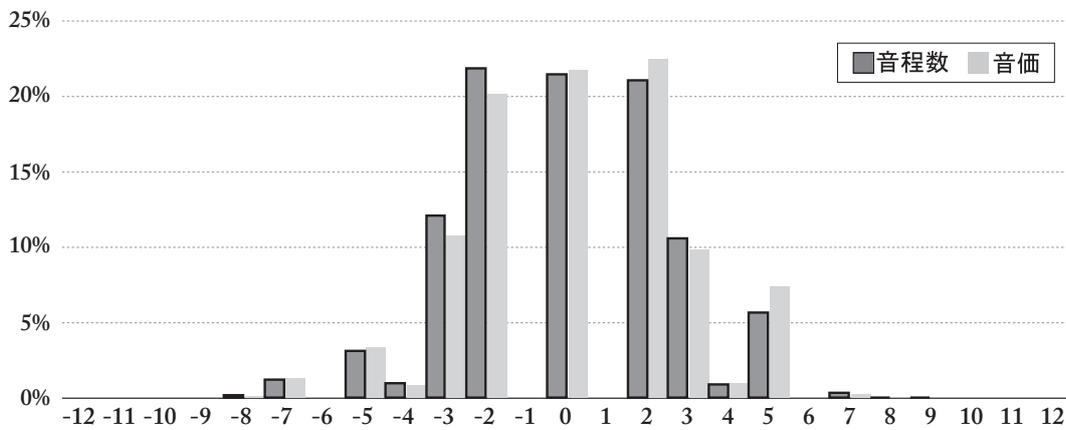


図5.23 対馬国における音程の使用傾向

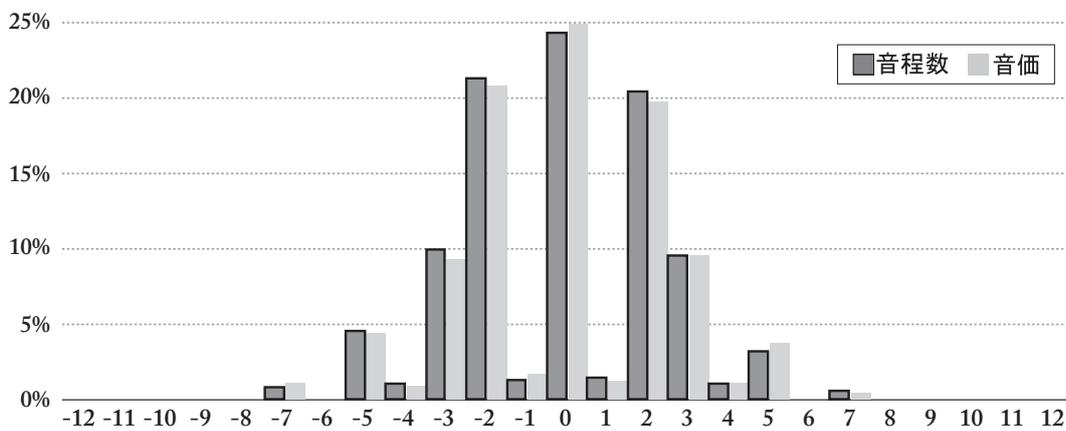


図5.24 壱岐国における音程の使用傾向

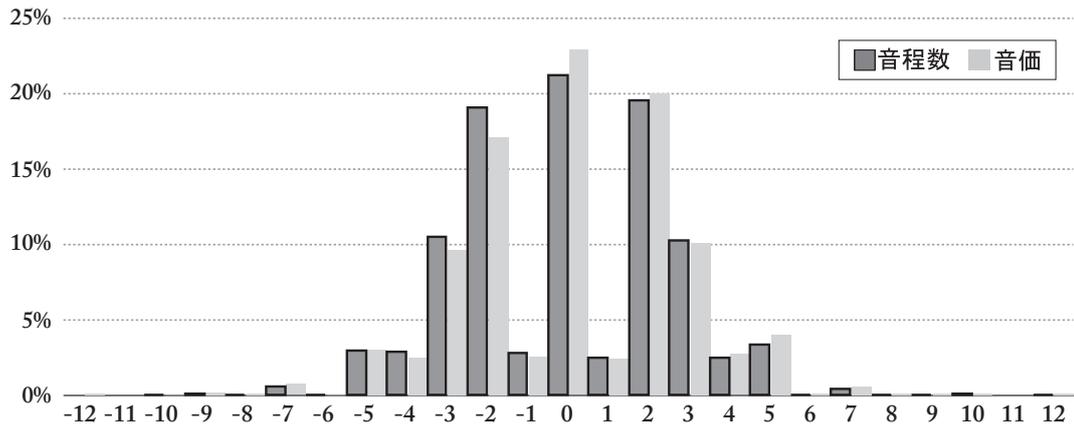


図5.25 九州全体における音程の使用傾向

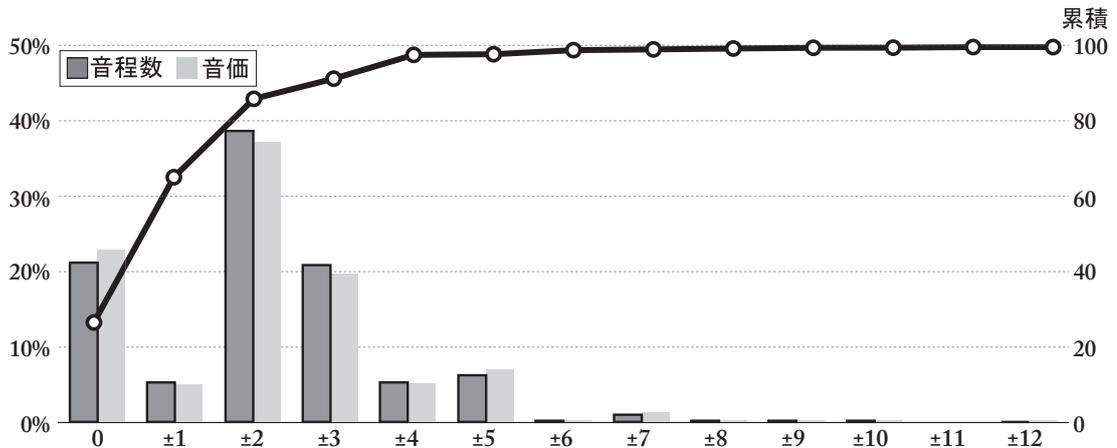


図5.26 九州地方全体における音程推移の累積度数

表5.2 九州地方の各国のテトラコルドの出現頻度

	民謡のテトラコルド						都節のテトラコルド					
	(+3, +2)	(+5, -2)	(+2, -5)	(-3, +5)	(-2, -3)	(-5, +3)	(+1, +4)	(+5, -4)	(+4, -5)	(-1, +5)	(-4, -1)	(-5, +1)
豊前国	399	63	108	33	332	84	41	7	8	13	57	8
豊後国	435	72	66	51	471	57	59	7	4	6	73	10
筑前国	225	33	28	31	201	30	52	5	11	11	52	8
筑後国	116	10	15	10	107	17	38	5	7	5	29	10
肥前国	741	152	121	125	730	122	128	43	16	44	182	15
肥後国	735	79	115	77	634	115	111	6	18	7	86	14
日向国	388	55	53	42	392	46	68	11	2	27	110	5
薩摩国	283	57	47	39	294	26	38	7	3	15	72	4
大隅国	531	105	67	113	677	78	52	28	14	36	101	18
対馬国	42	7	13	14	53	8	0	0	0	0	0	0
壱岐国	0	4	3	2	19	2	0	0	0	0	0	0
全体	3895	637	636	537	3910	585	587	119	83	164	762	92

	律のテトラコルド						琉球のテトラコルド					
	(+2, +3)	(+5, -3)	(+3, -5)	(-2, +5)	(-3, -2)	(-5, +2)	(+4, +1)	(+5, -1)	(+1, -5)	(-4, +5)	(-1, -4)	(-5, +4)
豊前国	298	62	35	44	286	43	30	0	6	1	24	4
豊後国	377	49	31	47	417	47	49	4	5	6	59	1
筑前国	189	25	29	28	178	25	24	1	5	1	17	2
筑後国	104	13	16	11	100	14	14	0	0	0	9	2
肥前国	555	89	73	75	560	66	77	6	21	6	78	13
肥後国	584	47	63	46	534	60	67	4	4	3	62	4
日向国	316	26	30	32	329	42	72	5	14	7	78	14
薩摩国	218	39	28	21	210	31	23	5	0	2	31	2
大隅国	381	62	40	54	511	34	31	3	11	4	55	4
対馬国	39	8	6	7	62	10	0	0	0	0	0	0
壱岐国	21	1	4	3	20	5	0	0	0	0	0	0
全体	3082	421	355	368	3207	377	387	28	66	30	413	46

表5.3 九州地方における音階の使用傾向

	陽類					陰類				
	C旋法	D旋法	E旋法	G旋法	A旋法	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	C旋法
豊前国	1	23	11	17	16	4	0	4	0	2
豊後国	1	18	8	16	24	10	0	2	0	0
筑前国	4	11	2	8	8	3	0	1	1	1
筑後国	3	2	5	9	4	3	0	0	0	0
肥前国	12	34	15	20	43	10	0	1	6	1
肥後国	8	28	14	34	30	9	0	2	2	1
日向国	10	20	10	20	10	11	1	2	1	0
薩摩国	4	15	8	14	19	4	0	1	3	2
大隅国	10	25	9	12	27	10	0	2	0	0
対馬国	0	3	0	6	2	0	0	0	0	0
壱岐国	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0
全体	55	181	83	157	184	65	1	15	13	7

	混合類					琉球類				
	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	D旋法	C旋法	E旋法	F旋法	G旋法	B旋法
豊前国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
豊後国	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
筑前国	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
筑後国	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肥前国	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
肥後国	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
日向国	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
薩摩国	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大隅国	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
対馬国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壱岐国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	5	1	7	1	1	1	0	0	0	0

5. テトラコルドの集計結果

表5.2は、九州地方全体の音程推移について、bigramを用いて集計した小泉氏の4種のテトラコルドの出現頻度である。

6. 音階の集計結果

表5.3は、九州地方の各国で採譜された楽曲の音階を自動判別して集計した結果である。ただし、5音に満たない楽曲については含めていないことに注意されたい。

Chapter. 6

中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析

河瀬 彰宏

1. 中国地方の令制国

中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析では、『日本民謡大観 中国編』(NHK 1969)に掲載されている中国地方の全楽曲を対象とした。図6.1は、九州地方を令制国(旧国名)に分けた地図である。

以下では、中国地方の12カ国について使用楽曲に関する基本統計量、楽曲中の音高の出現頻度、音程の出現頻度、小泉文夫氏の4種×6パターンのテトラコルドを形成するbigramの出現頻度、東川清一氏の4種×5旋法の音階の出現頻度を報告する。

2. 使用楽曲の基本統計量

表6.1に地域ごとの楽曲数に関する基本統計量を

まとめる。中国地方では、1曲あたりの音数は、石見国、因幡国、出雲国の順に多く、備前国、長門国、備中国の順に少ないことがわかる。また、統計的なばらつき具合を考慮すると、石見国と周防国における楽曲数の多様性が目立つ。一方で、1曲あたりの音高の持続時間(音高に音価を掛けた量)は、備後国が圧倒的に長く、安芸国、伯耆国と続き、隠岐国、長門国、美作国の順に短いことがわかる。統計的なばらつき具合を考慮すると、音数の場合と異なり、安芸国の多様性が特出している。

3. 音高の集計結果

図6.2から図6.13は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音高情報を集計したヒストグラムである。また、図6.14は、中国地方の全楽曲の音高情報の集計結果である。

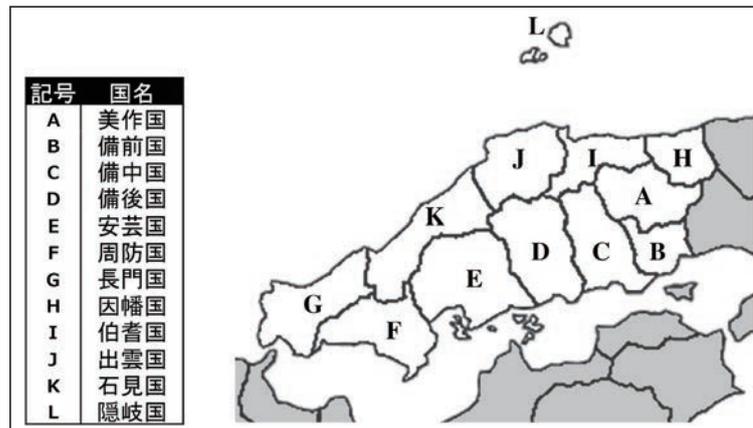


図6.1 中国地方における令制国

表6.1 中国地方の各国の基本統計量

	美作	備前	備中	備後	安芸	周防	長門	因幡	伯耆	出雲	石見	隠岐	全体	
曲数	47	29	89	113	188	85	53	61	66	48	92	15	886	
音高	合計	4,390	2,290	8,262	12,305	19,459	9,708	4,761	7,655	6,645	5,733	12,446	1,500	95,154
	平均	93.40	78.97	92.83	108.89	103.51	114.21	89.83	125.49	100.68	119.44	135.28	100.00	107.40
	s.d.	62.22	64.33	79.64	76.42	81.65	102.78	59.66	86.33	58.20	87.36	127.50	53.33	86.48
	CV	0.67	0.81	0.86	0.70	0.79	0.90	0.66	0.69	0.58	0.73	0.94	0.53	0.81
音価	合計	13,983	11,186	35,429	91,650	114,032	39,609	14,851	26,957	35,212	25,209	47,552	3,908	459,578
	平均	297.51	385.72	398.08	811.06	606.55	465.99	280.21	441.92	533.52	525.19	516.87	260.53	518.71
	s.d.	293.39	591.38	444.78	2553.69	2846.27	958.93	255.08	346.77	1084.22	1212.89	697.02	153.63	1711.00
	CV	0.99	1.53	1.12	3.15	4.69	2.06	0.91	0.78	2.03	2.31	1.35	0.59	3.30

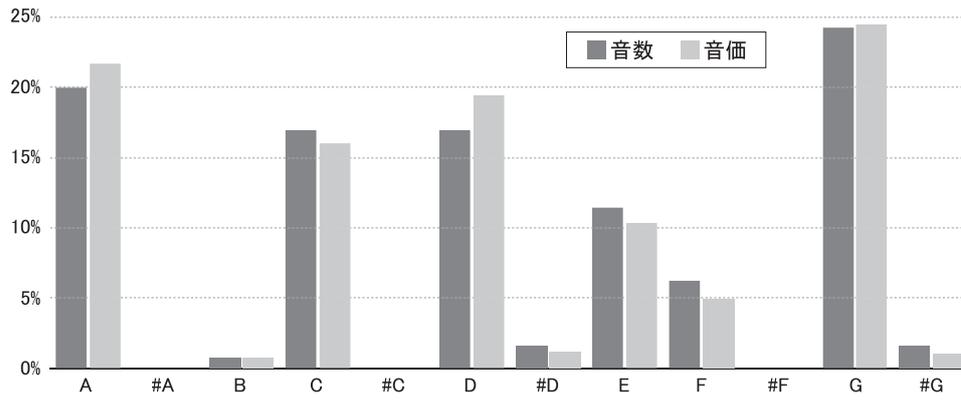


図6.2 美作国における音高の使用傾向

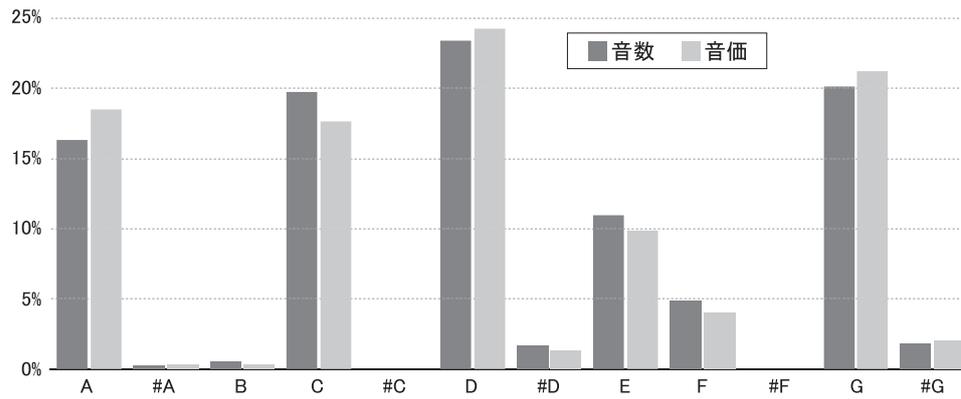


図6.3 備前国における音高の使用傾向

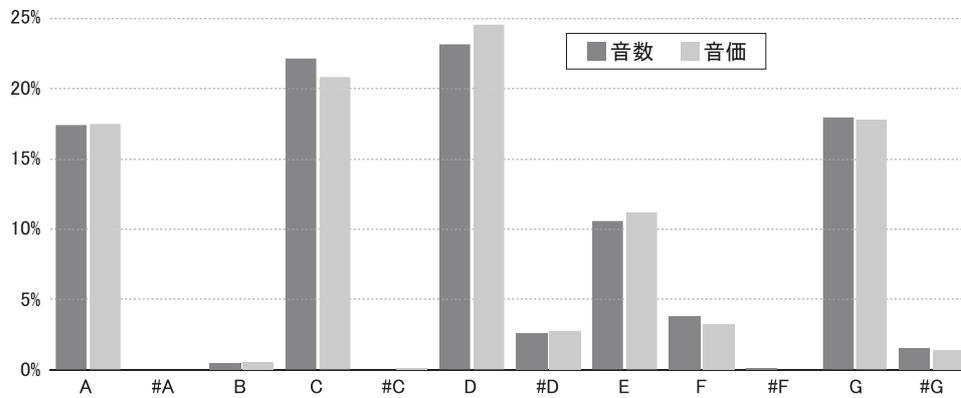


図6.4 備中国における音高の使用傾向

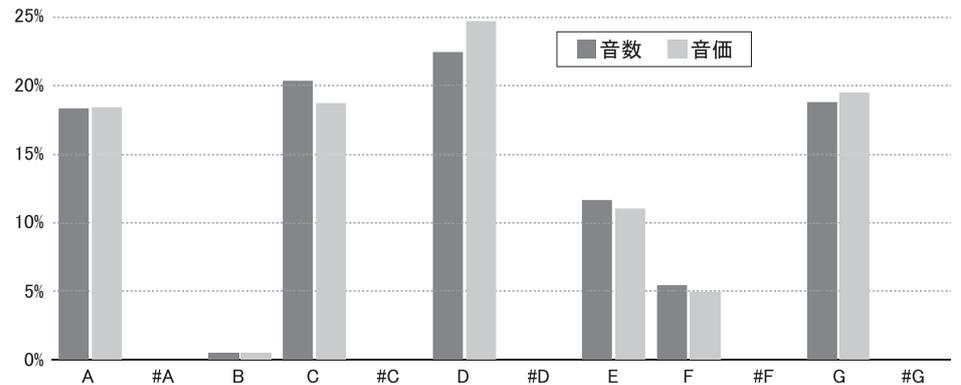


図6.5 備後国における音高の使用傾向

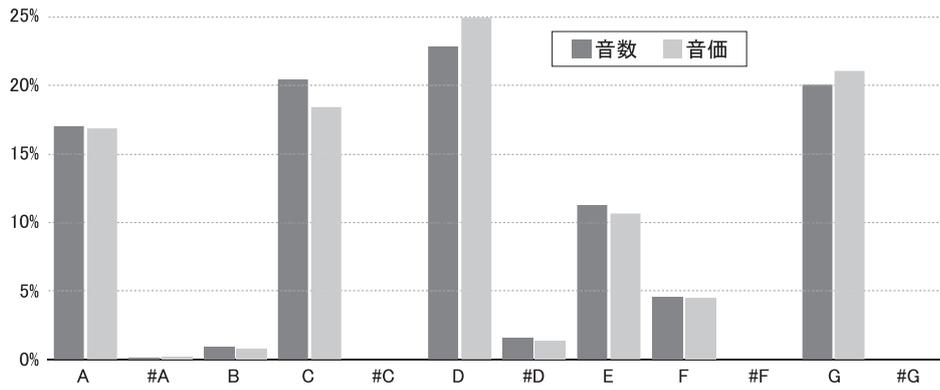


図6.6 安芸国における音高の使用傾向

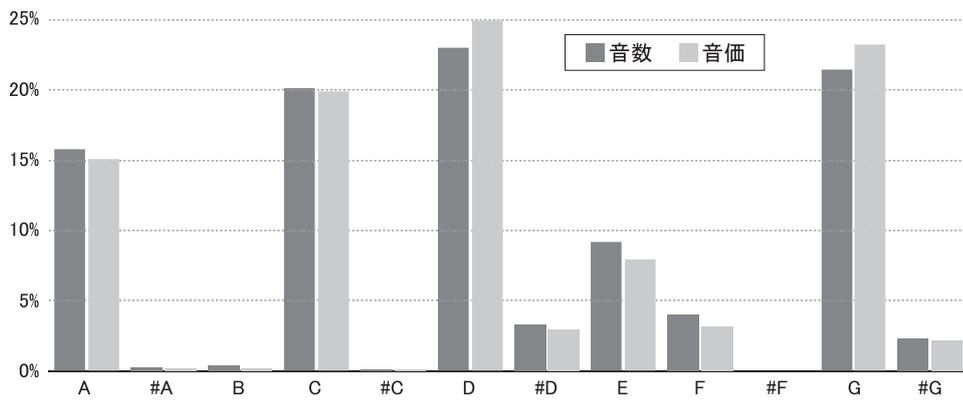


図6.7 周防国における音高の使用傾向

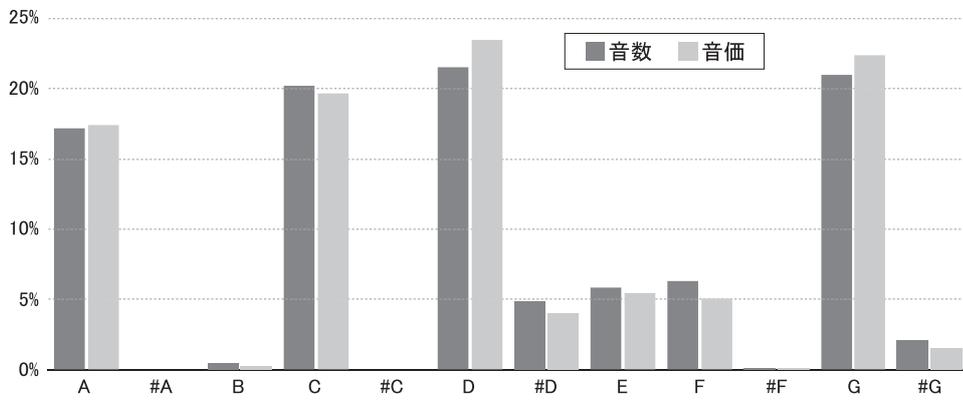


図6.8 長門国における音高の使用傾向

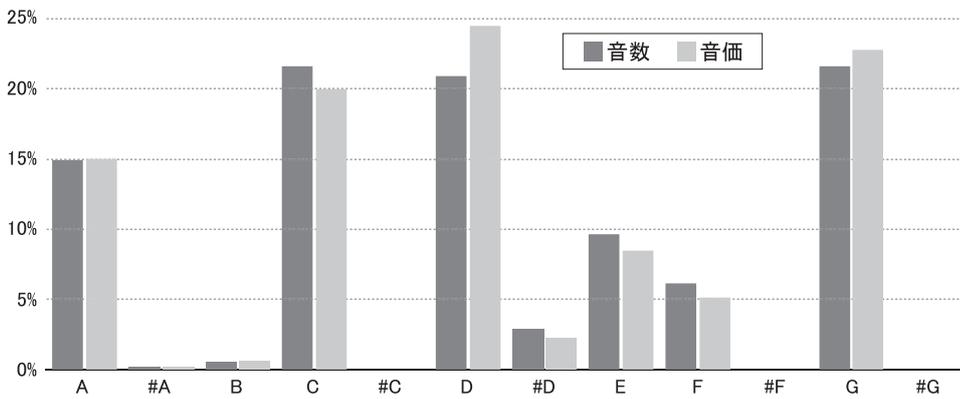


図6.9 因幡国における音高の使用傾向

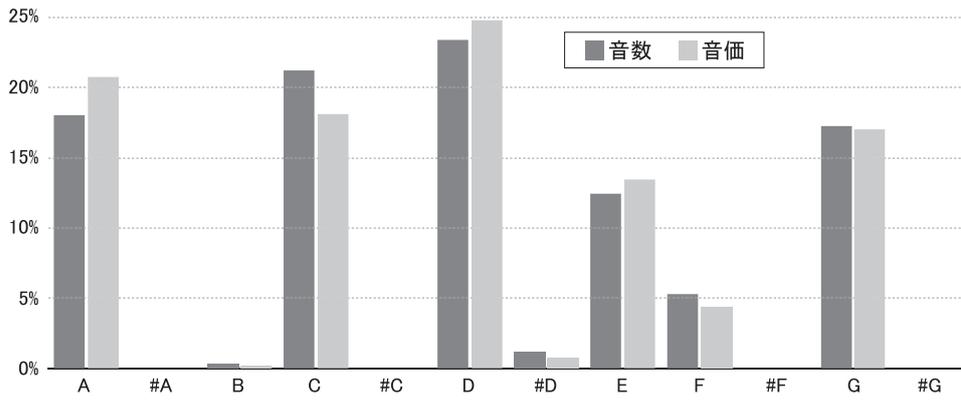


図6.10 伯耆国における音高の使用傾向

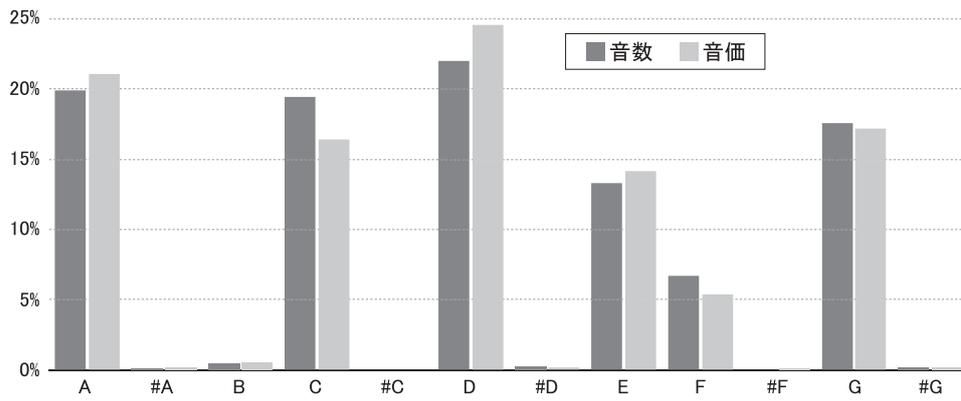


図6.11 出雲国における音高の使用傾向

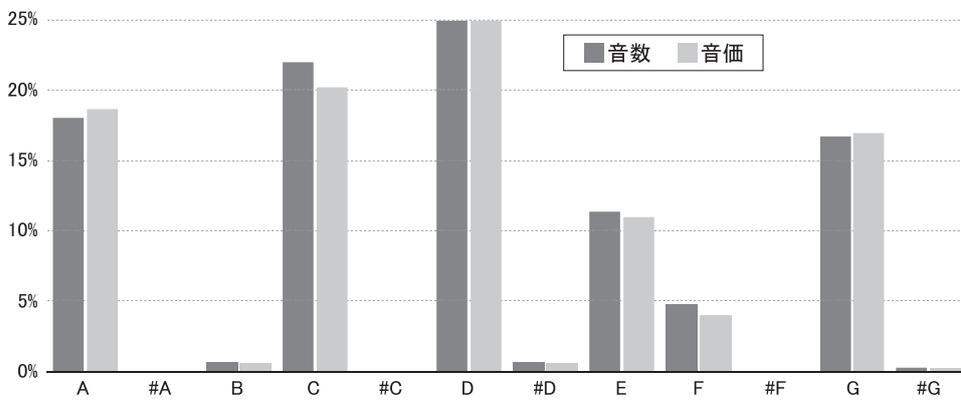


図6.12 石見国における音高の使用傾向

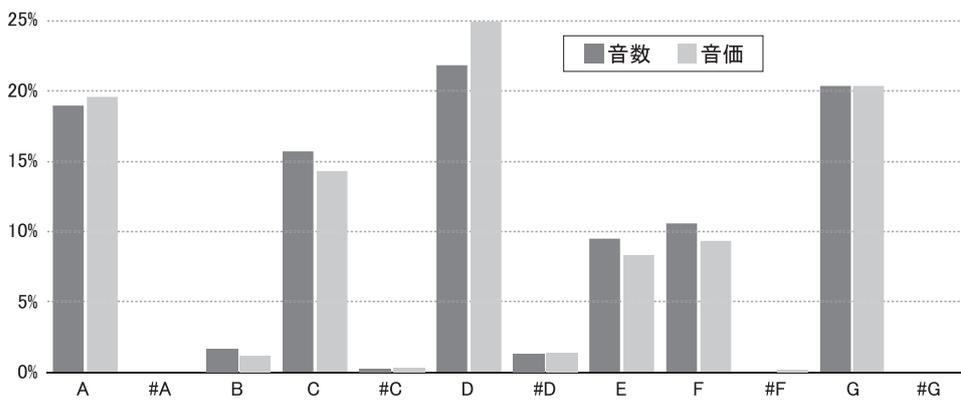


図6.13 隠岐国における音高の使用傾向

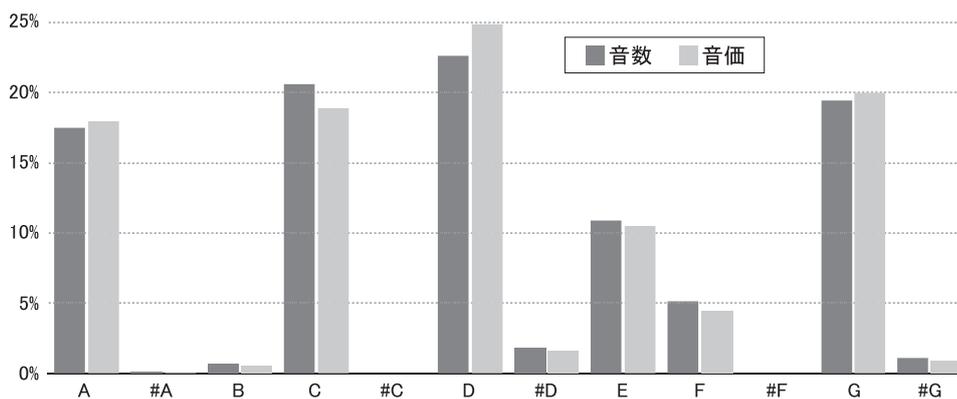


図6.14 中国地方全体における音高の使用傾向

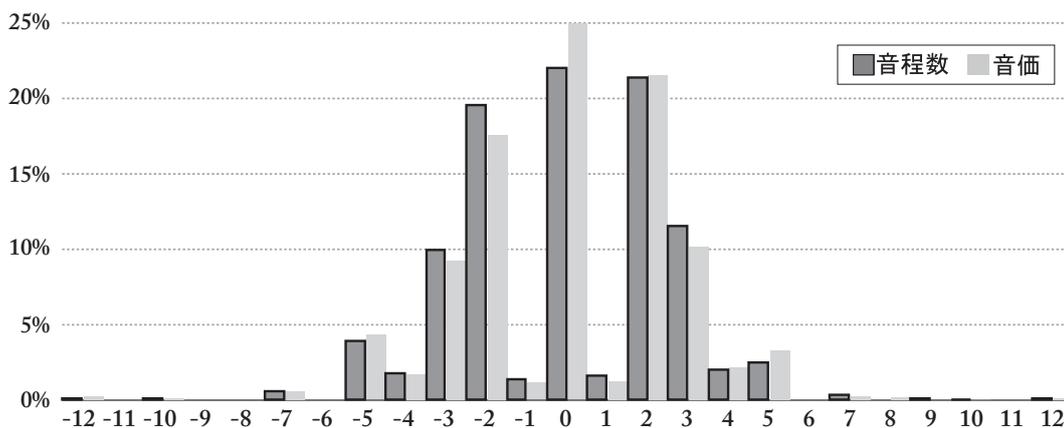


図6.15 美作国における音程の使用傾向

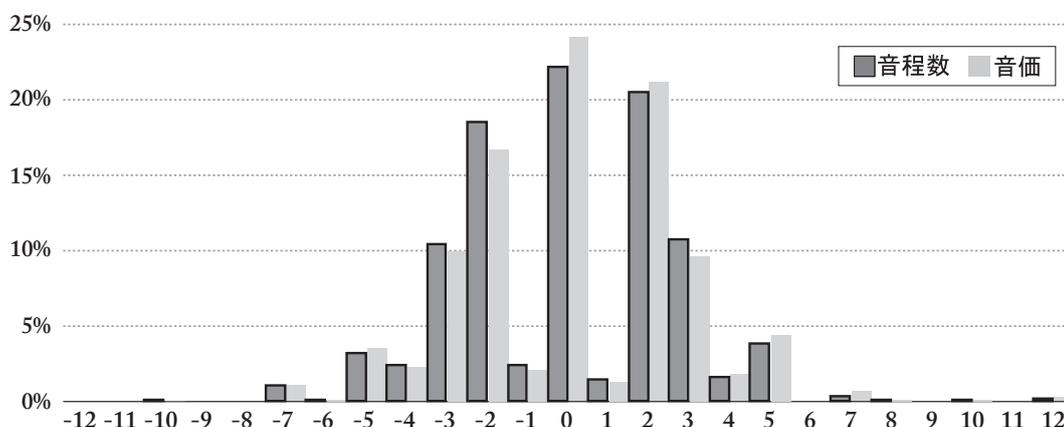


図6.16 備前国における音程の使用傾向

4. 音程推移の集計結果

図6.15から図6.26は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音程推移情報を集計したヒストグラムである。また、図6.27は、中国地方の全楽曲の音程推移情報の集計結果である。

中国地方全体の音程推移の出現頻度については、同度音程推移(0)の21.58%を中心に、負の音程($t_i < 0$)が

39.39%、正の音程($t_i > 0$)が39.04%をもつことから、ほぼ左右対称の分布であることが確認できる。各音程の使用傾向を確認するために、同一音程の上行形と下行形をまとめた累積度数分布を図6.28に示す。この結果から、長2度(±2)39.98%、短3度(±3)21.66%、完全4度(±5)6.92%の順に使用頻度が高く、短2度(±1)3.49%と増4度(±6)0.10%を除くと、完全5度(±7)よりも広い音程はほとんど歌われないことが分かる。

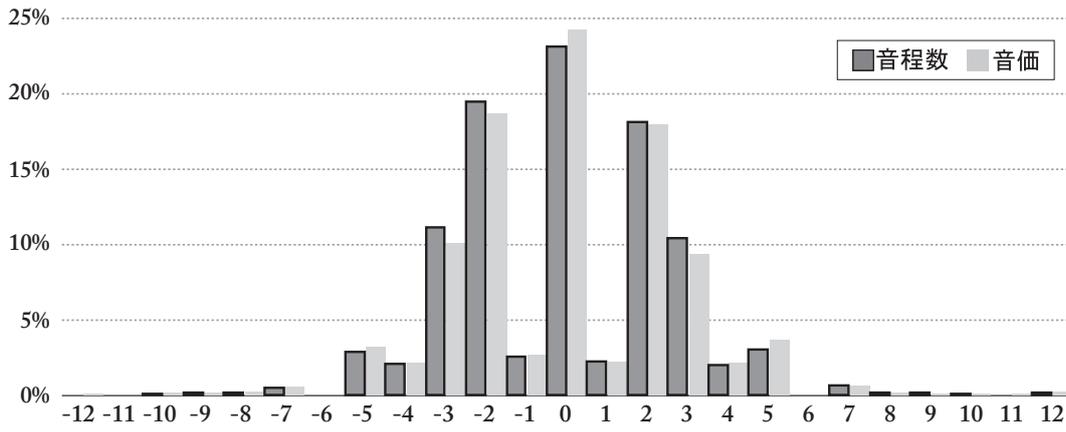


図6.17 備中国における音程の使用傾向

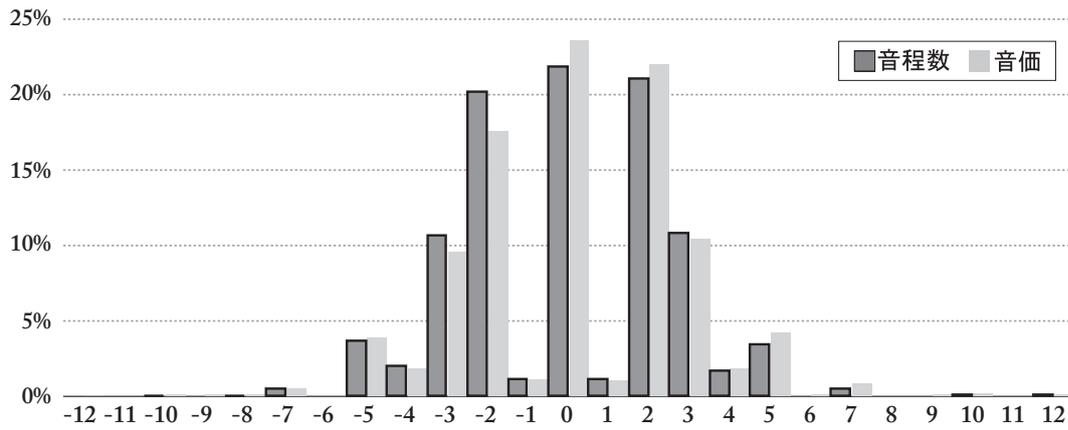


図6.18 備後国における音程の使用傾向

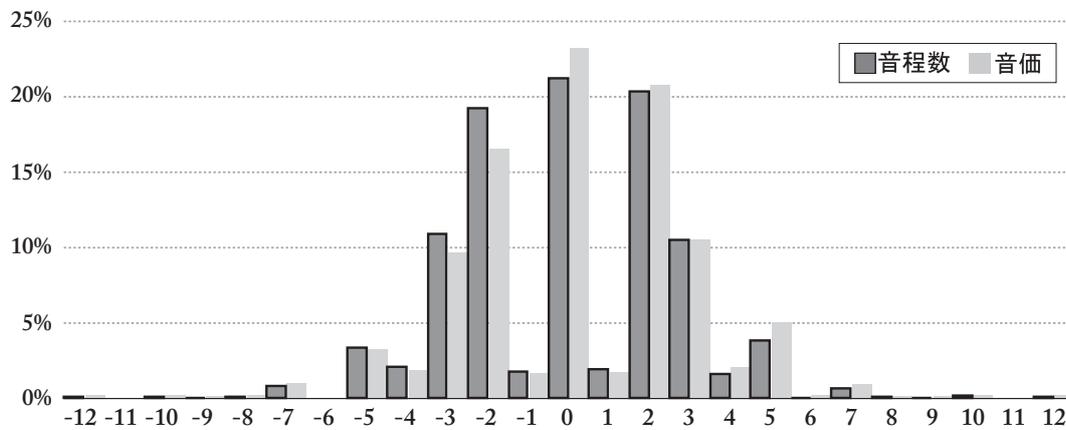


図6.19 安芸国における音程の使用傾向

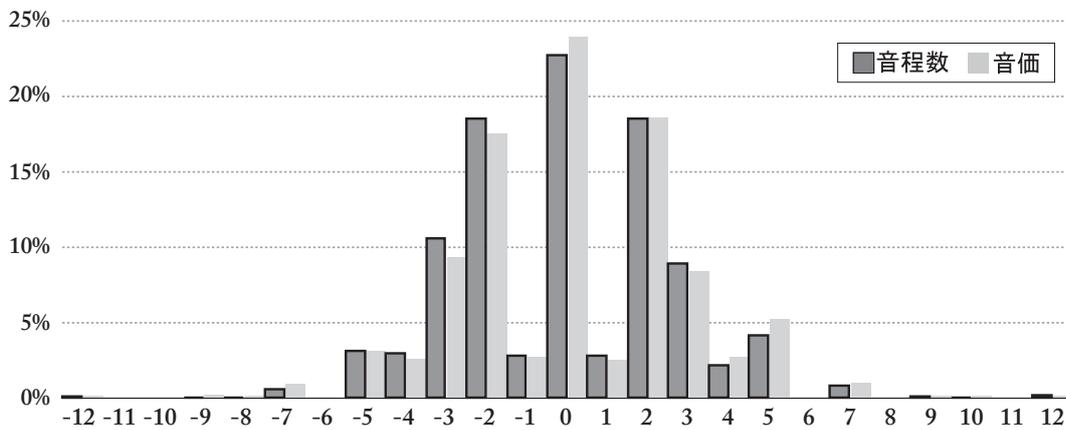


図6.20 周防国における音程の使用傾向

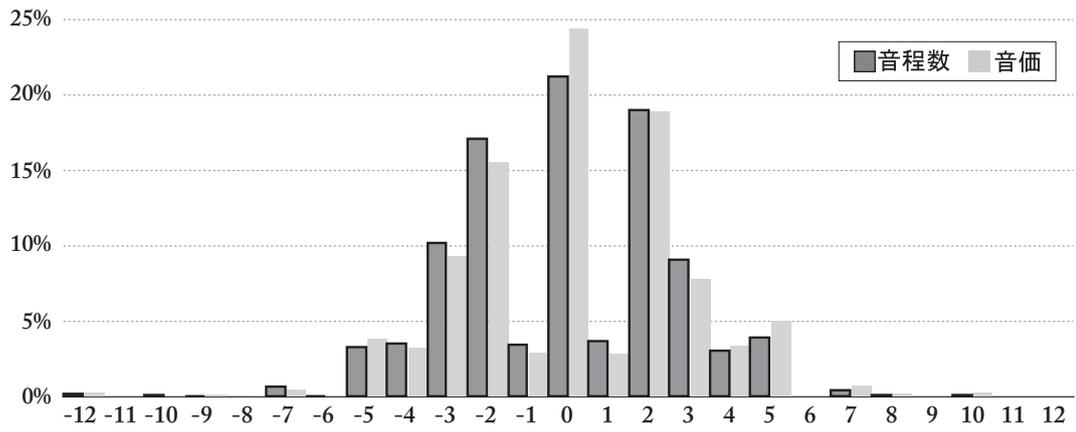


図6.21 長門国における音程の使用傾向

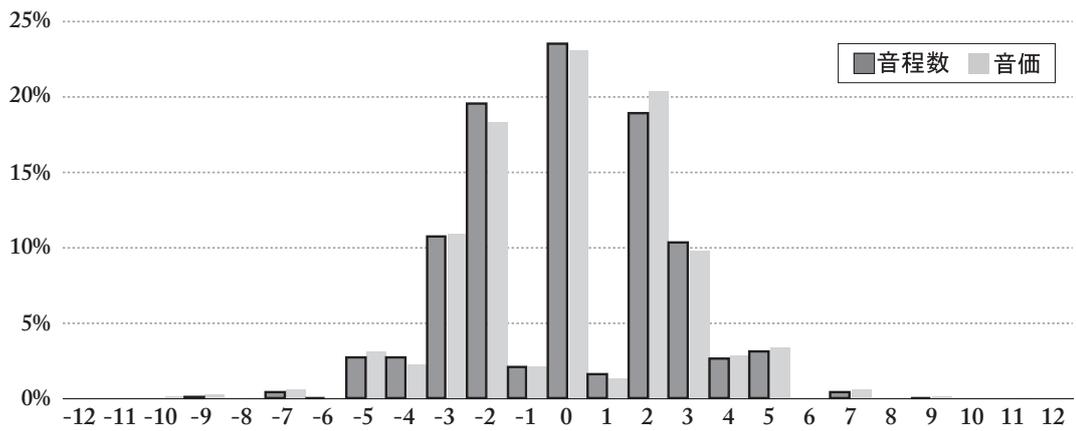


図6.22 因幡国における音程の使用傾向

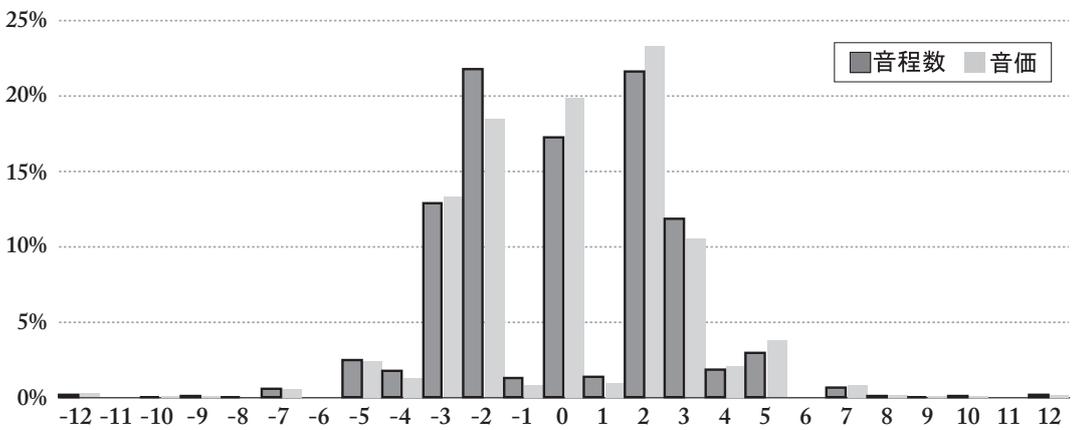


図6.23 伯耆国における音程の使用傾向

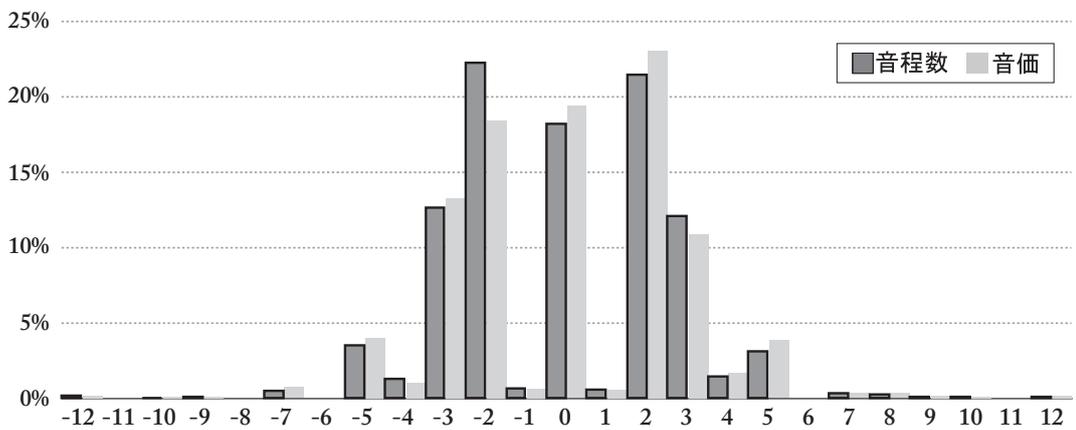


図6.24 出雲国における音程の使用傾向

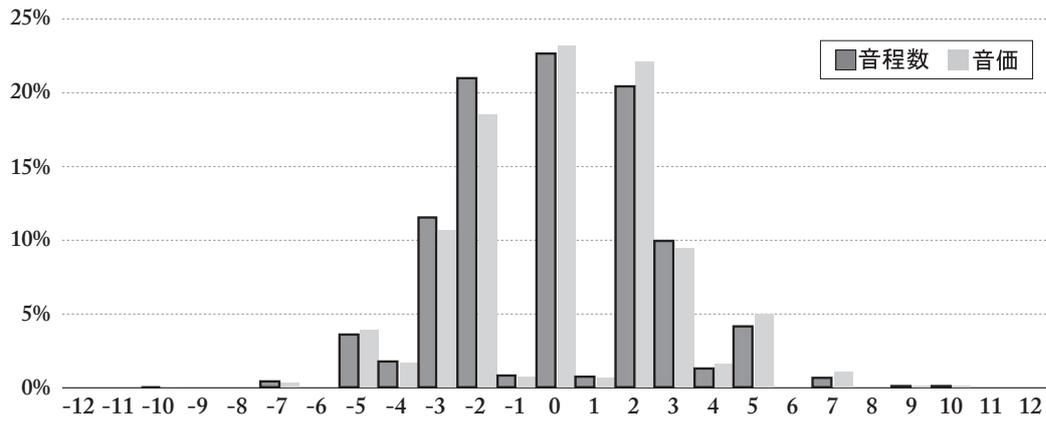


図6.25 石見国における音程の使用傾向

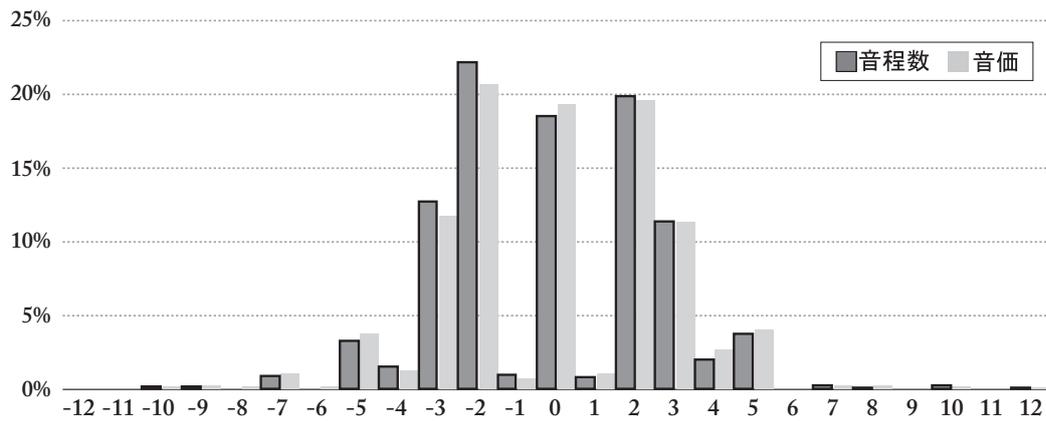


図6.26 隠岐国における音程の使用傾向

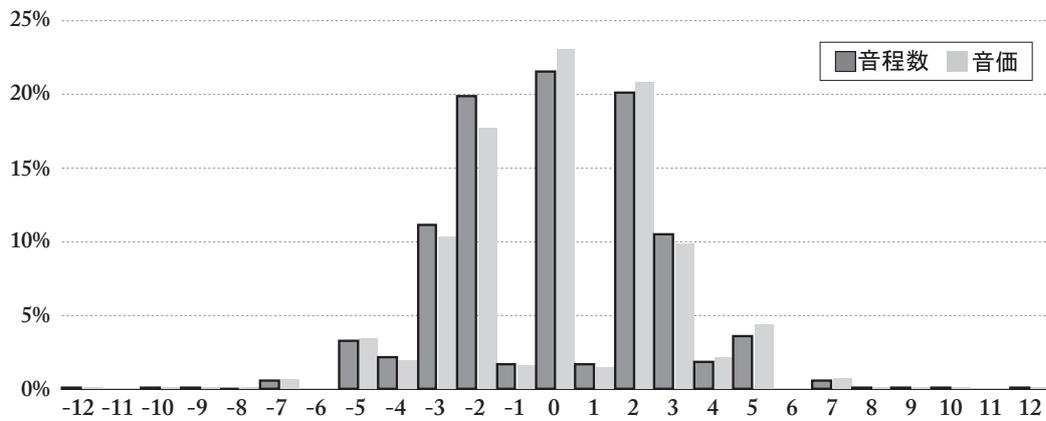


図6.27 中国地方全体における音程の使用傾向

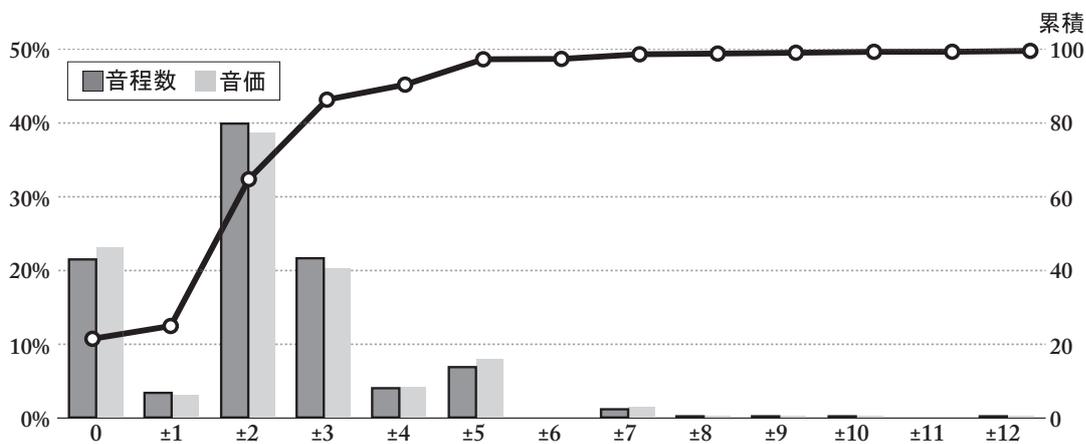


図6.28 中国地方全体における音程推移の累積度数

表6.2 中国地方の各国のテトラコルドの出現頻度

	民謡のテトラコルド						都節のテトラコルド					
	(+3, +2)	(+5, -2)	(+2, -5)	(-3, +5)	(-2, -3)	(-5, +3)	(+1, +4)	(+5, -4)	(+4, -5)	(-1, +5)	(-4, -1)	(-5, +1)
美作国	266	16	49	12	211	62	16	1	3	3	6	3
備前国	124	23	17	21	126	18	9	6	3	6	24	0
備中国	435	87	50	72	471	46	39	2	7	12	52	11
備後国	665	108	135	72	641	128	50	5	6	5	40	4
安芸国	981	179	173	149	1,030	151	85	13	19	22	95	20
周防国	416	83	58	70	485	78	60	15	23	24	84	26
長門国	204	49	36	39	210	39	60	3	5	10	64	7
因幡国	335	54	67	35	362	63	35	10	7	17	63	5
伯耆国	382	77	57	34	440	66	26	1	2	5	23	0
出雲国	352	63	73	61	371	70	6	2	0	2	9	0
石見国	552	169	151	134	661	106	12	3	0	13	21	4
隠岐国	61	24	13	13	81	7	5	0	1	0	5	1
全体	4773	932	879	712	5089	834	403	61	76	119	486	81

	律のテトラコルド						琉球のテトラコルド					
	(+2, +3)	(+5, -3)	(+3, -5)	(-2, +5)	(-3, -2)	(-5, +2)	(+4, +1)	(+5, -1)	(+1, -5)	(-4, +5)	(-1, -4)	(-5, +4)
美作国	191	23	43	13	167	42	15	7	11	0	16	3
備前国	99	13	20	12	84	20	5	1	0	0	11	0
備中国	294	50	48	35	316	47	27	3	2	5	29	0
備後国	572	90	100	72	558	126	24	2	1	4	15	3
安芸国	841	156	170	108	830	196	49	7	17	10	32	13
周防国	320	114	62	83	411	52	53	5	15	11	61	11
長門国	170	36	43	20	165	28	15	1	3	1	26	3
因幡国	337	47	43	57	377	43	27	1	5	2	28	3
伯耆国	296	48	46	20	355	41	18	1	0	1	20	0
出雲国	274	44	51	31	273	37	1	2	0	1	4	1
石見国	499	99	112	93	576	122	11	3	3	6	14	1
隠岐国	75	11	15	9	77	12	0	0	0	0	0	0
全体	3968	731	753	553	4189	766	245	33	57	41	256	38

表6.3 中国地方における音階の使用傾向

	陽類					陰類				
	C旋法	D旋法	E旋法	G旋法	A旋法	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	C旋法
美作国	1	13	7	5	13	1	0	0	0	0
備前国	3	7	3	6	6	1	0	1	0	0
備中国	4	22	10	12	20	4	0	1	0	1
備後国	6	31	14	18	28	3	0	2	1	0
安芸国	10	70	19	31	34	6	0	0	3	1
周防国	7	29	6	20	9	6	0	1	2	0
長門国	4	17	5	5	9	3	0	1	2	0
因幡国	3	15	5	13	17	4	0	0	1	0
伯耆国	6	27	10	5	16	2	0	0	0	0
出雲国	2	15	7	4	17	0	0	0	0	0
石見国	3	29	16	9	24	1	0	0	0	0
隠岐国	1	2	2	4	4	0	0	0	0	0
全体	50	277	104	132	197	31	0	6	9	2

	混合類					琉球類				
	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	D旋法	C旋法	E旋法	F旋法	G旋法	B旋法
美作国	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
備前国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備中国	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
備後国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安芸国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
周防国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
長門国	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
因幡国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
伯耆国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出雲国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石見国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
隠岐国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	5	0	8	0	1	0	0	0	0	0

5. テトラコルドの集計結果

表6.2は、中国地方全体の音程推移について、bigramを用いて集計した小泉氏の4種のテトラコルドの出現頻度である。

6. 音階の集計結果

表6.3は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音階を自動判別して集計した結果である。ただし、5音に満たない楽曲については含めていないことに注意されたい。

Chapter. 7

総括

河瀬 彰宏

本研究ユニットでは、音楽文化の伝播と変遷を把握することを究極の目標とし、日本民謡の分析を実施した。本課題の先行研究にあたるKawase and Tokosumi (2010)では1,794曲の日本民謡を日本列島の各地域から選出し、地域ごとの音楽的特徴の使用傾向——厳密には小泉文夫氏が提唱した4種のテトラコルドを形成する音高推移パターンの出現確率——を多変量解析によって比較したところ、民俗学や方言地理学において取り上げられる東西二分論と限りなく一致する結果を得たものの、地域内での詳細な比較や、地域間の精緻な分析に至っていなかった。そこで、本研究ユニットでは、これまで課題として挙げていた分析データの拡張を行うことから始めた。全国的規模での詳細な楽曲分析を進めるために、九州地方(北海道)および中国地方(山陰道・山陽道)から収集された日本民謡を分析した。

図5.13と図6.14は、採録された楽譜の音高情報の集計であり、実際に歌い手が発声した絶対音高ではない。そのため、採譜当時に支持されていた陰音階・陽音階の区分で集計した場合に限定した考察とならざるを得ないが、両地方の比較からは、九州地方よりも中国地方の旋律の方が採譜時にD音の使用回数・持続時間の数値が圧倒的に高いこと、 $\#D/bE$ 音と $\#G/bA$ 音の使用回数・持続時間の数値も高いことが分かった。

図5.25と図6.27は、音程情報の集計結果であり、一見すると九州地方と中国地方における1音1音の使用傾向には違いがないように思える。しかし、図5.26と図6.28のように上行する音程と下行する音程を合計し、その累積度数を比較すると差異が明確に現れた。九州地方と中国地方では、これまでの学説を踏襲するように、完全4度(± 5)よりも狭い音程を用いた旋律が組み立てている傾向を裏付ける結果を得た。しかし、両者の音楽的特徴は、短2度(± 1)から長2度(± 2)にかけての勾配の違いが示すように、短2度音程の使用傾向の違いにあることが分かった。この様子は、具体的に小泉氏のテトラコルドの形成パターンや

東川氏の音階論の集計結果に関係していく。

表5.2と表6.2は、小泉氏のテトラコルドを形成するbigramの集計結果であり、すべての推移パターンが確認された。テトラコルドごとの割合を算出すると、九州地方では、民謡49.07%、都節8.69%、律37.57%、琉球4.67%であり、中国地方では、民謡50.70%、都節4.70%、律42.03%、琉球2.57%であった。この結果から、両地方での民謡のテトラコルドの使用頻度はテトラコルドの中ではほぼ同程度であるが、都節のテトラコルドと琉球のテトラコルドについては九州地方の方が倍近くも使う傾向が確認された。都の音楽の旋律に多用される都節のテトラコルドが中国地方よりも九州地方から多く集計され、細かい推移では、琉球のテトラコルドの上行形と下行形の使用頻度に大きな違いがあり、九州地方では少なからず南の地域の音楽の影響が記録されていることを確認した。

表5.3と表6.3は、東川氏の音階論の集計結果であり、全体的に陽類に集中しており、琉球類はほとんど出現しないことが確認された。ただし、ここには5音に満たない楽曲を含めていないことに注意されたい。類ごとの割合を算出すると、九州地方では、陽類84.94%、陰類13.00%、混合類1.93%、琉球類0.13%であり、中国地方では、陽類92.46%、陰類5.84%、混合類1.70%、琉球類0.00%であった。集計に用いた資料は違うものの、東川(2007)における町田佳聲・浅野健二編『わらべうた 日本の伝承童謡』(1961 岩波文庫)と町田佳聲・浅野健二編『日本民謡集』(1960年 岩波文庫)に収録されている251曲の分類結果——陽類198曲(78.88%)、陰類43曲(17.13%)、混合類7曲(2.79%)、琉球類3曲(1.20%)——と比較すると、両地方の類の集計結果は、東川氏の報告よりも陽類の割合が高く、残りの3類が少ないことになる。

日本の各種音階論と照らし合わせてみると、九州地方では、呂音階7.08%、陽類上行形23.29%、陽類下行形(=律音階)20.21%、民謡音階23.68%、陰音階上行形0.64%、陰音階下行形(=都節音階)8.37%、琉球

音階0.13%という割合になる。中国地方では、呂音階6.08%、陽類上行形33.70%、陽類下行形(=律音階)16.06%、民謡音階23.97%、陰音階上行形0.61%、陰音階下行形(=都節音階)3.77%、琉球音階0.00%という割合であった。

以上の通り、本研究ユニットでは、九州地方・中国地方の民謡に関する音楽的特徴を定量的に示し、楽曲情報と採録地域情報を相互参照可能な音楽コーパスと、ここから抽出される地域間の差異を示す特徴量を得たことを報告する。

本ペーパーの冒頭において、音楽学者の小泉文夫氏が記した民謡研究に関する基本姿勢——民謡は、文芸学、民俗学、音楽学の3つの側面から総合的に把握されるべきものであること——(小泉 1958)を紹介した。本研究ユニットでは、時間と予算の関係により、3つの側面のうち音楽学側のみを追究した研究事例となってしまったことが心残りである。本ペーパーにおいて示した研究の指針や実施した分析手法は、日本の他の地域の楽曲だけでなく、日本と隣接する諸外国の楽曲分析にも汎用的に実施できることは、日本民謡と中国民謡、ドイツ民謡との比較研究(Kawase 2012)においても実証されている。そこで、今後は九州地方・中国地方に限らず残りの地域の全楽曲の分析と、諸外国の楽曲に内在する音楽的特徴——例えば、チェコ民謡(Thořová 2011)に関する電子データ化は完了しているため着手可能である——との比較研究を進めていくことを目指す。

Homolky, Praha: Etnologický ústav AVČR, vol. 1.

- 東川清一(2007)『《君が代》考』。春秋社。

参考文献

- Kawase, Akihiro and Akifumi Tokosumi (2010), "Regional Classification of Japanese Folk Songs: Classification Using Cluster Analysis," *Kansei Engineering International Journal* 10 (1), pp.19-27.
- Kawase, Akihiro (2012), "Extracting the Musical Schema from Traditional Japanese, Chinese and German Folk Songs," *Proceedings of the 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society*, p.2720.
- 小泉文夫(1958)『日本伝統音楽の研究I』。音楽之友社。
- Thořová, Věra, Jiří Traxler, and Zdeněk Vejvoda (2011), *Lidové písně z Prahy ve sbírce Františka*

活動記録

第1回研究会「音楽文化の分析における地域研究と情報学の融合」

「文化の計量分析：文学と音楽の計量化から地域的特徴を探る」

日時：2016年12月4日(日)13:00-18:30

場所：同志社大学今出川キャンパス良心館4階436室

主催：地域研・複合共同研究ユニット「「地域の知」の創生と再生」、同個別ユニット「音楽文化の伝播の解明を目的とした中国地方・九州地方における日本民謡の計量的分析」、および個別ユニット「日本近現代文学における空間情報のデータベース構築および可視化」

●プログラム

13:00-13:15 趣旨説明(工藤 彰：東京大学大学院)

13:15-13:45 「芥川賞作品における地域的特徴の分析」(工藤 彰：東京大学大学院)

13:45-14:00 コメント(福田 宏：愛知教育大学)

14:00-14:15 コメント(岡本佳子：東京大学)

14:15-14:45 総合討論

14:45-15:00 休憩

15:00-15:15 趣旨説明(河瀬彰宏：同志社大学)

15:15-15:45 「計量的方法論による九州・中国地方の旋律分析」(河瀬彰宏：同志社大学)

15:45-16:00 コメント(福田 宏：愛知教育大学)

16:00-16:15 コメント(柳澤雅之：京都大学)

16:15-16:45 総合討論

17:00-18:30 今後に関する打ち合わせ

第2回研究会「音楽文化の分析における地域研究と情報学の融合」

「文化データの計量分析：日本民謡楽曲コーパス構築への指針(2)」

日時：2017年3月16日(木)14:00-18:00

場所：京都大学東京オフィス(新東京オフィス(新丸の内ビルディング10階))

主催：地域研・複合共同研究ユニット「「地域の知」の創生と再生」、および、同個別ユニット「音楽文化の伝播の解明を目的とした中国地方・九州地方における日本民謡の計量的分析」

●プログラム

14:00-14:15 趣旨説明(河瀬彰宏：同志社大学)

14:15-14:55 「バルトークの初期の民俗音楽研究と他芸術への影響について」
(岡本佳子：東京大学)

14:55-15:05 休憩

15:05-15:45 「音楽研究のためのデータベースの近年の傾向」(矢向正人：九州大学芸術工学研究院)

15:45-16:45 総合討論

16:45-18:00 終了後、今後に関する打ち合わせ

データ一覧

九州北部

都道府県	番号	曲名	旧国
福岡県	1	子守唄〔一〕	豊前国
福岡県	2	子守唄〔二〕	豊前国
福岡県	3	子守唄〔三〕	豊前国
福岡県	4	子守唄〔四〕	筑前国
福岡県	5	子守唄〔五〕(博多子守唄)	筑前国
福岡県	6	子守唄〔六〕	筑後国
福岡県	7	田植唄〔一〕(五月唄)	筑前国
福岡県	8	田植唄〔二〕	筑前国
福岡県	9	田植唄〔三〕	豊前国
福岡県	10	田植唄〔四〕	豊前国
福岡県	11	田植唄〔五〕	筑前国
福岡県	12	田植唄〔六〕	筑前国
福岡県	13	田植唄〔七〕	筑前国
福岡県	14	田植唄〔八〕	筑前国
福岡県	15	田植唄〔九〕	筑前国
福岡県	16	田植唄〔十〕	筑前国
福岡県	17	田植唄〔十一〕	筑前国
福岡県	18	田植唄〔十二〕	筑後国
福岡県	19	田植唄〔十三〕	筑後国
福岡県	20	田の草取唄〔一〕	豊前国
福岡県	21	田の草取唄〔二〕	筑前国
福岡県	22	田の草取唄〔三〕	豊前国
福岡県	23	田の草取唄〔四〕	豊前国
福岡県	24	田の草取唄〔五〕	豊前国
福岡県	25	田の草取唄〔六〕	豊前国
福岡県	26	田の草取唄〔七〕	筑前国
福岡県	27	田の草取唄〔八〕(思案節)	筑前国
福岡県	28	田の草取唄〔九〕(がんづめ唄)	筑前国
福岡県	29	田の草取唄〔十〕	筑前国
福岡県	30	麦打唄〔一〕(芒打唄)	豊前国
福岡県	31	麦打唄〔二〕	豊前国
福岡県	32	麦打唄〔三〕(麦打節)	豊前国
福岡県	33	麦打唄〔四〕	筑前国
福岡県	34	麦打唄〔五〕	筑前国
福岡県	35	摺臼唄〔一〕(粉摺)	豊前国
福岡県	36	摺臼唄〔二〕(唐臼)	豊前国
福岡県	37	摺臼唄〔三〕(粉挽)	豊前国
福岡県	38	摺臼唄〔四〕(粉挽=手挽)	豊前国
福岡県	39	摺臼唄〔五〕(粉摺)	豊前国
福岡県	40	摺臼唄〔六〕(粉挽)	豊前国
福岡県	41	摺臼唄〔七〕	豊前国
福岡県	42	摺臼唄〔八〕(粉挽=おそめさん節)	豊前国
福岡県	43	摺臼唄〔九〕(粉摺)	豊前国
福岡県	44	摺臼唄〔十〕(粉摺)	筑前国
福岡県	45	摺臼唄〔十一〕(粉挽)	筑前国
福岡県	46	摺臼唄〔十二〕(粉摺・粉挽)	筑前国
福岡県	47	摺臼唄〔十三〕	筑前国
福岡県	48	縞臼唄〔一〕(米搗=台柄搗)	豊前国

都道府県	番号	曲名	旧国
福岡県	49	縞臼唄〔二〕(麦搗=三本杵)	豊前国
福岡県	50	縞臼唄〔三〕(米踏み唄=台柄搗)	豊前国
福岡県	51	縞臼唄〔四〕(米搗)	豊前国
福岡県	52	縞臼唄〔五〕(米搗)	豊前国
福岡県	53	縞臼唄〔六〕(米搗)	筑前国
福岡県	54	縞臼唄〔七〕(稗搗)	筑後国
福岡県	55	縞臼唄〔八〕(米搗)	筑後国
福岡県	56	餅搗唄〔一〕	豊前国
福岡県	57	餅搗唄〔二〕(円座餅搗唄)	豊前国
福岡県	58	地形唄〔一〕(胴搗唄)	豊前国
福岡県	59	地形唄〔二〕(地搗唄)	筑前国
福岡県	60	地形唄〔三〕(地搗唄)	豊前国
福岡県	61	地形唄〔四〕(地搗唄)	豊前国
福岡県	62	地形唄〔五〕(地搗音頭)	豊前国
福岡県	63	地形唄〔六〕(地搗唄)	筑前国
福岡県	64	地形唄〔七〕(地搗唄=亀の子搗)	筑前国
福岡県	65	地形唄〔八〕(胴搗唄)	筑前国
福岡県	66	地形唄〔九〕(胴搗唄=筑前)	筑前国
福岡県	67	地形唄〔十〕(ホーランセ)	筑後国
福岡県	68	地形唄〔十一〕(杭打唄)	筑後国
福岡県	69	地形唄〔十二〕(地搗唄)	筑後国
福岡県	70	地形唄〔十三〕(搗納=伊勢音頭)	筑後国
福岡県	71	地形唄〔十四〕(祝物・段物)	筑後国
福岡県	72	地形唄〔十五〕(石搗音頭)	筑後国
福岡県	73	新地節(漏いね唄)	筑後国
福岡県	74	茶作唄〔一〕(茶山唄)	筑後国
福岡県	75	茶作唄〔二〕(天草節)	筑後国
福岡県	76	酒造唄〔一〕(米踏唄)	筑後国
福岡県	77	酒造唄〔二〕(酛摺唄)	筑後国
福岡県	78-1	酒造唄〔三〕(小酛摺唄)A	筑後国
福岡県	78-2	酒造唄〔三〕(小酛摺唄)B	筑後国
福岡県	79	酒造唄〔四〕(酛搗唄)	筑後国
福岡県	80	酒造唄〔五〕(米洗唄)	筑前国
福岡県	81	酒造唄〔六〕(米踏唄)	筑前国
福岡県	82	酒造唄〔七〕(酛練唄)	豊前国
福岡県	83	炭坑唄〔一〕(石刀節)	豊前国
福岡県	84	炭坑唄〔二〕(マイト節=石刀節)	豊前国
福岡県	85	炭坑唄〔三〕(小山唄)	豊前国
福岡県	86	炭坑唄〔四〕(ゴットン節)	筑前国
福岡県	87	炭坑唄〔五〕(ゴットン節)	豊前国
福岡県	88	炭坑唄〔六〕(ゴットン節)	筑後国
福岡県	89	炭坑唄〔七〕(ヒョンコ節)	豊前国
福岡県	90	炭坑唄〔八〕(バリバリ節)	豊前国
福岡県	91	炭坑唄〔九〕(南蛮唄)	豊前国
福岡県	92	炭坑唄〔十〕(南蛮唄)	筑前国・ 豊後国
福岡県	93	炭坑唄〔十一〕(選炭節)	豊前国
福岡県	94	炭坑唄〔十二〕(採炭節=炭坑節元調)	豊前国
福岡県	95	炭坑唄〔十三〕(採炭節=炭坑節元調)	豊前国

都道府県	番号	曲名	旧国
福岡県	96	炭坑唄(十四)(お座敷炭坑節元調)	筑後国
福岡県	97	炭坑唄(十五)(炭坑節)	筑前国・豊後国
福岡県	98	鉾山唄(一)(石刀節)	豊前国
福岡県	99	鉾山唄(二)(金掘唄)	筑後国
福岡県	100	山行唄(一)(草刈馬子唄)	豊前国
福岡県	101	山行唄(二)(草刈馬子唄)	豊前国
福岡県	102	山行唄(三)(草刈節)	豊前国
福岡県	103	木挽唄(一)	豊前国
福岡県	104	木挽唄(二)	豊前国
福岡県	105	木挽唄(三)	筑前国
福岡県	106	木挽唄(四)	筑後国
福岡県	107	馬子唄(一)(駄賃取唄)	豊前国
福岡県	108	馬子唄(二)	筑前国
福岡県	109	沖仲仕唄(ゴンゾー唄)	筑前国
福岡県	110	筑後川舟唄(追分)	筑後国
福岡県	111	石炭船船頭唄	筑前国
福岡県	112	舟唄(一)(鱧漕唄)	筑前国
福岡県	113	舟唄(二)(鱧漕唄)	筑前国
福岡県	114	海老打唄	豊前国
福岡県	115-1	大漁唄(芋種)「住吉」	筑前国
福岡県	115-2	大漁唄(芋種)「正月二日」	筑前国
福岡県	115-3	大漁唄(芋種)「如月山」	筑前国
福岡県	116	祝い目出度(エイショウエ)	筑前国
福岡県	117	高い山	筑前国
福岡県	118	伊勢音頭(道中唄)	筑前国
福岡県	119	長持唄(一)(博多長持唄)	筑前国
福岡県	120	長持唄(二)(馬子唄)	筑前国
福岡県	121	長持唄(三)(嫁入唄)	筑後国
福岡県	122	公卿唄(一)(春唄=ヤーエ節)	筑後国
福岡県	123	公卿唄(二)(秋唄=ノーエ節)	筑後国
福岡県	124	筑前今様(黒田節)	筑前国
福岡県	125	博多節(ドッコイショ)	筑前国
福岡県	126	正調博多節	筑前国
福岡県	127	どんたく	筑前国
福岡県	128	博多の三四郎さん	筑前国
福岡県	129	エンヤラヤ(一)	筑前国
福岡県	130	エンヤラヤ(二)	筑後国
福岡県	131	出雲節	豊前国
福岡県	132	東京甚句(さわぎ甚句)	筑後国
福岡県	133	角力取節	筑前国
福岡県	134	盆踊唄(長刀踊)	豊前国
福岡県	135	盆踊唄(馬追踊=能行口説)	豊前国
福岡県	136	盆踊唄(能行口説)	豊前国
福岡県	137	稗田盆踊唄(高い山)	豊前国
福岡県	138	稗田盆踊唄(長州踊)	豊前国
福岡県	139	稗田盆踊唄(ばんば踊)	豊前国
福岡県	140	稗田盆踊唄(四十や)	豊前国
福岡県	141	盆踊唄	豊前国
福岡県	142	盆踊唄(大津絵踊)	豊前国
福岡県	143	盆踊唄(番所唄)	豊前国
福岡県	144	盆踊唄(盆踊松坂)	豊前国
福岡県	145	盆踊唄(盆口説)	豊前国
福岡県	146	盆踊唄(松坂)	豊前国
福岡県	147	盆踊唄(ひよひよ)	豊前国
福岡県	148	盆踊唄(英彦山踊)	豊前国
福岡県	149	盆踊唄	豊前国
福岡県	150	盆踊唄(ハネソ)	筑前国
福岡県	151	盆踊唄(思案橋)	筑前国
福岡県	152	志賀島盆踊唄	筑前国

都道府県	番号	曲名	旧国
福岡県	153	盆踊唄(高い山・坊主山道)	筑前国
福岡県	154	日若踊(思案橋)	筑前国
佐賀県	155	子守唄(一)	肥前国
佐賀県	156	子守唄(二)	肥前国
佐賀県	157	田植唄(一)	肥前国
佐賀県	158	田植唄(二)	肥前国
佐賀県	159	田植唄(三)	肥前国
佐賀県	160	田の草取唄(一)	肥前国
佐賀県	161	田の草取唄(二)	肥前国
佐賀県	162	田の草取唄(三)	肥前国
佐賀県	163	田の草取唄(四)	肥前国
佐賀県	164	麦打唄(ふるこ打唄)	肥前国
佐賀県	165	摺臼唄(一)(粃摺)	肥前国
佐賀県	166	摺臼唄(二)(粃摺)	肥前国
佐賀県	167	搗臼唄(一)(米搗)	肥前国
佐賀県	168	搗臼唄(二)(米搗)	肥前国
佐賀県	169	搗臼唄(三)(米なで唄)	肥前国
佐賀県	170	搗臼唄(四)(米搗)	肥前国
佐賀県	171	搗臼唄(五)(米搗)	肥前国
佐賀県	172-1	地形唄(一)(石搗)「ヤーサラサ」	肥前国
佐賀県	172-2	地形唄(一)(石搗)「山王節」	肥前国
佐賀県	172-3	地形唄(一)(石搗)「本拍子」	肥前国
佐賀県	172-4	地形唄(一)(石搗)「締め上げ」	肥前国
佐賀県	173	地形唄(二)(ザンザ節)	肥前国
佐賀県	174	地形唄(三)(たこつき唄)	肥前国
佐賀県	175	地形唄(四)(石搗)	肥前国
佐賀県	176	地形唄(五)(ヒョータン)	肥前国
佐賀県	177	地形唄(六)(木遣音頭)	肥前国
佐賀県	178	地形唄(七)(石搗音頭)	肥前国
佐賀県	179	地形唄(八)(岳の新太郎さん)	肥前国
佐賀県	180	新地節(漏搗唄)	肥前国
佐賀県	181	茶作唄(一)(茶摘)	肥前国
佐賀県	182	茶作唄(二)(茶摘)	肥前国
佐賀県	183	茶作唄(三)(茶摘)	肥前国
佐賀県	184	茶作唄(四)(茶摘)	肥前国
佐賀県	185	酒造唄(一)	肥前国
佐賀県	186	酒造唄(二)	肥前国
佐賀県	187	製糸唄(紡績唄)	肥前国
佐賀県	188	機織唄	肥前国
佐賀県	189	鉾山唄(スラ曳唄)	肥前国
佐賀県	190	山行唄(万五郎節)	肥前国
佐賀県	191	木挽唄	肥前国
佐賀県	192	馬子唄(一)	肥前国
佐賀県	193	馬子唄(二)	肥前国
佐賀県	194	舟唄(一)(筑後川舟唄)	肥前国
佐賀県	195	舟唄(二)(鱧漕唄)	肥前国
佐賀県	196	千越祝唄	肥前国
佐賀県	197	大漁唄(波戸の大唄)	肥前国
佐賀県	198	鯨唄(一)(巻上唄)	肥前国
佐賀県	199	鯨唄(二)(骨切唄)	肥前国
佐賀県	200	鯨唄(三)(大唄)	肥前国
佐賀県	201	長持唄(一)	肥前国
佐賀県	202	長持唄(二)	肥前国
佐賀県	203	祝唄(一)	肥前国
佐賀県	204	祝唄(二)	肥前国
佐賀県	205	伊勢音頭	肥前国
佐賀県	206	祝い目出度(一)	肥前国
佐賀県	207	祝い目出度(二)	肥前国
佐賀県	208	祝い目出度(三)(端唄=のんこの節)	肥前国
佐賀県	209	じょうさ節	肥前国

都道府県	番号	曲名	旧国
佐賀県	210	よいやな〔一〕	肥前国
佐賀県	211	よいやな〔二〕	肥前国
佐賀県	212	ちりがん節(座敷唄)	肥前国
佐賀県	213	有田まだら	肥前国
佐賀県	214	ハイヤ節〔一〕(ハンヤ節)	肥前国
佐賀県	215	ハイヤ節〔二〕(ハンヤ節)	肥前国
佐賀県	216	ハイヤ節〔三〕	肥前国
佐賀県	217	ノーヤ節	肥前国
佐賀県	218	蓮の池節(酒盛唄)	肥前国
佐賀県	219	万歳くずし	肥前国
佐賀県	220	佐賀名物(酒盛唄)	肥前国
佐賀県	221	梅干(酒盛唄)	肥前国
佐賀県	222	ノンコ節〔一〕(皿踊)	肥前国
佐賀県	223	ノンコ節〔二〕(皿踊)	肥前国
佐賀県	224	ジャン切節(酒盛唄)	肥前国
佐賀県	225	岸川節	肥前国
佐賀県	226	妙権さん(酒盛唄)	肥前国
佐賀県	227	ヤーエ節(座敷唄)	肥前国
佐賀県	228	もぐらうち	肥前国
佐賀県	229	盆踊唄(思案橋)	肥前国
佐賀県	230	盆踊唄(しょがや踊)	肥前国
佐賀県	231	盆踊唄	肥前国
佐賀県	232	盆踊唄	肥前国
佐賀県	233	盆踊唄(文覚さん)	肥前国
佐賀県	234	盆踊唄(口説)	肥前国
佐賀県	235	盆の綱引唄	肥前国
長崎県	236	子守唄〔一〕	肥前国
長崎県	237	子守唄〔二〕	肥前国
長崎県	238	子守唄〔三〕	肥前国
長崎県	239	子守唄〔四〕	肥前国
長崎県	240	子守唄〔五〕	壱岐国
長崎県	241	子守唄〔六〕	対馬国
長崎県	242	子守唄〔七〕	対馬国
長崎県	243	田植唄〔一〕	肥前国
長崎県	244	田植唄〔二〕	肥前国
長崎県	245	田植唄〔三〕	肥前国
長崎県	246	田植唄〔四〕	肥前国
長崎県	247	田植唄〔五〕	肥前国
長崎県	248	田植唄〔六〕	肥前国
長崎県	249	田植唄〔七〕	肥前国
長崎県	250	田の草取唄〔一〕(ゾーヨーエー節)	肥前国
長崎県	251	田の草取唄〔二〕(しんき節)	肥前国
長崎県	252	田の草取唄〔三〕(ヨエー節)	肥前国
長崎県	253	田の草取唄〔四〕	肥前国
長崎県	254	田の草取唄〔五〕	肥前国
長崎県	255	田の草取唄〔六〕(下田節)	肥前国
長崎県	256	田の草取唄〔七〕	壱岐国
長崎県	257	摺臼唄〔一〕(粃摺)	肥前国
長崎県	258	摺臼唄〔二〕(粃摺)	肥前国
長崎県	259	摺臼唄〔三〕(粃摺)	肥前国
長崎県	260	摺臼唄〔四〕(粃摺)	肥前国
長崎県	261	搗臼唄〔一〕(米搗)	肥前国
長崎県	262	搗臼唄〔二〕(杵搗)	肥前国
長崎県	263	搗臼唄〔三〕(米搗)	肥前国
長崎県	264	搗臼唄〔四〕(米搗)	肥前国
長崎県	265	搗臼唄〔五〕(米搗まだら)	肥前国
長崎県	266	搗臼唄〔六〕(作米搗まだら)	肥前国
長崎県	267	搗臼唄〔七〕(米搗)	肥前国
長崎県	268	搗臼唄〔八〕(米搗)	壱岐国
長崎県	269	地形唄〔一〕(石搗唄=へんてこな節)	肥前国

都道府県	番号	曲名	旧国
長崎県	270	地形唄〔二〕(石搗唄)	肥前国
長崎県	271	地形唄〔三〕(蛸搗=千本搗)	肥前国
長崎県	272	地形唄〔四〕(本音頭=松前節)	肥前国
長崎県	273	地形唄〔五〕(木遣音頭)	肥前国
長崎県	274	地形唄〔六〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	275	地形唄〔七〕(土搗唄)	肥前国
長崎県	276	地形唄〔八〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	277	地形唄〔九〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	278	地形唄〔十〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	279	地形唄〔十一〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	280	地形唄〔十二〕(地搗唄)	肥前国
長崎県	281	地形唄〔十三〕(土搗唄)	対馬国
長崎県	282	新地節〔一〕	肥前国
長崎県	283	新地節〔二〕	肥前国
長崎県	284	新地節〔三〕(長崎新地節)	肥前国
長崎県	285	新地節〔四〕	肥前国
長崎県	286	新地節〔五〕	肥前国
長崎県	287	新地節〔六〕	肥前国
長崎県	288	製糸唄(木綿糸引唄)	壱岐国
長崎県	289	木挽唄〔一〕	肥前国
長崎県	290	木挽唄〔二〕	肥前国
長崎県	291	馬子唄〔一〕	肥前国
長崎県	292	馬子唄〔二〕	肥前国
長崎県	293	馬子唄〔三〕	肥前国
長崎県	294	舟唄〔一〕(船漕唄)	肥前国
長崎県	295	舟唄〔二〕(船漕唄)	対馬国
長崎県	296	船出唄	肥前国
長崎県	297	鯛の一本釣唄	肥前国
長崎県	298	鮪網唄	肥前国
長崎県	299	鯨唄〔一〕(神戻りの唄)	肥前国
長崎県	300	鯨唄〔二〕(轆轤巻唄)	肥前国
長崎県	301	鯨唄〔三〕(骨削り唄)	肥前国
長崎県	302	鯨唄〔四〕(椎皮叩唄)	肥前国
長崎県	303	鯨唄〔五〕(網の目締唄)	肥前国
長崎県	304	鯨唄〔六〕(網返し音頭)	肥前国
長崎県	305	鯨唄〔七〕(大唄)	肥前国
長崎県	306	よいやさ〔一〕(祝唄)	肥前国
長崎県	307	よいやさ〔二〕	壱岐国
長崎県	308	婚礼唄(祝い目出度)	肥前国
長崎県	309	長持唄	肥前国
長崎県	310	高い山から	肥前国
長崎県	311	伊勢音頭	対馬国
長崎県	312	まだら〔一〕(まだら節)	肥前国
長崎県	313	まだら〔二〕	肥前国
長崎県	314	じょうさ〔一〕(下節)	肥前国
長崎県	315	じょうさ〔二〕	壱岐国
長崎県	316	五尺手拭	対馬国
長崎県	317	あんば節	肥前国
長崎県	318	出雲節〔一〕	肥前国
長崎県	319	出雲節〔二〕	肥前国
長崎県	320	エンヤラヤ〔一〕	肥前国
長崎県	321	エンヤラヤ〔二〕	肥前国
長崎県	322	エンヤラヤ〔三〕(すべったか)	肥前国
長崎県	323	ハイヤ節〔一〕	肥前国
長崎県	324	ハイヤ節〔二〕	肥前国
長崎県	325	ハイヤ節〔三〕	肥前国
長崎県	326	ハイヤ節〔四〕	肥前国
長崎県	327	ハイヤ節〔五〕	肥前国
長崎県	328	ハイヤ節〔六〕	壱岐国
長崎県	329	ハイヤ節〔七〕	壱岐国

都道府県	番号	曲名	旧国
長崎県	330	ハイヤ節〔八〕	肥前国
長崎県	331	大島節	壱岐国
長崎県	332	六調子	肥前国
長崎県	333	ヨ一節(酒盛唄)	肥前国
長崎県	334	獅子の泣き唄	肥前国
長崎県	335	東京節	肥前国
長崎県	336	仙山河岸	肥前国
長崎県	337	磯節	肥前国
長崎県	338	昔さのさ節	肥前国
長崎県	339	さのさ節	肥前国
長崎県	340	米山甚句	肥前国
長崎県	341	名古屋甚句	肥前国
長崎県	342	ラッパ節	肥前国
長崎県	343	名古屋節	肥前国
長崎県	344	松島節	肥前国
長崎県	345	高島節	肥前国
長崎県	346	長崎甚句	肥前国
長崎県	347	ぶらぶら節	肥前国
長崎県	348	長崎浜節	肥前国
長崎県	349	のんのこ(皿踊)	肥前国
長崎県	350	諫早甚句	肥前国
長崎県	351	バラ節	肥前国
長崎県	352	角力取節	壱岐国
長崎県	353	ひよんこ節	対馬国
長崎県	354	しんき節	対馬国
長崎県	355	陽気節	対馬国
長崎県	356	雨の降る夜節	対馬国
長崎県	357	縄ない始の唄	肥前国
長崎県	358	亥の子唄	肥前国
長崎県	359	盆踊唄	肥前国
長崎県	360	盆踊唄	肥前国
長崎県	361-1	盆踊唄(オーモンドー)A	肥前国
長崎県	361-2	盆踊唄(オーモンドー)B	肥前国
長崎県	362	盆踊唄(対馬名所)	対馬国
長崎県	363	盆踊唄(島巡りの唄)	対馬国
長崎県	364	盆踊唄(非人節)	対馬国
長崎県	365	ぼうほん	肥前国
長崎県	366	神輿かつぎ唄	肥前国
長崎県	367	祭の神輿唄	肥前国
長崎県	368	山の神節	肥前国
大分県	369	子守唄〔一〕	豊後国
大分県	370	子守唄〔二〕	豊前国
大分県	371	子守唄〔三〕	豊前国
大分県	372	子守唄〔四〕	豊後国
大分県	373	子守唄〔五〕(灘の子守唄)	豊後国
大分県	374-1	子守唄〔六〕(宇目の唄げんか)古調	豊後国
大分県	374-2	子守唄〔六〕(宇目の唄げんか)新調	豊後国
大分県	375	苗取唄	豊後国
大分県	376	田植唄〔一〕	豊後国
大分県	377	田植唄〔二〕	豊後国
大分県	378	田植唄〔三〕	豊前国
大分県	379	田植唄〔四〕	豊前国
大分県	380	田植唄〔五〕	豊後国
大分県	381	田植唄〔六〕	豊後国
大分県	382	田植唄〔七〕	豊後国
大分県	383	田植唄〔八〕(はん節)	豊後国
大分県	384	田植唄〔九〕(いろは川)	豊後国
大分県	385	田植唄〔十〕	豊後国
大分県	386	田植唄〔十一〕(はん節)	豊後国
大分県	387	田植唄〔十二〕	豊後国

都道府県	番号	曲名	旧国
大分県	388	田植唄〔十三〕(はん節)	豊後国
大分県	389	田植唄〔十四〕	豊後国
大分県	390	田植唄〔十五〕	豊後国
大分県	391	田の草取唄〔一〕	豊後国
大分県	392	田の草取唄〔二〕	豊後国
大分県	393	田の草取唄〔三〕	豊後国
大分県	394	唐箕唄(唐箕節)	豊前国
大分県	395	摺臼唄〔一〕(ものすり唄)	豊後国
大分県	396	摺臼唄〔二〕	豊後国
大分県	397	摺臼唄〔三〕	豊前国
大分県	398	摺臼唄〔四〕	豊前国
大分県	399	摺臼唄〔五〕	豊前国
大分県	400	摺臼唄〔六〕(ものすり唄)	豊後国
大分県	401	摺臼唄〔七〕(ものすり唄)	豊後国
大分県	402	摺臼唄〔八〕(粉摺)	豊後国
大分県	403	摺臼唄〔九〕(粉摺)	豊後国
大分県	404	摺臼唄〔十〕(粉摺)	豊後国
大分県	405	摺臼唄〔十一〕	豊後国
大分県	406	摺臼唄〔十二〕(粉挽=小麦摺)	豊後国
大分県	407	搗臼唄〔一〕(台柄搗)	豊後国
大分県	408	搗臼唄〔二〕(麦搗)	豊後国
大分県	409	餅搗唄	豊後国
大分県	410	地形唄〔一〕	豊後国
大分県	411	地形唄〔二〕(松前音頭=ホーランエ)	豊後国
大分県	412-1	地形唄〔三〕(池普請唄=けんなん節)その一	豊後国
大分県	412-2	地形唄〔三〕(池普請唄=けんなん節)その二	豊後国
大分県	412-3	地形唄〔三〕(池普請唄=けんなん節)その三	豊後国
大分県	413	地形唄〔四〕(池搗唄=ヨットンセ節)	豊後国
大分県	414	地形唄〔五〕(いけどこ節)	豊後国
大分県	415-1	地形唄〔六〕(松前木遣)	豊後国
大分県	415-2	地形唄〔六〕(松前木遣)	豊後国
大分県	416	地形唄〔七〕(池の棒打唄)	豊前国
大分県	417	地形唄〔八〕(め搗き=ケンチャン節)	豊前国
大分県	418	地形唄〔九〕(千本掲)	豊前国
大分県	419	地形唄〔十〕(千本搗)	豊前国
大分県	420	地形唄〔十一〕(木遣)	豊後国
大分県	421-1	地形唄〔十二〕(千本搗=木遣)「耳打」	豊後国
大分県	421-2	地形唄〔十二〕(千本搗=木遣)「掛矢」	豊後国
大分県	421-3	地形唄〔十二〕(千本搗=木遣)「車搗」	豊後国
大分県	422	茶作唄(茶揉)	豊後国
大分県	423	酒造唄〔一〕(米洗)	豊後国
大分県	424	酒造唄〔二〕(米洗)	豊後国
大分県	425	酒造唄〔三〕(米洗)	豊後国
大分県	426	酒造唄〔四〕(酸搗)	豊後国
大分県	427	桑摘唄	豊後国
大分県	428	製糸唄(糸引唄)	豊後国
大分県	429	蠟作唄(燻ちぎり唄)	豊後国
大分県	430	鉱山唄〔一〕(金山の坑夫唄)	豊前国
大分県	431	鉱山唄〔二〕(石刀節=坑夫唄)	豊後国
大分県	432	鉱山唄〔三〕(鋤吹唄)	豊後国
大分県	433	鉱山唄〔四〕(ふいご唄)	豊後国
大分県	434	鉱山唄〔五〕(金吹唄=祝唄)	豊後国
大分県	435	山行唄〔一〕(野良唄・草刈唄)	豊前国
大分県	436	山行唄〔二〕(草切唄=草切馬子唄)	豊後国
大分県	437	山行唄〔三〕(道行=田舎唄)	豊後国
大分県	438	木挽唄〔一〕	豊後国
大分県	439	木挽唄〔二〕	豊後国

都道府県	番号	曲名	旧国
大分県	440	馬子唄〔一〕(馬追唄)	豊後国
大分県	441	馬子唄〔二〕(馬追唄)	豊後国
大分県	442	舟唄〔一〕(川舟唄=上荷唄)	豊後国
大分県	443	舟唄〔二〕(簗押唄)	豊後国
大分県	444	舟唄〔三〕(ヨイヨイ節=簗漕唄)	豊後国
大分県	445	鯛釣唄	豊後国
大分県	446	海老打唄	豊前国
大分県	447	海苔取唄	豊前国
大分県	448	馬刀貝突唄(まてつき音頭)	豊後国
大分県	449	船曳唄(松前木遣)	豊後国
大分県	450	大黒舞	豊後国
大分県	451	イヨコノ節(これの座敷)	豊後国
大分県	452	ヨイヤナ〔一〕(祝い目出度)	豊後国
大分県	453	ヨイヤナ〔二〕(ヨイヤナ節)	豊後国
大分県	454	ヨイヤナ〔三〕(みやこじ)	豊後国
大分県	455	シヨングエ節	豊後国
大分県	456	コツコツ節	豊後国
大分県	457	別府流し	豊後国
大分県	458	太政官節	豊後国
大分県	459	下の江節	豊後国
大分県	460	じょうさ節〔一〕	豊後国
大分県	461	じょうさ節〔二〕	豊後国
大分県	462	出雲節	豊後国
大分県	463	姫島盆踊唄	豊後国
大分県	464	盆踊唄(祭文)	豊後国
大分県	465	盆踊唄(六調子)	豊後国
大分県	466	盆踊唄(粟踏)	豊後国
大分県	467	盆踊唄(三つ拍子)	豊後国
大分県	468	盆踊唄(豊前踊)	豊後国
大分県	469	盆踊唄(ヤッテンサン)	豊後国
大分県	470	盆踊唄(まっかせ)	豊前国
大分県	471	盆踊唄(ばんしょう踊)	豊前国
大分県	472	盆踊唄(れそ)	豊後国
大分県	473	盆踊唄(二つ拍子)	豊後国
大分県	474	盆踊唄(博多踊)	豊前国
大分県	475	盆踊唄(米搗踊)	豊前国
大分県	476	盆踊唄(思案橋)	豊前国
大分県	477	盆踊唄(左衛門)	豊前国
大分県	478	盆踊唄(千本搦)	豊前国
大分県	479-1	津鮎踊「道行」	豊後国
大分県	479-2	津鮎踊「庭借」	豊後国
大分県	479-3	津鮎踊「庭入」	豊後国
大分県	479-4	津鮎踊「ばんば踊」	豊後国
大分県	480	盆踊唄(笠づくし)	豊後国
大分県	481	盆踊唄(ソレガエヤ)	豊後国
大分県	482	盆踊唄(山路踊)	豊後国
大分県	483	盆踊唄(六調子)	豊後国
大分県	484	盆踊唄(盆口説)	豊後国
大分県	485-1	鶴崎踊「猿丸太夫」	豊後国
大分県	485-2	鶴崎踊「左衛門」	豊後国
大分県	486	盆踊唄	豊後国
大分県	487-1	盆踊唄(念仏踊)	豊後国
大分県	487-2	盆踊唄(念仏踊)	豊後国
大分県	488	盆踊唄(イレコ・切り音頭)	豊後国
大分県	489	堅田踊「高い山」〔一〕	豊後国
大分県	490	堅田踊「市郎兵衛」〔二〕	豊後国
大分県	491	堅田踊「思案橋」〔三〕	豊後国
大分県	492	堅田踊「対馬」〔四〕	豊後国
大分県	493	堅田踊「奈須与一」〔五〕	豊後国
大分県	494	堅田踊「恋慕」〔六〕	豊後国

都道府県	番号	曲名	旧国
大分県	495	堅田踊「左衛門」〔七〕	豊後国
大分県	496	堅田踊「お夏清十郎」	豊後国
大分県	497	堅田踊「与勘兵衛」	豊後国
大分県	498	堅田踊「お為半蔵」	豊後国

九州南部

都道府県	番号	曲名	旧国
熊本県	1	子守唄〔一〕(阿蘇神社の子守唄)	肥後国
熊本県	2	子守唄〔二〕	肥後国
熊本県	3	子守唄〔三〕(雨乞い子守唄)	肥後国
熊本県	4	子守唄〔四〕	肥後国
熊本県	5	子守唄〔五〕	肥後国
熊本県	6	子守唄〔六〕	肥後国
熊本県	7	子守唄〔七〕	肥後国
熊本県	8	子守唄〔八〕(守り唄)	肥後国
熊本県	9	子守唄〔九〕	肥後国
熊本県	10	子守唄〔十〕	肥後国
熊本県	11	季節唄〔一〕(春節=茶摘唄)	肥後国
熊本県	12	季節唄〔二〕(秋節=稗ちぎり唄)	肥後国
熊本県	13	季節唄〔三〕(冬節=祝唄)	肥後国
熊本県	14	苗取唄〔一〕	肥後国
熊本県	15	苗取唄〔二〕	肥後国
熊本県	16	田植唄〔一〕	肥後国
熊本県	17	田植唄〔二〕	肥後国
熊本県	18	田植唄〔三〕	肥後国
熊本県	19	田植唄〔四〕	肥後国
熊本県	20	田植唄〔五〕	肥後国
熊本県	21	田植唄〔六〕	肥後国
熊本県	22	田植唄〔七〕	肥後国
熊本県	23	田植唄〔八〕	肥後国
熊本県	24	田植唄〔九〕	肥後国
熊本県	25	田植唄〔十〕(日向節)	肥後国
熊本県	26	田植唄〔十一〕(思案節)	肥後国
熊本県	27	田植唄〔十二〕(投げ節)	肥後国
熊本県	28	田植唄〔十三〕	肥後国
熊本県	29	田植唄〔十四〕	肥後国
熊本県	30	田植唄〔十五〕	肥後国
熊本県	31	田植唄〔十六〕	肥後国
熊本県	32	田植唄〔十七〕	肥後国
熊本県	33	田の草取唄〔一〕	肥後国
熊本県	34	田の草取唄〔二〕	肥後国
熊本県	35	田の草取唄〔三〕	肥後国
熊本県	36	田の草取唄〔四〕(日向節)	肥後国
熊本県	37	田の草取唄〔五〕	肥後国
熊本県	38	田の草取唄〔六〕(ショングガ節)	肥後国
熊本県	39	田の草取唄〔七〕 (ショングガババ=ショングガ盆唄)	肥後国
熊本県	40	田の草取唄〔八〕(よしんぼ)	肥後国
熊本県	41	田の草取唄〔九〕(くもらば)	肥後国
熊本県	42	田の草取唄〔十〕(花の千三つ女)	肥後国
熊本県	43	田の草取唄〔十一〕(草切唄)	肥後国
熊本県	44	田の草取唄〔十二〕	肥後国
熊本県	45	田の草取唄〔十三〕	肥後国
熊本県	46	田の草取唄〔十四〕	肥後国
熊本県	47	水踏唄	肥後国
熊本県	48	麦打唄	肥後国
熊本県	49	摺臼唄〔一〕(粉挽=唐黍挽唄)	肥後国
熊本県	50	摺臼唄〔二〕(粉挽=だごすり唄)	肥後国
熊本県	51	摺臼唄〔三〕(粉挽=唐黍摺唄)	肥後国
熊本県	52	摺臼唄〔四〕(粃摺)	肥後国
熊本県	53	摺臼唄〔五〕(粃摺)	肥後国
熊本県	54	摺臼唄〔六〕(粃摺)	肥後国
熊本県	55	摺臼唄〔七〕(粃摺)	肥後国
熊本県	56	摺臼唄〔八〕(粃摺)	肥後国
熊本県	57	摺臼唄〔九〕(粃摺)	肥後国
熊本県	58	摺臼唄〔十〕(粃摺)	肥後国

都道府県	番号	曲名	旧国
熊本県	59	摺臼唄〔十一〕(粃摺)	肥後国
熊本県	60	搗臼唄〔一〕(米搗)	肥後国
熊本県	61	搗臼唄〔二〕(米踏=ヒョンコ節)	肥後国
熊本県	62	搗臼唄〔三〕(米搗=けしね唄)	肥後国
熊本県	63	搗臼唄〔四〕(麦搗=麦仕の唄)	肥後国
熊本県	64	搗臼唄〔五〕(米搗)	肥後国
熊本県	65	搗臼唄〔六〕(麦搗)	肥後国
熊本県	66	搗臼唄〔七〕(米踏=ヒョンコ節)	肥後国
熊本県	67	搗臼唄〔八〕(米搗)	肥後国
熊本県	68	搗臼唄〔九〕(米搗=けしね唄)	肥後国
熊本県	69	搗臼唄〔十〕(もんつき唄)	肥後国
熊本県	70	搗臼唄〔十一〕(もんつき唄)	肥後国
熊本県	71	地形唄〔一〕(地搗唄)	肥後国
熊本県	72	地形唄〔二〕(木遣)	肥後国
熊本県	73	地形唄〔三〕(木場ずり唄=木遣)	肥後国
熊本県	74	地形唄〔四〕(土搗唄)	肥後国
熊本県	75	地形唄〔五〕(木出し)	肥後国
熊本県	76	地形唄〔六〕(土搗唄)	肥後国
熊本県	77	地形唄〔七〕(土搗唄)	肥後国
熊本県	78	新地節〔一〕(潟担い節・旧節)	肥後国
熊本県	79	新地節〔二〕(潟担い節・新節)	肥後国
熊本県	80	新地節〔三〕(潟切節)	肥後国
熊本県	81	新地節〔四〕(大鞘節)	肥後国
熊本県	82	新地節〔五〕(土手よ節)	肥後国
熊本県	83	新地節〔六〕	肥後国
熊本県	84	味噌搗唄	肥後国
熊本県	85	茶作唄〔一〕(茶摘唄)	肥後国
熊本県	86	茶作唄〔二〕(茶揉唄)	肥後国
熊本県	87	茶作唄〔三〕(仕上唄)	肥後国
熊本県	88	茶作唄〔四〕(茶山唄)	肥後国
熊本県	89	茶作唄〔五〕(茶摘唄)	肥後国
熊本県	90	茶作唄〔六〕(茶揉唄・木挽唄)	肥後国
熊本県	91	茶作唄〔七〕(茶摘唄)	肥後国
熊本県	92	茶作唄〔八〕(茶摘唄)	肥後国
熊本県	93	石切唄〔一〕	肥後国
熊本県	94	石切唄〔二〕(石屋節)	肥後国
熊本県	95	山行唄〔一〕(朝草切唄)	肥後国
熊本県	96	山行唄〔二〕 (刈干唄・雨降唄・田の草取唄)	肥後国
熊本県	97	山行唄〔三〕(刈干切唄)	肥後国
熊本県	98	山行唄〔四〕(草採唄)	肥後国
熊本県	99	山行唄〔五〕	肥後国
熊本県	100	山行唄〔六〕(草切唄)	肥後国
熊本県	101	山行唄〔七〕	肥後国
熊本県	102	山行唄〔八〕(蕨採唄)	肥後国
熊本県	103	山行唄〔九〕(草切節)	肥後国
熊本県	104	猪獲唄	肥後国
熊本県	105	木おろし唄〔一〕	肥後国
熊本県	106	木おろし唄〔二〕	肥後国
熊本県	107	木おろし唄〔三〕	肥後国
熊本県	108	木おろし唄〔四〕(春のかすみ)	肥後国
熊本県	109	木挽唄〔一〕(山師唄)	肥後国
熊本県	110	木挽唄〔二〕	肥後国
熊本県	111	馬子唄(馬方節)	肥後国
熊本県	112	忍び唄	肥後国
熊本県	113	球磨川舟唄	肥後国
熊本県	114	船おろし唄	肥後国
熊本県	115	汐替節	肥後国
熊本県	116	ヨイヤナ〔一〕	肥後国
熊本県	117	ヨイヤナ〔二〕	肥後国

都道府県	番号	曲名	旧国
熊本県	118	祝唄	肥後国
熊本県	119	高い山	肥後国
熊本県	120	ドッコイシヨ	肥後国
熊本県	121	ドッコイセ節	肥後国
熊本県	122	ノンシコラ	肥後国
熊本県	123	ねんねこ節	肥後国
熊本県	124	お座敷木挽唄	肥後国
熊本県	125	ポンポコニヤ	肥後国
熊本県	126	キンキラキン	肥後国
熊本県	127	キンニョム節	肥後国
熊本県	128	田原坂	肥後国
熊本県	129	おてもやん(熊本甚句)	肥後国
熊本県	130	エントコ節	肥後国
熊本県	131	オケケ節	肥後国
熊本県	132	お蔭節	肥後国
熊本県	133	ぼけの小袖	肥後国
熊本県	134	塩売り	肥後国
熊本県	135	せんま女	肥後国
熊本県	136	淀の川瀬	肥後国
熊本県	137	球磨六調子	肥後国
熊本県	138	エンヤラヤ	肥後国
熊本県	139	ハイヤ節	肥後国
熊本県	140	松坂節(牛深松坂節)	肥後国
熊本県	141	出雲節	肥後国
熊本県	142	ヨヘホ節	肥後国
熊本県	143	盆踊唄(庭借り)	肥後国
熊本県	144	盆踊唄(団七)	肥後国
熊本県	145	盆踊唄(八百屋お七)	肥後国
熊本県	146	盆踊唄(二つ拍子)	肥後国
熊本県	147	盆踊唄(二つ拍子)	肥後国
熊本県	148	盆踊唄(祭文)	肥後国
熊本県	149	盆踊唄(団七踊)	肥後国
熊本県	150	盆踊唄(杵築踊)	肥後国
熊本県	151	盆踊唄(かますか踊)	肥後国
熊本県	152	盆踊唄(くち節)	肥後国
熊本県	153	盆踊唄(猿丸太夫)	肥後国
熊本県	154	盆踊唄(弓ひき踊)	肥後国
熊本県	155	盆踊唄(東山)	肥後国
熊本県	156	盆踊唄(伊勢音頭)	肥後国
熊本県	157	盆踊唄(麦搗踊)	肥後国
熊本県	158	盆踊唄(笠づくし)	肥後国
熊本県	159	盆踊唄	肥後国
熊本県	160	盆踊唄(シヨング踊)	肥後国
熊本県	161	盆踊唄(シヨング節)	肥後国
熊本県	162	御嶽詣り	肥後国
熊本県	163	十六日唄	肥後国
熊本県	164	祭礼馬子唄(一)	肥後国
熊本県	165	祭礼馬子唄(二)	肥後国
熊本県	166	十五夜綱引唄	肥後国
宮崎県	167	子守唄	日向国
宮崎県	168	季節唄(一)(春節)	日向国
宮崎県	169	季節唄(二)(春節)	日向国
宮崎県	170	季節唄(三)(秋節)	日向国
宮崎県	171	季節唄(四)(秋節)	日向国
宮崎県	172	苗取唄	日向国
宮崎県	173	田植唄(一)	日向国
宮崎県	174	田植唄(二)	日向国
宮崎県	175	田植唄(三)	日向国
宮崎県	176	田植唄(四)	日向国
宮崎県	177	田植唄(五)	日向国

都道府県	番号	曲名	旧国
宮崎県	178	田植唄(六)	日向国
宮崎県	179	田の草取唄(一)(四月節)	日向国
宮崎県	180	田の草取唄(二)	日向国
宮崎県	181	田の草取唄(三)	日向国
宮崎県	182	田の草取唄(四)	日向国
宮崎県	183	田の草取唄(五)(コラヨ節)	日向国
宮崎県	184	田の草取唄(六)	日向国
宮崎県	185	田の草取唄(七)(シヨッショ節)	日向国
宮崎県	186	稗ちぎり唄	日向国
宮崎県	187	摺白唄(一)(粉挽)	日向国
宮崎県	188	摺白唄(二)(粉摺)	日向国
宮崎県	189	摺白唄(三)(粉摺)	日向国
宮崎県	190	摺白唄(四)(粉摺)	日向国
宮崎県	191	摺白唄(五)(粉摺=米摺)	日向国
宮崎県	192	摺白唄(六)(粉摺)	日向国
宮崎県	193	摺白唄(七)(米摺)	日向国
宮崎県	194	搗臼唄(稗搗節)	日向国
宮崎県	195	地形唄(一)(木遣唄)	日向国
宮崎県	196	地形唄(二)(地搗唄)	日向国
宮崎県	197	地形唄(三)(胴突唄)	日向国
宮崎県	198	地形唄(四)(胴突唄)	日向国
宮崎県	199	地形唄(五)(胴突唄)	日向国
宮崎県	200	地形唄(六)(地搗唄)	日向国
宮崎県	201	地形唄(七)(地搗唄)	日向国
宮崎県	202	地形唄(八)(地突唄)	日向国
宮崎県	203	地形唄(九)(地つき唄)	日向国
宮崎県	204	地形唄(十)(地つき唄)	日向国
宮崎県	205	新地節	日向国
宮崎県	206	茶作唄(一)(茶山節)	日向国
宮崎県	207	茶作唄(二)(茶摘唄・旧節)	日向国
宮崎県	208	茶作唄(三)(茶摘唄・新節)	日向国
宮崎県	209	砂糖練唄	日向国
宮崎県	210	酒造唄(一)(桶洗)	日向国
宮崎県	211	酒造唄(二)(酩摺)	日向国
宮崎県	212	酒造唄(三)(突物唄)	日向国
宮崎県	213	鉦山唄(一)(金吹唄)	日向国
宮崎県	214	鉦山唄(二)(石当節)	日向国
宮崎県	215	鉦山唄(三)(石刀節)	日向国
宮崎県	216	鉦山唄(四)(水引唄)	日向国
宮崎県	217	山行唄(一)(山唄)	日向国
宮崎県	218	山行唄(二)(かずね掘唄)	日向国
宮崎県	219	山行唄(三)(刈干切唄)	日向国
宮崎県	220	山行唄(四)(刈干切唄)	日向国
宮崎県	221	山行唄(五)(刈干切唄)	日向国
宮崎県	222	山行唄(六)(草切唄)	日向国
宮崎県	223	木おろし唄(一)	日向国
宮崎県	224	木おろし唄(二)	日向国
宮崎県	225	木おろし唄(三)(朝の登り木)	日向国
宮崎県	226	木おろし唄(四)(昼の登り木)	日向国
宮崎県	227	木おろし唄(五)(晩の降り木)	日向国
宮崎県	228	木おろし唄(六)(出掛唄)	日向国
宮崎県	229	木おろし唄(七)(帰り唄)	日向国
宮崎県	230	木おろし唄(八)(小豆島)	日向国
宮崎県	231	木おろし唄(九)(宮女)	日向国
宮崎県	232	木おろし唄(十)(朝の登り木)	日向国
宮崎県	233	木おろし唄(十一) (山の神を祭る唄)	日向国
宮崎県	234	木おろし唄(十二)(山の神唄)	日向国
宮崎県	235	木挽唄(一)	日向国
宮崎県	236	木挽唄(二)	日向国

都道府県	番号	曲名	旧国
宮崎県	237	馬子唄	日向国
宮崎県	238	舟唄(鱧漕唄)	日向国
宮崎県	239	船おろし唄(船おろし音頭)	日向国
宮崎県	240	網曳唄	日向国
宮崎県	241	大漁唄(エイコノ節)	日向国
宮崎県	242	エイコノ唄	日向国
宮崎県	243	婚礼祝唄(エイコノ節)	日向国
宮崎県	244	祝唄	日向国
宮崎県	245	祝い目出度	日向国
宮崎県	246	祝言唄(一)(馬方節)	日向国
宮崎県	247	祝言唄(二)(馬方節)	日向国
宮崎県	248	ヨイヤナ節	日向国
宮崎県	249	ハンジャ節(祝唄)	日向国
宮崎県	250	にかた節	日向国
宮崎県	251	ショングエ節(ヨイコノ)	日向国
宮崎県	252	桃と桜	日向国
宮崎県	253	花の熊本	日向国
宮崎県	254	塩や塩	日向国
宮崎県	255	あけのからす	日向国
宮崎県	256	尾八重とめ女	日向国
宮崎県	257	そうじゃろばい	日向国
宮崎県	258	吉野はずし	日向国
宮崎県	259	ヨサコイ	日向国
宮崎県	260	六調子	日向国
宮崎県	261	松島	日向国
宮崎県	262	ヤッサ節	日向国
宮崎県	263	安久節	日向国
宮崎県	264	じょうさ節(一)	日向国
宮崎県	265	じょうさ節(二)	日向国
宮崎県	266	じょうさ節(三)(中村節)	日向国
宮崎県	267	ハンヤ節	日向国
宮崎県	268	仕事始の唄	日向国
宮崎県	269	的射節	日向国
宮崎県	270	盆踊唄(綱引)	日向国
宮崎県	271	盆踊唄(テコテン)	日向国
宮崎県	272	盆踊唄(庭干しあせり)	日向国
宮崎県	273	盆踊唄(口説音頭)	日向国
宮崎県	274	盆踊唄(源平口説)	日向国
宮崎県	275	盆踊唄(出羽)	日向国
宮崎県	276	盆踊唄(四ツ竹音頭)	日向国
宮崎県	277	盆踊唄(宮崎音頭)	日向国
宮崎県	278	盆踊唄(兵庫音頭)	日向国
宮崎県	279	盆踊唄(手踊)	日向国
宮崎県	280	盆踊唄(地踊)	日向国
宮崎県	281	盆踊唄(盆踊口説)	日向国
宮崎県	282	盆踊唄	日向国
宮崎県	283	盆踊唄	日向国
宮崎県	284	盆踊唄(お艶口説)	日向国
宮崎県	285	神楽せり唄(一)	日向国
宮崎県	286	神楽せり唄(二)	日向国
宮崎県	287	青島夏祭唄	日向国
鹿児島県	288	子守唄(一)	薩摩国
鹿児島県	289	子守唄(二)	大隅国
鹿児島県	290	子守唄(三)	薩摩国
鹿児島県	291	子守唄(四)	薩摩国
鹿児島県	292	子守唄(五)	大隅国
鹿児島県	293	子守唄(六)	大隅国
鹿児島県	294	子守唄(七)	大隅国
鹿児島県	295	苗取唄	大隅国
鹿児島県	296-1	田植唄(一)[朝唄]	大隅国

都道府県	番号	曲名	旧国
鹿児島県	296-2	田植唄(一)[昼唄]	大隅国
鹿児島県	297	田植唄(二)(宝満神社お田植唄)	大隅国
鹿児島県	298	田植唄(三)	大隅国
鹿児島県	299	田の草取唄(一)	薩摩国
鹿児島県	300	田の草取唄(二)	大隅国
鹿児島県	301	麦刈唄	大隅国
鹿児島県	302	生蓋掘唄	大隅国
鹿児島県	303	摺臼唄(一)(粉摺)	大隅国
鹿児島県	304	摺臼唄(二)(粉摺)	大隅国
鹿児島県	305	搗臼唄(一)(米搗)	薩摩国
鹿児島県	306	搗臼唄(二)(粉搗)	大隅国
鹿児島県	307	搗臼唄(三)(米搗)	大隅国
鹿児島県	308	搗臼唄(四)(米搗)	大隅国
鹿児島県	309	新地節	薩摩国
鹿児島県	310	地形唄(一)(地搗唄)	薩摩国
鹿児島県	311-1	地形唄(二)(地搗(ちき)唄) 1	大隅国
鹿児島県	311-2	地形唄(二)(地搗(ちき)唄) 2	大隅国
鹿児島県	312	地形唄(三)(鳥居曳木遣唄)	大隅国
鹿児島県	313	地形唄(四)	大隅国
鹿児島県	314	地形唄(五)(木遣節)	薩摩国
鹿児島県	315	地形唄(六)(地搗唄)	薩摩国
鹿児島県	316	地形唄(七)(杭打唄)	薩摩国
鹿児島県	317	地形唄(八)(どんぢ節)	薩摩国
鹿児島県	318	地形唄(九)(川神どんぢ節)	薩摩国
鹿児島県	319	地形唄(十)(木遣節)	大隅国
鹿児島県	320	地形唄(十一)(かしき唄)	大隅国
鹿児島県	321	地形唄(十二)(木遣)	大隅国
鹿児島県	322	機織唄	薩摩国
鹿児島県	323	樟脳節(一)	大隅国
鹿児島県	324-1	樟脳節(二) 1	大隅国
鹿児島県	324-2	樟脳節(二) 2	大隅国
鹿児島県	325	鉱山唄(一)(石刀節)	薩摩国
鹿児島県	326	鉱山唄(二)(石当節)	大隅国
鹿児島県	327	山行唄(一)(草切唄)	薩摩国
鹿児島県	328	山行唄(二)(山鳥節)	薩摩国
鹿児島県	329	山行唄(三)(草切唄)	薩摩国
鹿児島県	330	山行唄(四)(刈敷取唄)	薩摩国
鹿児島県	331	山行唄(五)(草切唄)	薩摩国
鹿児島県	332	山行唄(六)(草切節)	大隅国
鹿児島県	333	山行唄(七)(草切節)	大隅国
鹿児島県	334	山行唄(八)(草刈節)	大隅国
鹿児島県	335	平木割(と)りの唄	大隅国
鹿児島県	336	山神唄	薩摩国
鹿児島県	337	木挽唄(一)	大隅国
鹿児島県	338	木挽唄(二)(天草の木挽唄)	薩摩国
鹿児島県	339	馬子唄(一)(駄賃取唄)	薩摩国
鹿児島県	340	馬子唄(二)(駄賃取唄)	薩摩国
鹿児島県	341	出逢節	薩摩国
鹿児島県	342	筏流し唄(一)(川流れ節)	薩摩国
鹿児島県	343	筏流し唄(二)(川流れ節)	薩摩国
鹿児島県	344	川内川舟唄	薩摩国
鹿児島県	345	舟唄(一)(夜舟唄)	薩摩国
鹿児島県	346	舟唄(二)(船方節)	薩摩国
鹿児島県	347	舟唄(三)(鱧漕し)	薩摩国
鹿児島県	348	舟唄(四)(追分)	大隅国
鹿児島県	349	網曳唄(一)(地曳唄)	大隅国
鹿児島県	350	網曳唄(二)(網持ち囃し)	大隅国
鹿児島県	351	綱打唄(一)(綱打ち囃し)	大隅国
鹿児島県	352	綱打唄(二)	薩摩国
鹿児島県	353	汐替節(一)(ヤッサイ)	薩摩国

都道府県	番号	曲名	旧国
鹿児島県	354	汐替節〔二〕(松坂)	薩摩国
鹿児島県	355	汐替節〔三〕	薩摩国
鹿児島県	356	汐替節〔四〕	薩摩国
鹿児島県	357	汐替節〔五〕	薩摩国
鹿児島県	358	汐替節〔六〕	大隅国
鹿児島県	359	大漁の掛聲	薩摩国
鹿児島県	360	ヨイコン節	薩摩国
鹿児島県	361	船祝唄	大隅国
鹿児島県	362	船おろし唄〔一〕(かりよしの船)	薩摩国
鹿児島県	363	船おろし唄〔二〕(松前木遣)	大隅国
鹿児島県	364	船出し唄	大隅国
鹿児島県	365	漁まつり唄(大漁祈願唄)	大隅国
鹿児島県	366	馬方節(婚礼祝唄)〔一〕	大隅国
鹿児島県	367	馬方節(婚礼祝唄)〔二〕	大隅国
鹿児島県	368	祝唄〔一〕(嫁女唄)	薩摩国
鹿児島県	369	祝唄〔二〕(御前迎)	薩摩国
鹿児島県	370	祝唄〔三〕(御祝儀唄)	大隅国
鹿児島県	371	祝唄〔四〕(芋種)	大隅国
鹿児島県	372	もちあぶり唄(祝唄)	大隅国
鹿児島県	373	シヨంగా節〔一〕	薩摩国
鹿児島県	374	シヨంగా節〔二〕	薩摩国
鹿児島県	375	シヨంగా節〔三〕	薩摩国
鹿児島県	376	シヨంగా節〔四〕	薩摩国
鹿児島県	377	シヨంగా節〔五〕	大隅国
鹿児島県	378	シヨంగా節〔六〕	大隅国
鹿児島県	379	松坂〔一〕	薩摩国
鹿児島県	380	松坂〔二〕(草切唄)	薩摩国
鹿児島県	381	松坂〔三〕	大隅国
鹿児島県	382	松坂〔四〕(よろこん節)	大隅国
鹿児島県	383	松番田〔一〕	大隅国
鹿児島県	384	松番田〔二〕	大隅国
鹿児島県	385	松番田〔三〕	大隅国
鹿児島県	386	よろこん節〔一〕	大隅国
鹿児島県	387	よろこん節〔二〕	大隅国
鹿児島県	388	嬉しめでた	大隅国
鹿児島県	389	ゆくいとし	大隅国
鹿児島県	390	めでた節〔一〕	大隅国
鹿児島県	391	めでた節〔二〕	大隅国
鹿児島県	392	めでた節〔三〕	大隅国
鹿児島県	393	めでた節〔四〕	大隅国
鹿児島県	394	西目出し	大隅国
鹿児島県	395	えんな節	大隅国
鹿児島県	396	ドンサカ	大隅国
鹿児島県	397-1	ノンノコ(前唄)	薩摩国
鹿児島県	397-2	ノンノコ(本唄)	薩摩国
鹿児島県	398	まいろうえ	薩摩国
鹿児島県	399	煙草種唄	薩摩国
鹿児島県	400	ハイヤ節〔一〕(ハンヤ節)	大隅国
鹿児島県	401	ハイヤ節〔二〕(ハンヤ節)	薩摩国
鹿児島県	402	ハイヤ節〔三〕(ハンヤ節)	薩摩国
鹿児島県	403	ハイヤ節〔四〕(ハンヤ節)	薩摩国
鹿児島県	404	ハイヤ節〔五〕(ハンヤ節)	薩摩国
鹿児島県	405	ハイヤ節〔六〕(ハンヤ節・おけさ節)	薩摩国
鹿児島県	406	ハイヤ節〔七〕	薩摩国
鹿児島県	407	ハイヤ節〔八〕(ハンヤ節)	薩摩国
鹿児島県	408	ハイヤ節〔九〕	大隅国
鹿児島県	409	ハイヤ節〔十〕	大隅国
鹿児島県	410	ハイヤ節〔十一〕	大隅国
鹿児島県	411	おけさ節	大隅国
鹿児島県	412	六調子〔一〕(ろくちゅし)	大隅国

都道府県	番号	曲名	旧国
鹿児島県	413	六調子〔二〕	薩摩国
鹿児島県	414	六調子〔三〕	大隅国
鹿児島県	415	六調子〔四〕	薩摩国
鹿児島県	416	六調子〔五〕(どっつし)	大隅国
鹿児島県	417	ヤッサ節〔一〕	大隅国
鹿児島県	418	ヤッサ節〔二〕	薩摩国
鹿児島県	419	ヤッサ節〔三〕	大隅国
鹿児島県	420	オハラ節〔一〕	薩摩国
鹿児島県	421	オハラ節〔二〕(鹿児島小原良節)	薩摩国
鹿児島県	422	オハラ節〔三〕	大隅国
鹿児島県	423	天草節(鎮台のぼり)	薩摩国
鹿児島県	424	ヨサコイ節〔一〕(鹿児島よさこい)	大隅国
鹿児島県	425	ヨサコイ節〔二〕	薩摩国
鹿児島県	426	ヨサコイ節〔三〕 (鹿児島よさこい節)	薩摩国
鹿児島県	427	ヨサコイ節〔四〕(金山ヨサコイ節)	薩摩国
鹿児島県	428	ヨサコイ節〔五〕(鹿児島よさこい節)	薩摩国
鹿児島県	429	ヨサコイ節〔六〕(鹿児島よさこい節)	薩摩国
鹿児島県	430	ヨサコイ節〔七〕	薩摩国
鹿児島県	431	角力取節〔一〕(鹿児島角力取節)	薩摩国
鹿児島県	432	角力取節〔二〕	薩摩国
鹿児島県	433	角力取節〔三〕	大隅国
鹿児島県	434	伊勢音頭〔一〕(いせもんど)	大隅国
鹿児島県	435	伊勢音頭〔二〕	大隅国
鹿児島県	436	伊勢音頭〔三〕	大隅国
鹿児島県	437	大津絵〔一〕(おちよ・鹿児島大津絵)	大隅国
鹿児島県	438	大津絵〔二〕(おちえ節)	大隅国
鹿児島県	439	松島節〔一〕	大隅国
鹿児島県	440	松島節〔二〕	大隅国
鹿児島県	441	にがた節〔一〕	薩摩国
鹿児島県	442	にがた節〔二〕(荷方節)	大隅国
鹿児島県	443	船節	薩摩国
鹿児島県	444	船方節〔一〕	薩摩国
鹿児島県	445	船方節〔二〕(帆あげ唄)	大隅国
鹿児島県	446	出雲節	大隅国
鹿児島県	447	権四郎爺	薩摩国
鹿児島県	448	小村御新田節	大隅国
鹿児島県	449	サノサ(串木野サノサ)	薩摩国
鹿児島県	450	知覧節	薩摩国
鹿児島県	451	道楽節	大隅国
鹿児島県	452	島節	大隅国
鹿児島県	453	お縁節	薩摩国
鹿児島県	454	しゃくだんばな	薩摩国
鹿児島県	455	伊予節	大隅国
鹿児島県	456	断髪っちゃん節	薩摩国
鹿児島県	457	ラッパ節	薩摩国
鹿児島県	458	種子屋久節	大隅国
鹿児島県	459	鉄砲伝来の唄	大隅国
鹿児島県	460	唐芋数え唄	大隅国
鹿児島県	461	コーライ節	大隅国
鹿児島県	462	弥吉しお女	大隅国
鹿児島県	463	増田節	大隅国
鹿児島県	464	コチャエ	大隅国
鹿児島県	465	ナアナア節(辛気節)	大隅国
鹿児島県	466	鹿児島三下り	薩摩国
鹿児島県	467	十五夜唄〔一〕	大隅国
鹿児島県	468	十五夜唄〔二〕(おさん口説)	大隅国
鹿児島県	469	十五夜綱曳唄	大隅国
鹿児島県	470	盆踊唄(枇杷島合戦)	大隅国
鹿児島県	471	盆踊唄(五尺節)	大隅国

都道府県	番号	曲名	旧国
鹿児島県	472	八月踊(唐芋数え唄)	大隅国
鹿児島県	473	八月踊(田舎土産)	大隅国
鹿児島県	474	盆踊唄(甑島ヤンハ)	薩摩国
鹿児島県	475	盆踊唄(ちかだ浜)	薩摩国
鹿児島県	476	盆踊唄(壺屋節)	薩摩国
鹿児島県	477	盆踊唄(えいや判官)	薩摩国
鹿児島県	478	盆踊唄(一合まいた・麦まき唄)	薩摩国
鹿児島県	479	盆踊唄(下田嘉太郎)	大隅国
鹿児島県	480	盆踊唄(先廻り唄)	大隅国
鹿児島県	481	盆踊唄(手踊唄)	大隅国
鹿児島県	482	盆踊唄(銭壺踊)	大隅国
鹿児島県	483	盆踊唄(扇子踊)	大隅国
鹿児島県	484	盆踊唄(扇子踊)	大隅国
鹿児島県	485	盆踊唄(みの踊)	大隅国
鹿児島県	486	盆踊唄(四つ竹)	大隅国
鹿児島県	487	盆踊唄(四つ竹)	大隅国
鹿児島県	488	盆踊唄(笠踊)	大隅国
鹿児島県	489	盆踊唄(松島踊)	大隅国
鹿児島県	490	盆踊唄(ヤートセイ・おくめ口説)	大隅国
鹿児島県	491	御新田節	大隅国
鹿児島県	492	盆踊唄(瓢箪踊)	大隅国
鹿児島県	493	盆踊唄(浜踊)	大隅国
鹿児島県	494	角力口説	薩摩国
鹿児島県	495	亀寿踊	大隅国
鹿児島県	496	山神供養の口説	大隅国
鹿児島県	497	帆掛節	薩摩国
鹿児島県	498	四季節	薩摩国
鹿児島県	499	かれよし	薩摩国
鹿児島県	500	古琴節	薩摩国
鹿児島県	501	にせ唄	大隅国
鹿児島県	502	那覇節	薩摩国
鹿児島県	503	北ん町	大隅国
鹿児島県	504	ちくてん「前唄」	大隅国
鹿児島県	504	ちくてん「中」	大隅国
鹿児島県	504	ちくてん「ちくてん」	大隅国
鹿児島県	505	金掘唄(祭唄)	大隅国
鹿児島県	506	砕場(せいば)唄(祭唄)	大隅国

中国

都道府県	番号	曲名	旧国
鳥取県	001	田植唄〔一〕	因幡国
鳥取県	002	田植唄〔二〕	因幡国
鳥取県	003	田植唄〔三〕	因幡国
鳥取県	004	田植唄〔四〕	因幡国
鳥取県	005	田植唄〔五〕	伯耆国
鳥取県	006	田植唄〔六〕	伯耆国
鳥取県	007	田植唄〔七〕	伯耆国
鳥取県	008	田植唄〔八〕	伯耆国
鳥取県	009	田植唄〔九〕(かつま)	伯耆国
鳥取県	010	田植唄〔十〕	伯耆国
鳥取県	011	田植唄〔十一〕	伯耆国
鳥取県	012	苗取唄〔一〕	伯耆国
鳥取県	013	田植唄〔十二〕	伯耆国
鳥取県	014-1	田植唄〔十三〕「本節」	伯耆国
鳥取県	014-2	田植唄〔十三〕「変り節」	伯耆国
鳥取県	015	田植唄〔十四〕(米搗節)	伯耆国
鳥取県	016	田植唄〔十五〕(きさつ節=かつま)	伯耆国
鳥取県	017	苗取唄〔二〕	伯耆国
鳥取県	018	田植唄〔十六〕(きり唄)	伯耆国
鳥取県	019	苗取唄〔三〕	伯耆国
鳥取県	020-1	田植唄〔十七〕(さげ唄)	伯耆国
鳥取県	020-2	田植唄〔十七〕(ねり唄)	伯耆国
鳥取県	021	田植唄〔十八〕(かつま節)	伯耆国
鳥取県	022	田植唄〔十九〕	伯耆国
鳥取県	023	田の草取唄〔一〕	因幡国
鳥取県	024	田の草取唄〔二〕	因幡国
鳥取県	025	田の草取唄〔三〕	伯耆国
鳥取県	026	田の草取唄〔四〕	伯耆国
鳥取県	027	麦打唄〔一〕(唐竿唄)	因幡国
鳥取県	028	麦打唄〔二〕	伯耆国
鳥取県	029	摺臼唄〔一〕(唐臼唄=初摺)	因幡国
鳥取県	030	摺臼唄〔二〕(唐臼唄)	伯耆国
鳥取県	031	摺臼唄〔三〕(石臼唄)	伯耆国
鳥取県	032	摺臼唄〔四〕(初摺)	伯耆国
鳥取県	033	摺臼唄〔五〕(唐臼挽唄)	伯耆国
鳥取県	034	摺臼唄〔六〕	伯耆国
鳥取県	035	搗臼唄〔一〕(臼踏唄)	因幡国
鳥取県	036	搗臼唄〔二〕(米搗)	伯耆国
鳥取県	037	餅搗唄〔一〕	因幡国
鳥取県	038	餅搗唄〔二〕	伯耆国
鳥取県	039	地形唄〔一〕(エントコ=土突唄)	因幡国
鳥取県	040	地形唄〔二〕(地搗唄・木遣唄)	因幡国
鳥取県	041	地形唄〔三〕(地締唄)	伯耆国
鳥取県	042	地形唄〔四〕(地搗唄)	伯耆国
鳥取県	043	地形唄〔五〕(杭打唄=もんき搗)	伯耆国
鳥取県	044	地形唄〔六〕 (千本打ち=土堤普請棒叩き)	伯耆国
鳥取県	045	味噌搗唄	因幡国
鳥取県	046	茶作唄〔一〕(揉唄)	因幡国
鳥取県	047	茶作唄〔二〕(箕唄=仕上げ唄)	因幡国
鳥取県	048	酒造唄〔一〕(桶洗い唄)	因幡国
鳥取県	049	酒造唄〔二〕(甑摺唄)	因幡国
鳥取県	050	酒造唄〔三〕(突き物唄)	因幡国
鳥取県	051	酒造唄〔四〕(もろみ糺入唄)	因幡国
鳥取県	052	酒造唄〔五〕(米磨唄)	因幡国
鳥取県	053	製糸唄(糸引唄)	因幡国
鳥取県	054	製紙唄(紙漉唄)	因幡国
鳥取県	055	石刀節	因幡国
鳥取県	056	鉾山唄(鉾夫唄)	伯耆国

都道府県	番号	曲名	旧国
鳥取県	057	踏鞴(たたら)唄(一)	因幡国
鳥取県	058	踏鞴(たたら)唄(二)	因幡国
鳥取県	059	踏鞴(たたら)唄(三)	伯耆国
鳥取県	060	踏鞴(たたら)唄(四)(番子唄)	伯耆国
鳥取県	061	踏鞴(たたら)唄(五)(番子唄)	伯耆国
鳥取県	062	湯かむり唄	因幡国
鳥取県	063	山行唄(草刈唄)	因幡国
鳥取県	064	木樵唄	因幡国
鳥取県	065	木挽唄	因幡国
鳥取県	066	炭焼唄(一)	因幡国
鳥取県	067	炭焼唄(二)	因幡国
鳥取県	068	牛追掛(追掛節)	伯耆国
鳥取県	069	舟追分	因幡国
鳥取県	070	貝殻節(一)(簗漕唄)	伯耆国
鳥取県	071	貝殻節(二)	因幡国
鳥取県	072	貝殻節(三)	因幡国
鳥取県	073	貝殻節(四)	因幡国
鳥取県	074	大漁節	伯耆国
鳥取県	075	船下し唄	因幡国
鳥取県	076	はもし唄(船祝唄)	伯耆国
鳥取県	077	長持唄(一)(因幡道中節)	因幡国
鳥取県	078	長持唄(二)(祝言唄)	伯耆国
鳥取県	079	長持唄(三)(祝言唄)	伯耆国
鳥取県	080	よいかな(祝言唄)	因幡国
鳥取県	081	ちょちょら節(祝言唄)(一)	伯耆国
鳥取県	082	ちょちょら節(祝言唄)(二)	伯耆国
鳥取県	083	にかた節(祝唄)	因幡国
鳥取県	084	にがた松坂(祝唄)	因幡国
鳥取県	085	松坂(祝唄)	伯耆国
鳥取県	086	お蔭参り(祝唄)	因幡国
鳥取県	087	大黒唄	伯耆国
鳥取県	088	大黒舞	因幡国
鳥取県	089	こだいじん	因幡国
鳥取県	090	伊勢音頭	因幡国
鳥取県	091	博多節	伯耆国
鳥取県	092	三下りいたこ	因幡国
鳥取県	093	本調子いたこ	因幡国
鳥取県	094	本調子いたこ(本かいな節)	因幡国
鳥取県	095	お蔭参り	因幡国
鳥取県	096	都々逸新内	因幡国
鳥取県	097	おふの藤次	因幡国
鳥取県	098	お染祭文	因幡国
鳥取県	099	ヨシヨシ	因幡国
鳥取県	100	コンタン	因幡国
鳥取県	101	コンタン(源太節)	因幡国
鳥取県	102	因幡がんだりき	因幡国
鳥取県	103	境さんご節	伯耆国
鳥取県	104	淀江さんご節	伯耆国
鳥取県	105	壁ぬりさんご	伯耆国
鳥取県	106	サイサイ節	因幡国
鳥取県	107	古調さんご節	因幡国
鳥取県	108	元安来節	因幡国
鳥取県	109	西洋安来	因幡国
鳥取県	110	ヤンレ節「俊徳丸」	伯耆国
鳥取県	111	盆踊唄(はねそ)	因幡国
鳥取県	112	盆踊唄(伊勢音頭)	因幡国
鳥取県	113	盆踊唄(たまもり)	因幡国
鳥取県	114	盆踊唄(白兔音頭)	因幡国
鳥取県	115	盆踊唄(一口がんだりき)	因幡国
鳥取県	116	盆踊唄(はねそ)	因幡国

都道府県	番号	曲名	旧国
鳥取県	117	盆踊唄(作州くどき「湯原心中」)	因幡国
鳥取県	118	盆踊唄(用ヶ瀬踊)	因幡国
鳥取県	119	盆踊唄(道念節)	因幡国
鳥取県	120	盆踊唄(祭文)	因幡国
鳥取県	121	盆踊唄(はねそ=亀井音頭)	因幡国
鳥取県	122	盆踊唄(三つ星)	伯耆国
鳥取県	123	盆踊唄(投げ出し)	伯耆国
鳥取県	124	盆踊唄(かんど)	伯耆国
鳥取県	125	盆踊唄(茶町踊)	伯耆国
鳥取県	126	盆踊唄(十七夜盆踊)	伯耆国
鳥取県	127	菅福盆踊唄(一)(ばんば)	伯耆国
鳥取県	128	菅福盆踊唄(二)(まつえ)	伯耆国
鳥取県	129	菅福盆踊唄(三)(ヤートナー)	伯耆国
鳥取県	130	菅福盆踊唄(四)(山づくし)	伯耆国
鳥取県	131	菅福盆踊唄(五)(こだいじ)	伯耆国
鳥取県	132	菅福盆踊唄(六)(秋が来た)	伯耆国
鳥取県	133	菅福盆踊唄(七)(ヨイショコショ)	伯耆国
鳥取県	134	菅福盆踊唄(八)(てんがらこ)	伯耆国
鳥取県	135	菅福盆踊唄(九)(さんこ)	伯耆国
鳥取県	136	盆踊唄(古代寺)	伯耆国
鳥取県	137	盆踊唄(ばんば)	伯耆国
鳥取県	138	盆踊唄(こだいじ)	伯耆国
鳥取県	139	雨乞踊「忍び」	因幡国
鳥取県	140	雨乞踊(ザンザカ踊)「忍び踊」	因幡国
鳥取県	141	傘踊唄(一)(因幡大津絵)	因幡国
鳥取県	142	傘踊唄(二)(因幡くどき)	因幡国
鳥取県	143	傘踊唄(三)	因幡国
鳥根県	144	子守唄	出雲国
鳥根県	145-1	田植唄(一)(囃し田)「苗取唄」	出雲国
鳥根県	145-2	田植唄(一)(囃し田)「田植唄」	出雲国
鳥根県	146	苗取唄(一)	出雲国
鳥根県	147	苗取唄(二)	出雲国
鳥根県	148	田植唄(二)(囃し田)	出雲国
鳥根県	149	苗取唄(三)	出雲国
鳥根県	150	苗取唄(四)	出雲国
鳥根県	151-1	田植唄(三)(囃し田)「朝唄」	出雲国
鳥根県	151-2	田植唄(三)(囃し田)「植え唄(洗い川)」	出雲国
鳥根県	152-1	田植唄(四)(囃し田)「苗取唄」	出雲国
鳥根県	152-2	田植唄(四)(囃し田)「植え唄1(かつま)」	出雲国
鳥根県	152-3	田植唄(四)(囃し田)「植え唄3」	出雲国
鳥根県	153-1	田植唄(五)(囃し田)「道行き」	石見国
鳥根県	153-2	田植唄(五)(囃し田)「苗取唄1」	石見国
鳥根県	153-3	田植唄(五)(囃し田)「苗取唄2」	石見国
鳥根県	153-4	田植唄(五)(囃し田)「苗取唄3」	石見国
鳥根県	153-5	田植唄(五)(囃し田)「苗取唄4」	石見国
鳥根県	153-6	田植唄(五)(囃し田)「田神おろし」	石見国
鳥根県	153-7	田植唄(五)(囃し田)「植調子(お蔵ナガレ)」	石見国
鳥根県	153-8	田植唄(五)(囃し田)「神酒迎え」	石見国
鳥根県	154-1	田植唄(六)(囃し田)「道中囃子」	石見国
鳥根県	154-10	田植唄(六)(囃し田)「植え唄3(ダシ)」	石見国
鳥根県	154-11	田植唄(六)(囃し田)「植え唄4(トメ=洗い川)」	石見国
鳥根県	154-2	田植唄(六)(囃し田)「苗取り唄1」	石見国
鳥根県	154-3	田植唄(六)(囃し田)「苗取り唄2」	石見国
鳥根県	154-4	田植唄(六)(囃し田)「苗取り唄3」	石見国
鳥根県	154-5	田植唄(六)(囃し田)「苗取り唄4」	石見国

都道府県	番号	曲名	旧国
島根県	154-6	田植唄〔六〕(噺し田)「苗取り唄5」	石見国
島根県	154-7	田植唄〔六〕(噺し田)「苗取り唄6」	石見国
島根県	154-8	田植唄〔六〕(噺し田) 「植え唄1」(ユリ)	石見国
島根県	154-9	田植唄〔六〕(噺し田) 「植え唄2」(琵琶調子)	石見国
島根県	155-1	田植唄〔七〕(噺し田)「苗取唄」	石見国
島根県	155-2	田植唄〔七〕(噺し田)「植調子」	石見国
島根県	155-3	田植唄〔七〕(噺し田) 「みちびき(じんじろべえ)」	石見国
島根県	156-1	田植唄〔八〕(噺し田)「苗取唄」	石見国
島根県	156-2	田植唄〔八〕(噺し田) 「植調子」(ユリ唄)	石見国
島根県	157-1	田植唄〔九〕(噺し田)「道中囃子」	石見国
島根県	157-2	田植唄〔九〕(噺し田)「短か唄」	石見国
島根県	157-3	田植唄〔九〕(噺し田)「長唄」	石見国
島根県	158-1	田植唄〔十〕(噺し田)「ねり」	石見国
島根県	158-2	田植唄〔十〕(噺し田)「神おろし」	石見国
島根県	158-3	田植唄〔十〕(噺し田)「親子唄」	石見国
島根県	158-4	田植唄〔十〕(噺し田)「引き」	石見国
島根県	159-1	田植唄〔十一〕(噺し田)「ねり」	石見国
島根県	159-2	田植唄〔十一〕(噺し田)「神おろし」	石見国
島根県	159-3	田植唄〔十一〕(噺し田)「親唄・子唄」	石見国
島根県	159-4	田植唄〔十一〕(噺し田)「引き」	石見国
島根県	160	苗取唄〔五〕	石見国
島根県	161-1	田植唄〔十二〕(噺し田)「朝唄」	石見国
島根県	161-2	田植唄〔十二〕(噺し田)「昼唄」	石見国
島根県	162-1	田植唄〔十三〕(噺し田) 「田植唄(大唄)」	石見国
島根県	162-2	田植唄〔十三〕(噺し田) 「田植唄(噺し唄)」	石見国
島根県	163	田植唄〔十四〕	隠岐国
島根県	164	田の草取唄〔一〕	出雲国
島根県	165	田の草取唄〔二〕	石見国
島根県	166	田の草取唄〔三〕(ヨイシヨ節)	石見国
島根県	167	田の草取唄〔四〕(一番ぐさ)	石見国
島根県	168	田の草取唄〔五〕(二番ぐさ)	石見国
島根県	169	摺臼唄〔一〕(石臼唄)	出雲国
島根県	170	摺臼唄〔二〕(粉摺)	石見国
島根県	171	摺臼唄〔三〕(粉挽=石臼)	石見国
島根県	172	摺臼唄〔四〕(粉挽=かつま)	石見国
島根県	173	摺臼唄〔五〕(粉摺)	石見国
島根県	174	摺臼唄〔六〕(粉挽)	石見国
島根県	175	摺臼唄〔七〕(粉摺=唐臼)	石見国
島根県	176	摺臼唄〔八〕(粉摺)	石見国
島根県	177	摺臼唄〔九〕(粉挽)	石見国
島根県	178	搗臼唄〔一〕(麦搗)	石見国
島根県	179	搗臼唄〔二〕(米搗)	出雲国
島根県	180	搗臼唄〔三〕(米搗=地唐臼)	石見国
島根県	181	搗臼唄〔四〕(米搗)	石見国
島根県	182	餅搗唄〔一〕	石見国
島根県	183	餅搗唄〔二〕	石見国
島根県	184	餅搗唄〔三〕	石見国
島根県	185	餅搗唄〔四〕(練節)	石見国
島根県	186	餅搗唄〔五〕(搗節)	石見国
島根県	187	地形唄〔一〕(石搗唄)	出雲国
島根県	188	地形唄〔二〕(伊勢音頭)	石見国
島根県	189	地形唄〔三〕(木遣唄)	石見国
島根県	190	地形唄〔四〕(杭打唄=ヨイサッサ)	石見国
島根県	191	地形唄〔五〕(杭打唄)	石見国

都道府県	番号	曲名	旧国
島根県	192	地形唄〔六〕(杭打音頭) 「立込み」「中打ち」「打止め」	石見国
島根県	193	味噌搗唄〔一〕	出雲国
島根県	194	味噌搗唄〔二〕	出雲国
島根県	195	茶作唄(茶摘唄)	出雲国
島根県	196	製糸唄〔一〕(木綿糸引唄)	石見国
島根県	197	製糸唄〔二〕(木綿糸引唄)	石見国
島根県	198	藁打唄〔一〕	出雲国
島根県	199	藁打唄〔二〕	出雲国
島根県	200	経木真田節	出雲国
島根県	201	経木のし唄	石見国
島根県	202	瓦作唄(じょれん節)	石見国
島根県	203	鉾山唄	石見国
島根県	204	踏鞠唄〔一〕(天王寺山)	出雲国
島根県	205	踏鞠唄〔二〕(ナゲシ)	出雲国
島根県	206	踏鞠唄〔三〕	出雲国
島根県	207	踏鞠唄〔四〕	石見国
島根県	208	踏鞠唄〔五〕(ナゲシ)	出雲国
島根県	209	櫓採り唄(山通し)	石見国
島根県	210	山行唄〔一〕(草刈唄)	出雲国
島根県	211	山行唄〔二〕(草刈唄)	出雲国
島根県	212	山行唄〔三〕(草刈唄)	石見国
島根県	213	山行唄〔四〕(柴刈唄=山どうし)	石見国
島根県	214	木挽唄〔一〕	石見国
島根県	215	木挽唄〔二〕	石見国
島根県	216	馬子唄〔一〕	出雲国
島根県	217	馬子唄〔二〕	石見国
島根県	218	馬子唄〔三〕	石見国
島根県	219	出雲追分	出雲国
島根県	220	あか取唄	石見国
島根県	221	鯖割節	石見国
島根県	222	江津船歌	石見国
島根県	223	長持唄〔一〕(雲助節)	出雲国
島根県	224	長持唄〔二〕	隠岐国
島根県	225	若松様	出雲国
島根県	226	ちょちょら節(婚礼祝唄)	出雲国
島根県	227	ちょちょら節	出雲国
島根県	228	松坂	出雲国
島根県	229	にがた(祝唄)	石見国
島根県	230	伊勢音頭	出雲国
島根県	231	ヨイヨイ(祝唄)	隠岐国
島根県	232	高砂(祝唄)	隠岐国
島根県	233	コレワイナ(祝唄)	隠岐国
島根県	234	大黒唄〔一〕	出雲国
島根県	235	大黒唄〔二〕	出雲国
島根県	236-1	虫送り「道びき」	石見国
島根県	236-2	虫送り「大踊」	石見国
島根県	236-3	虫送り「小踊」	石見国
島根県	236-4	虫送り「小踊」	石見国
島根県	236-5	虫送り「踊を引こう」	石見国
島根県	237	さんご節〔一〕	石見国
島根県	238	さんご節〔二〕	隠岐国
島根県	239	安来節〔一〕	出雲国
島根県	240	安来節〔二〕	出雲国
島根県	241	しょこばのお井戸	出雲国
島根県	242	関の五本松〔一〕	出雲国
島根県	243	関の五本松〔二〕	出雲国
島根県	244	どっさり節	隠岐国
島根県	245	しげさ節〔一〕	隠岐国
島根県	246	しげさ節〔二〕	隠岐国

都道府県	番号	曲名	旧国
島根県	247	しげさ節〔三〕	隠岐国
島根県	248	隠岐追分	隠岐国
島根県	249	隠岐おわら節	隠岐国
島根県	250	エンヤラヤノヤ	隠岐国
島根県	251	キンニャモニャ	隠岐国
島根県	252	角力取節	隠岐国
島根県	253	アイヤ節	石見国
島根県	254	おけさ節	出雲国
島根県	255	浜田節	石見国
島根県	256	ハイヤ節	隠岐国
島根県	257	石見舟唄	石見国
島根県	258	石見博多節	石見国
島根県	259	芝翫節	出雲国
島根県	260	盆踊唄〔古代寿〕	出雲国
島根県	261	盆踊唄〔こだいじ〕	出雲国
島根県	262	盆踊唄〔にがた〕	出雲国
島根県	263	盆踊唄〔ばんばら〕	出雲国
島根県	264	盆踊唄〔山づくし〕	出雲国
島根県	265	盆踊唄〔荒茅音頭〕	出雲国
島根県	266	盆踊唄	石見国
島根県	267	盆踊唄〔宗吾郎くどき〕	石見国
島根県	268	盆踊唄〔お杉くどき〕	石見国
島根県	269	盆踊唄〔いろは口説〕	石見国
島根県	270	盆踊唄〔ハンヤ〕	石見国
島根県	271	盆踊唄	石見国
島根県	272	盆踊唄	石見国
島根県	273	盆踊唄	石見国
島根県	274	盆踊唄〔ヨウソレ〕	石見国
島根県	275	盆踊唄〔口説き＝思案橋〕	石見国
島根県	276	盆踊唄〔松坂〕	石見国
島根県	277	盆踊唄〔津和野踊〕	石見国
島根県	278	盆踊唄〔山づくし〕	隠岐国
島根県	279	盆踊唄〔シュガイナ〕	隠岐国
島根県	280	盆踊唄〔くどき〕	隠岐国
島根県	281	盆踊唄〔ヤーハトナー〕	隠岐国
島根県	282	盆踊唄〔オシャレバマコト〕	隠岐国
島根県	283	盆踊唄〔酒田踊〕	隠岐国
島根県	284	神楽こだいじ	出雲国
島根県	285	神楽せぎ唄〔サーノエ節〕	石見国
島根県	286	ホーランエーヤ	出雲国
岡山県	287	子守唄〔一〕	美作国
岡山県	288	子守唄〔二〕	備中国
岡山県	289	子守唄〔三〕	備中国
岡山県	290	鍬打唄	備中国
岡山県	291	田植唄〔一〕	備前国
岡山県	292	田植唄〔二〕	備前国
岡山県	293	田植唄〔三〕	備前国
岡山県	294	田植唄〔四〕	備前国
岡山県	295	田植唄〔五〕	美作国
岡山県	296	田植唄〔六〕	美作国
岡山県	297	田植唄〔七〕	美作国
岡山県	298	田植唄〔八〕	美作国
岡山県	299	田植唄〔九〕	美作国
岡山県	300	田植唄〔十〕	美作国
岡山県	301	田植唄〔十一〕	美作国
岡山県	302	田植唄〔十二〕	美作国
岡山県	303	田植唄〔十三〕	美作国
岡山県	304	田植唄〔十四〕	備中国
岡山県	305	田植唄〔十五〕〔囃し田〕	備中国
岡山県	306-1	田植唄〔十六〕〔囃し田〕〔本節〕	備中国

都道府県	番号	曲名	旧国
岡山県	306-2	田植唄〔十六〕〔囃し田〕〔ねり唄〕	備中国
岡山県	306-3	田植唄〔十六〕〔囃し田〕 〔腰唄〕〔半がけ・四半がけ〕	備中国
岡山県	306-4	田植唄〔十六〕〔囃し田〕 〔晩上がり唄〕〔半がけ・四半がけ〕	備中国
岡山県	307	苗取唄	備中国
岡山県	308	田植唄〔十七〕	備中国
岡山県	309	田の草取唄〔一〕	美作国
岡山県	310	田の草取唄〔二〕	美作国
岡山県	311	田の草取唄〔三〕	美作国
岡山県	312	田の草取唄〔四〕	美作国
岡山県	313	田の草取唄〔五〕	備中国
岡山県	314	水換唄〔一〕〔水踏み唄〕	備前国
岡山県	315	水換唄〔二〕〔水車踏み唄〕	備中国
岡山県	316	麦打唄〔一〕	備前国
岡山県	317	麦打唄〔二〕〔麦叩き唄〕	美作国
岡山県	318	麦打唄〔三〕〔麦叩き唄〕	美作国
岡山県	319	麦打唄〔四〕〔麦こなし唄〕	備中国
岡山県	320	麦打唄〔五〕〔麦叩き唄〕	備中国
岡山県	321	唐箕唄	備中国
岡山県	322	摺臼唄〔一〕〔唐臼唄＝粉摺〕	備前国
岡山県	323	摺臼唄〔二〕〔唐臼挽唄＝粉摺〕	美作国
岡山県	324	摺臼唄〔三〕〔粉摺〕	美作国
岡山県	325	摺臼唄〔四〕〔臼挽唄＝粉挽〕	美作国
岡山県	326	摺臼唄〔五〕〔唐臼挽唄＝粉摺〕	美作国
岡山県	327	摺臼唄〔六〕〔唐臼唄〕	美作国
岡山県	328	摺臼唄〔七〕〔粉摺〕	備中国
岡山県	329	摺臼唄〔八〕〔唐臼挽唄＝粉摺〕	備中国
岡山県	330	摺臼唄〔九〕〔粉挽〕	備中国
岡山県	331	摺臼唄〔十〕〔粉挽〕	備中国
岡山県	332	搗臼唄〔一〕〔地唐臼〕	備中国
岡山県	333	搗臼唄〔二〕〔米搗〕	備中国
岡山県	334	餅搗唄〔一〕	備中国
岡山県	335	餅搗唄〔二〕	備中国
岡山県	336	地形唄〔一〕〔杭打唄＝二度引き〕	備前国
岡山県	337	地形唄〔二〕 〔池普請だんじこ唄＝ショコマ節〕	備前国
岡山県	338	地形唄〔三〕 〔池普請だんじこ唄＝兵庫節〕	備前国
岡山県	339	地形唄〔四〕 〔池普請だんじこ唄＝くどき〕	備前国
岡山県	340	地形唄〔五〕〔石搗唄＝千本搗〕	美作国
岡山県	341	地形唄〔六〕〔石搗唄〕	美作国
岡山県	342	地形唄〔七〕〔千本搗＝かり搗〕	美作国
岡山県	343	地形唄〔八〕〔地搗唄〕	美作国
岡山県	344	素麵掛け唄	備中国
岡山県	345	茶作唄〔一〕〔摘み唄〕	美作国
岡山県	346	茶作唄〔二〕〔揉み唄〕	美作国
岡山県	347	茶作唄〔三〕〔揉み唄〕	美作国
岡山県	348	茶作唄〔四〕〔揉み唄〕	美作国
岡山県	349	茶作唄〔五〕〔茶さび唄〕	美作国
岡山県	350	油締め唄〔一〕〔菜種搗ぎ〕	備中国
岡山県	351	油締め唄〔二〕	備前国
岡山県	352	油締め唄〔三〕	備前国
岡山県	353	酒造唄〔一〕〔米洗い唄〕	備中国
岡山県	354	酒造唄〔二〕〔酴摺唄＝半切酴〕	備中国
岡山県	355	酒造唄〔三〕〔酴摺唄＝半切酴〕	備中国
岡山県	356	酒造唄〔四〕〔酴摺唄＝やまはい〕	備中国
岡山県	357	酒造唄〔五〕〔突き物唄〕	備中国
岡山県	358	酒造唄〔六〕〔こんこ突き唄〕	備中国

都道府県	番号	曲名	旧国
岡山県	359	綿打唄〔一〕	備中国
岡山県	360	綿打唄〔二〕	備中国
岡山県	361	製糸唄〔一〕(糸繰り唄)	備中国
岡山県	362	製糸唄〔二〕(糸紡ぎ唄)	備中国
岡山県	363	製糸唄〔三〕(糸紡ぎ唄)	備前国
岡山県	364	製紙唄(紙漉唄)	美作国
岡山県	365	藁打唄〔一〕	備前国
岡山県	366	藁打唄〔二〕	備中国
岡山県	367	莫産織唄〔一〕	備中国
岡山県	368	莫産織唄〔二〕	備中国
岡山県	369	真田組み唄〔一〕	備中国
岡山県	370	真田組み唄〔二〕	備中国
岡山県	371	轆轤唄	備前国
岡山県	372	石切唄〔一〕(鑿とぎり唄)	備中国
岡山県	373	石切唄〔二〕(打つけ)	備中国
岡山県	374	石切唄〔三〕(すくい)	備中国
岡山県	375	石切唄〔四〕(打つけ)	備中国
岡山県	376	石切唄〔五〕(すくい)	備中国
岡山県	377	鉦山唄〔一〕(石刀節)	備中国
岡山県	378	鉦山唄〔二〕(トロッコ唄)	備中国
岡山県	379	鉦山唄〔三〕(かなめ唄)	備中国
岡山県	380	鉦山唄〔四〕(ゆりかわ節)	備中国
岡山県	381	鉦山唄〔五〕(とこや節)	備中国
岡山県	382	踏鞴唄〔一〕	美作国
岡山県	383	踏鞴唄〔二〕	美作国
岡山県	384	木挽唄〔一〕	美作国
岡山県	385	木挽唄〔二〕	美作国
岡山県	386	馬方節	美作国
岡山県	387	牛追掛	備中国
岡山県	388	参度節	備中国
岡山県	389	米のなる木	備中国
岡山県	390	投げ節	備前国
岡山県	391	吉井川舟唄〔一〕	美作国
岡山県	392	吉井川舟唄〔二〕	美作国
岡山県	393	旭川舟唄〔一〕	美作国
岡山県	394	旭川舟唄〔二〕	備前国
岡山県	395	高梁川舟唄	備中国
岡山県	396	舟唄〔一〕(鱧漕唄)	備前国
岡山県	397	舟唄〔二〕(鱧漕唄)	備前国
岡山県	398	舟唄〔三〕(押し切り舟唄)	備中国
岡山県	399	舟唄〔四〕(鱧漕唄)	備中国
岡山県	400	舟唄〔五〕(鱧漕唄)	備中国
岡山県	401	鯛漁唄〔一〕(押し唄)	備中国
岡山県	402	鯛漁唄〔二〕(押し込み唄)	備中国
岡山県	403	鯛漁唄〔三〕(逆鱧唄)	備中国
岡山県	404	鯛漁唄〔四〕(初出唄)	備中国
岡山県	405	鯛漁唄〔五〕(逆鱧唄1)	備中国
岡山県	406	鯛漁唄〔六〕(逆鱧唄2)	備中国
岡山県	407	鯛漁唄〔七〕(戻り唄)	備中国
岡山県	408	鯛漁唄〔八〕(大漁節)	備中国
岡山県	409	鯛漁唄〔九〕(舟洗い唄)	備中国
岡山県	410	舟すり唄	備前国
岡山県	411	網すき唄	備前国
岡山県	412	打瀬(うたせ)狙い網唄	備前国
岡山県	413	塩田唄(浜子唄)	備前国
岡山県	414	いかなご唄	備前国
岡山県	415	祝唄(サゴジヨ節)	備中国
岡山県	416	祝唄(舟おろし唄)	備前国
岡山県	417	祝唄(船おろし唄「新玉」)	備中国
岡山県	418	祝唄(シヨンガ節「鯛の魚」)	備中国

都道府県	番号	曲名	旧国
岡山県	419	祝唄(大工よろこび)	備中国
岡山県	420	祝唄(厄年祝唄)	備中国
岡山県	421	祝唄「今年やしあわせ」	備中国
岡山県	422	祝唄「親は百まで」	備中国
岡山県	423	祝唄(サンヤレ「様の寝姿」)	備中国
岡山県	424	祝唄(白石端唄)	備中国
岡山県	425	松坂(祝唄)	備中国
岡山県	426	長持唄(祝言唄)〔一〕	備前国
岡山県	427	長持唄(祝言唄)〔二〕	備中国
岡山県	428	さんこ節	美作国
岡山県	429	ヨシヨシ	備中国
岡山県	430	下津井節	備前国
岡山県	431	盆踊唄(牛窓エイト)	備前国
岡山県	432	盆踊唄(がんだり)	美作国
岡山県	433	盆踊唄(がんだり)	美作国
岡山県	434	盆踊唄(四つ拍子)	美作国
岡山県	435	盆踊唄(四つ拍子)	美作国
岡山県	436	盆踊唄(四つ拍子)	美作国
岡山県	437	盆踊唄(備前踊)	美作国
岡山県	438	盆踊唄(三味線踊)	美作国
岡山県	439	大宮踊〔一〕 〔「蒼生(あおい)・真弥宜(まねぎ)」	美作国
岡山県	440	大宮踊〔二〕「叱々(しっし)」	美作国
岡山県	441	盆踊唄(ひがし)	備中国
岡山県	442	盆踊唄(エイト=扇子踊)	備中国
岡山県	443	盆踊唄(テンガラコ)	備中国
岡山県	444	盆踊唄(二つ拍子)	備中国
岡山県	445	盆踊唄(横田=四つ拍子)	備中国
岡山県	446	盆踊唄(さんこ=砂かき踊)	備中国
岡山県	447	盆踊唄(山づくし踊)	備中国
岡山県	448	白石踊(盆踊唄)	備中国
岡山県	449	盆踊唄	備中国
岡山県	450	砂持ち唄	備中国
岡山県	451	備前太鼓唄	備前国
岡山県	452	千歳楽	備中国
広島県	453	子守唄〔一〕	安芸国
広島県	454	子守唄〔二〕	安芸国
広島県	455	子守唄〔三〕	安芸国
広島県	456	子守唄〔四〕	安芸国
広島県	457	季節唄〔一〕(春節)	安芸国
広島県	458	季節唄〔二〕(夏節)	安芸国
広島県	459	季節唄〔三〕(秋節)	安芸国
広島県	460	季節唄〔四〕(冬節)	安芸国
広島県	461	代掻唄〔一〕	安芸国
広島県	462	代掻唄〔二〕	安芸国
広島県	463	代掻唄〔三〕	安芸国
広島県	464	代掻唄〔四〕	安芸国
広島県	465	田植唄〔一〕	備後国
広島県	466	田植唄〔二〕	備後国
広島県	467	田植唄〔三〕	備後国
広島県	468	田植唄〔四〕(囃し田)	備後国
広島県	469	苗取唄〔一〕	備後国
広島県	470-1	田植唄〔五〕(囃し田)「朝出」	備後国
広島県	470-2	田植唄〔五〕(囃し田)「とび」(腰唄)	備後国
広島県	470-3	田植唄〔五〕(囃し田)「片おろし」	備後国
広島県	470-4	田植唄〔五〕(囃し田)「練り唄」	備後国
広島県	470-5	田植唄〔五〕(囃し田)「大山登り」	備後国
広島県	471-1	田植唄〔六〕(囃し田)「植唄一本唄」	備後国
広島県	471-2	田植唄〔六〕(囃し田)「腰唄」	備後国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	471-3	田植唄〔六〕(囃し田) 「植唄ーねり唄」	備後国
広島県	472-1	田植唄〔七〕(囃し田)「大拍子」	備後国
広島県	472-2	田植唄〔七〕(囃し田)「本唄」	備後国
広島県	473	苗取唄〔二〕	備後国
広島県	474	苗取唄〔三〕	備後国
広島県	475	苗取唄〔四〕	備後国
広島県	476	苗取唄〔五〕	備後国
広島県	477	田植唄〔八〕(囃し田)	備後国
広島県	478	苗取唄〔六〕	備後国
広島県	479	苗取唄〔七〕	備後国
広島県	480-1	田植唄〔九〕(囃し田) 「植調子「朝唄ナガレ」」	備後国
広島県	480-2	田植唄〔九〕(囃し田) 「植調子「おなり送り」」	備後国
広島県	480-3	田植唄〔九〕(囃し田) 「植調子「洗い川ナガレ」」	備後国
広島県	480-4	田植唄〔九〕(囃し田)「大拍子」	備後国
広島県	481-1	田植唄〔十〕(囃し田)「苗取唄」	備後国
広島県	481-2	田植唄〔十〕(囃し田) 「田植唄(朝唄)」	備後国
広島県	481-3	田植唄〔十〕(囃し田) 「田植唄(昼唄)」	備後国
広島県	481-4	田植唄〔十〕(囃し田) 「田植唄(夕唄)」	備後国
広島県	481-5	田植唄〔十〕(囃し田) 「田植唄(鎌倉)」	備後国
広島県	482-1	田植唄〔十一〕(囃し田) 「苗取唄(ナンジヤイ節)」	備後国
広島県	482-2	田植唄〔十一〕(囃し田) 「田植唄(さんばいの棚飾り)」	備後国
広島県	482-3	田植唄〔十一〕(囃し田) 「田植唄(十七流れ)」	備後国
広島県	483	苗取唄〔八〕	安芸国
広島県	484	田植唄〔十二〕(囃し田)	安芸国
広島県	485	田植唄〔十三〕(囃し田)	安芸国
広島県	486-1	田植唄〔十四〕(囃し田)「苗取唄」	安芸国
広島県	486-2	田植唄〔十四〕(囃し田)「田植唄1 (大唄又はとりば=山県節I)」	安芸国
広島県	486-3	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄2(赤名節)」	安芸国
広島県	486-4	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄3(佐越節=山県節II)」	安芸国
広島県	486-5	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄4(土師節)」	安芸国
広島県	486-6	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄5(さきや節)」	安芸国
広島県	486-7	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄6(喜多節)」	安芸国
広島県	486-8	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄7(ゆり唄=長唄)」	安芸国
広島県	486-9	田植唄〔十四〕(囃し田) 「田植唄8(大津節)」	安芸国
広島県	487-1	田植唄〔十五〕(囃し田)「ゆり唄」	安芸国
広島県	487-2	田植唄〔十五〕(囃し田) 「おなり送り」	安芸国
広島県	488-1	田植唄〔十六〕(囃し田) 「田植唄=土師節」	安芸国
広島県	488-2	田植唄〔十六〕(囃し田) 「田植唄=赤名節」	安芸国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	488-3	田植唄〔十六〕(囃し田)「多治比節」	安芸国
広島県	488-4	田植唄〔十六〕(囃し田)「田植唄=サ キヤ節」	安芸国
広島県	489-1	田植唄〔十七〕(囃し田)「大津拍子」	安芸国
広島県	489-2	田植唄〔十七〕(囃し田)「土師節」	安芸国
広島県	489-3	田植唄〔十七〕(囃し田)「凌ぎ拍子」	安芸国
広島県	489-4	田植唄〔十七〕(囃し田)「田植唄」	安芸国
広島県	490	田植唄〔十八〕(囃し田)「田植唄」	安芸国
広島県	491	田植唄〔十九〕(囃し田)「苗取唄」	安芸国
広島県	492-1	田植唄〔二十〕(囃し田)「その1」	安芸国
広島県	492-2	田植唄〔二十〕(囃し田)「その2」	安芸国
広島県	492-3	田植唄〔二十〕(囃し田)「その3」	安芸国
広島県	493	苗取唄〔九〕	安芸国
広島県	494-1	田植唄〔二十一〕(囃し田)「道行き」	安芸国
広島県	494-2	田植唄〔二十一〕(囃し田)「朝唄」	安芸国
広島県	494-3	田植唄〔二十一〕(囃し田)「打切り」	安芸国
広島県	495-1	田植唄〔二十二〕(囃し田)「苗取唄」	安芸国
広島県	495-2	田植唄〔二十二〕(囃し田)「植え唄」	安芸国
広島県	496-1	田植唄〔二十三〕(囃し田)「苗取唄」	安芸国
広島県	496-2	田植唄〔二十三〕(囃し田) 「植調子(さんばいおろし)」	安芸国
広島県	496-3	田植唄〔二十三〕(囃し田) 「植え唄(八調子)」	安芸国
広島県	496-4	田植唄〔二十三〕(囃し田)「あげ」	安芸国
広島県	497	苗取唄〔十〕	安芸国
広島県	498-1	田植唄〔二十四〕(囃し田) 「苗取り唄」	安芸国
広島県	498-2	田植唄〔二十四〕(囃し田) 「苗取り唄」	安芸国
広島県	498-3	田植唄〔二十四〕(囃し田) 「神のまつりこみ・アゲ」	安芸国
広島県	498-4	田植唄〔二十四〕(囃し田)「平拍子」	安芸国
広島県	498-5	田植唄〔二十四〕(囃し田) 「平拍子のアゲ」	安芸国
広島県	498-6	田植唄〔二十四〕(囃し田) 「神送り・納め」	安芸国
広島県	499	田植唄〔二十五〕(囃し田)「昼唄」	安芸国
広島県	500	苗取唄〔十一〕	安芸国
広島県	501	苗取唄〔十二〕	安芸国
広島県	502	田植唄〔二十六〕	安芸国
広島県	503	田植唄〔二十七〕	安芸国
広島県	504	田の草取唄〔一〕	備後国
広島県	505	田の草取唄〔二〕	備後国
広島県	506	田の草取唄〔三〕	備後国
広島県	507	田の草取唄〔四〕(こなあげ)	備後国
広島県	508	田の草取唄〔五〕(ヤンサ節)	備後国
広島県	509	田の草取唄〔六〕	安芸国
広島県	510	田の草取唄〔七〕(きそん)	安芸国
広島県	511	田の草取唄〔八〕(ヤンサ節)	安芸国
広島県	512	田の草取唄〔九〕(田草唄)	安芸国
広島県	513	田の草取唄〔十〕	安芸国
広島県	514	田の草取唄〔十一〕	安芸国
広島県	515	水換唄(水車踏み唄)	備後国
広島県	516	麦の草取唄	備後国
広島県	517	麦の中打唄	備後国
広島県	518	麦刈唄〔一〕	備後国
広島県	519	麦刈唄〔二〕	安芸国
広島県	520	稲扱唄	備後国
広島県	521	麦打唄〔一〕(麦こなし唄)	備後国
広島県	522	麦打唄〔二〕(からさん節)	備後国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	523	麦打唄(三)(麦仕唄)	備後国
広島県	524	麦打唄(四)(麦仕唄)	備後国
広島県	525	麦打唄(五)	安芸国
広島県	526	麦打唄(六)(麦こなし唄)	安芸国
広島県	527	麦打唄(七)	安芸国
広島県	528	麦打唄(八)(麦叩き唄)	安芸国
広島県	529	麦打唄(九)(二番叩き唄)	安芸国
広島県	530	麦さび唄(箕さび唄)	備後国
広島県	531	摺臼唄(一)(唐臼挽唄=粉摺)	備後国
広島県	532	摺臼唄(二)(石臼挽唄)	備後国
広島県	533	摺臼唄(三)(粉摺)	備後国
広島県	534	摺臼唄(四)(粉摺)	安芸国
広島県	535	摺臼唄(五)(粉挽)	安芸国
広島県	536	摺臼唄(六)	安芸国
広島県	537	摺臼唄(七)(粉摺=粉挽)	安芸国
広島県	538	摺臼唄(八)	安芸国
広島県	539	搗臼唄(一)(米搗唄)	備後国
広島県	540	搗臼唄(二)(唐臼挽唄)	安芸国
広島県	541	搗臼唄(三)(米搗唄=地柄臼)	安芸国
広島県	542	餅搗唄(一)(棟上餅搗唄)	備後国
広島県	543	餅搗唄(二)(棟上餅搗唄=ねり唄)	備後国
広島県	544	餅搗唄(三)	安芸国
広島県	545	地形唄(一)(地締唄=サンヨ-搗)	備後国
広島県	546	地形唄(二)(石搗唄)	備後国
広島県	547	地形唄(三)(地搗唄=遠州木遣)	備後国
広島県	548	地形唄(四)(地搗唄=サンヨ-搗)	備後国
広島県	549	地形唄(五)(地搗唄=三つ拍子)	備後国
広島県	550	地形唄(六)(地搗唄)	安芸国
広島県	551	地形唄(七)(大木出し木遣)	安芸国
広島県	552	地形唄(八)(肩引木遣)	安芸国
広島県	553	茶作唄(一)(茶摘唄)	安芸国
広島県	554	茶作唄(二)(茶揉唄)	安芸国
広島県	555	茶作唄(三)(茶揉唄)	安芸国
広島県	556	蜜柑もぎ唄	安芸国
広島県	557	山下り唄(大長節)	安芸国
広島県	558	蜜柑撰り唄	安芸国
広島県	559	柿つき唄	備後国
広島県	560	柿けずり唄	安芸国
広島県	561	砂糖締め唄	安芸国
広島県	562	酒造唄(一)(桶とぎ唄)	安芸国
広島県	563	酒造唄(二)(米洗い唄)	安芸国
広島県	564	酒造唄(三)(山卸し=小摺)	安芸国
広島県	565	酒造唄(四)(桶洗い唄)	安芸国
広島県	566	酒造唄(五)(山卸し)	安芸国
広島県	567	酒造唄(六) (甌摺唄=シヨンガイ節)	安芸国
広島県	568	酒造唄(七)(仕込み唄)	安芸国
広島県	569	製糸唄(一)(糸引唄)	備後国
広島県	570	製糸唄(二)(糸紡唄)	安芸国
広島県	571	機織唄(一)(いざり機)	安芸国
広島県	572	機織唄(二)	備後国
広島県	573	機織唄(三)	備後国
広島県	574	機織唄(四)	安芸国
広島県	575	機織唄(五)(山藪織唄)	安芸国
広島県	576	芋ひき唄	安芸国
広島県	577	芋こぎ唄	安芸国
広島県	578	製紙唄(一)(紙叩き唄)	安芸国
広島県	579	製紙唄(二)(皮打唄)	備後国
広島県	580	製紙唄(三)(紙漉唄)	安芸国
広島県	581	蘭乾し唄	備後国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	582	莫産織唄	備後国
広島県	583	真田組み唄(真田編み唄)	安芸国
広島県	584	筆作り唄(一)	安芸国
広島県	585	筆作り唄(二)(毛揉み唄)	安芸国
広島県	586	石刀唄(蠟石切)	備後国
広島県	587	石屋節	安芸国
広島県	588	燐寸軸木揃え唄	安芸国
広島県	589	じょれん節	安芸国
広島県	590	針金節	安芸国
広島県	591	ふいご節	安芸国
広島県	592	踏鞠唄(一)(天王寺節)	備後国
広島県	593	踏鞠唄(二)(上り唄=籠り唄)	備後国
広島県	594	踏鞠唄(三)(ばんご唄)	備後国
広島県	595	踏鞠唄(四)	備後国
広島県	596	踏鞠唄(五)	安芸国
広島県	597	山行唄(一)(馬追節=草刈唄)	安芸国
広島県	598	山行唄(二)	安芸国
広島県	599	山行唄(三) (山下り唄=シヨンガイ節)	安芸国
広島県	600	山行唄(四)(山仕事唄)	安芸国
広島県	601	山行唄(五)(山どおし=笹刈り節)	安芸国
広島県	602	山行唄(六)(草刈唄)	安芸国
広島県	603	山行唄(七)(草刈唄)	安芸国
広島県	604	山行唄(八)(柴草刈唄)	安芸国
広島県	605	山行唄(九)(柴刈唄)	安芸国
広島県	606	木挽唄(一)	備後国
広島県	607	木挽唄(二)	安芸国
広島県	608	木挽唄(三)	安芸国
広島県	609	木挽唄(四)	安芸国
広島県	610	馬子唄(一)	安芸国
広島県	611	馬子唄(二)	安芸国
広島県	612	馬子唄(三)(馬追い節)	安芸国
広島県	613	馬子唄(四)(上根馬子唄)	安芸国
広島県	614	馬子唄(五)	安芸国
広島県	615	馬子唄(六)	安芸国
広島県	616	牛追唄(一)(牛追掛)	備後国
広島県	617	牛追唄(二)	安芸国
広島県	618	牛追唄(三)(牛追分)	備後国
広島県	619	筏流し唄	安芸国
広島県	620	太田川舟唄	安芸国
広島県	621	江川舟唄(一)(舟子唄)	備後国
広島県	622	江川舟唄(二)	備後国
広島県	623	舟唄(一)(船漕唄)	備後国
広島県	624	舟唄(二)(船漕唄=音戸船頭唄)	安芸国
広島県	625	舟唄(三)(打瀬流し網舟唄)	備後国
広島県	626	舟唄(四)(船漕唄)	安芸国
広島県	627	轆轤巻き唄(船のぼせ唄)	安芸国
広島県	628	網すき唄	安芸国
広島県	629	鯛漁唄(せごえ)	安芸国
広島県	630	鞆大漁節	備後国
広島県	631	海老網曳唄	備後国
広島県	632	海老こなし唄	備後国
広島県	633	海老すり唄	備後国
広島県	634	海老の唐箕唄	備後国
広島県	635	海老選り唄(トコ工節)	備後国
広島県	636	海苔採り唄	安芸国
広島県	637	海苔つみ唄(海苔こぎ唄)	安芸国
広島県	638	馬刀貝突唄(まてつき唄)	備後国
広島県	639	塩田唄(浜子唄)	安芸国
広島県	640	長持唄(一)(雲助)	備後国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	641	長持唄〔二〕(祝入り)	安芸国
広島県	642	祝込み唄〔一〕(道中節)	安芸国
広島県	643	祝込み唄〔二〕(肩休め)	安芸国
広島県	644	松坂(祝唄)	備後国
広島県	645	にがた節(祝唄)	安芸国
広島県	646	松坂(祝唄)	備後国
広島県	647	よいどな(祝唄)	備後国
広島県	648	平句歌(祝唄)	備後国
広島県	649	ちょちょう節(祝唄)	備後国
広島県	650	大仙椿(祝唄)	備後国
広島県	651	お喜詞(おきじ)(祝唄)	備後国
広島県	652	こくせん(祝唄)	安芸国
広島県	653	ヨイショコシヨ節(祝唄)	安芸国
広島県	654	ヨイヤナ(祝唄)	安芸国
広島県	655	三月節(節句節)	安芸国
広島県	656	春駒	備後国
広島県	657	大黒唄	備後国
広島県	658	安芸万才	安芸国
広島県	659	敦盛さん	備後国
広島県	660	ぞめき(どめき)	安芸国
広島県	661	室尾甚句(東京甚句)	安芸国
広島県	662	どっさり節	備後国
広島県	663	ヨシヨシ	備後国
広島県	664	ショウガイ節	安芸国
広島県	665	ジャンガラ節	安芸国
広島県	666	瀬戸節(ヤレコレ江戸にゃ)	備後国
広島県	667	都賀節	安芸国
広島県	668	高い山	安芸国
広島県	669	盆踊唄(一つ拍子)	備後国
広島県	670	盆踊唄(二つ拍子)	備後国
広島県	671	盆踊唄(三つ拍子)	備後国
広島県	672	盆踊唄(四つ拍子)	備後国
広島県	673	盆踊唄(ヨイショナ踊)	備後国
広島県	674	盆踊唄(四つ拍子)	備後国
広島県	675	盆踊唄(ヒョロリン踊)	備後国
広島県	676	ヤッサ節(盆踊唄)	備後国
広島県	677	盆踊唄(くどき音頭)	安芸国
広島県	678	盆踊唄(三つ拍子)	安芸国
広島県	679	盆踊唄(くどき)	安芸国
広島県	680	盆踊唄(きそん)	安芸国
広島県	681	盆踊唄(作州踊一)	安芸国
広島県	682	盆踊唄(作州踊二)	安芸国
広島県	683	盆踊唄(作州踊三)	安芸国
広島県	684	盆踊唄	安芸国
広島県	685	盆踊唄(木曾踊)	安芸国
広島県	686	盆踊唄(大踊)	備後国
広島県	687	盆踊唄(三つ拍子)	備後国
広島県	688	盆踊唄(段原)	備後国
広島県	689	盆踊唄(大黒)	備後国
広島県	690	盆踊唄(きそん)	安芸国
広島県	691	盆踊唄(大坂)	安芸国
広島県	692	盆踊唄(麦さがし)	安芸国
広島県	693	盆踊唄(伯耆)	安芸国
広島県	694	盆踊唄(七つ囃し)	安芸国
広島県	695	盆踊唄(横田盆踊=麦さがし)	安芸国
広島県	696	盆踊唄(横田盆踊=扇子踊)	安芸国
広島県	697	盆踊唄(はんや口説)	安芸国
広島県	698	盆踊唄(鈴虫口説)	安芸国
広島県	699	盆踊唄(きそん)	安芸国
広島県	700	盆踊唄(片拍子=扇子踊)	安芸国

都道府県	番号	曲名	旧国
広島県	701	盆踊唄(諸拍子)	安芸国
広島県	702	盆踊唄(三角踊)	安芸国
広島県	703	盆踊唄(源七さん)	安芸国
広島県	704	盆踊唄(四方踊=しんぱん)	安芸国
広島県	705	盆踊唄(十七踊)	安芸国
広島県	706	盆踊唄(麦さがし)	安芸国
広島県	707	盆踊唄(手拭踊)	安芸国
広島県	708	盆踊唄(刈田音頭)	安芸国
広島県	709	盆踊唄(三つ拍子)	安芸国
広島県	710	盆踊唄(思案橋)	安芸国
広島県	711	盆踊唄(サンサ踊)	安芸国
広島県	712	盆踊唄(松坂)	安芸国
広島県	713	盆踊唄(きそん)	安芸国
広島県	714	盆踊唄(にがた)	安芸国
広島県	715	盆踊唄(しゃっき)	安芸国
広島県	716-1	南条踊(日の山踊)「道行踊」	安芸国
広島県	716-2	南条踊(日の山踊) 「先拂い」「ザメキ踊」(庭入雁)	安芸国
広島県	716-3	南条踊(日の山踊) 「小返り」「若狭の町」	安芸国
広島県	716-4	南条踊(日の山踊) 「なんじょ踊」(清水寺)	安芸国
広島県	716-5	南条踊(日の山踊) 「大返り」「小田川」	安芸国
広島県	716-6	南条踊(日の山踊)「引き踊」	安芸国
広島県	717	神楽せり唄(こだいじ)	備後国
広島県	718	神楽せり唄	安芸国
広島県	719	祭礼引馬節	備後国
広島県	720	祭礼馬追掛	備後国
広島県	721	宮節	安芸国
広島県	722	宮島音頭「宮島八景」	安芸国
広島県	723	神輿木遣音頭	備後国
広島県	724	御船歌	安芸国
広島県	725	櫓音頭	安芸国
山口県	726	子守唄〔一〕	周防国
山口県	727	子守唄〔二〕	周防国
山口県	728	種蒔き唄	長門国
山口県	729	田植唄〔一〕	周防国
山口県	730	田植唄〔二〕(囃し田)	周防国
山口県	731	田植唄〔三〕(囃し田)	周防国
山口県	732	田植唄〔四〕(囃し田)	周防国
山口県	733-1	田植唄〔五〕(囃し田)「古調」	周防国
山口県	733-2	田植唄〔五〕(囃し田)「朝唄・夕唄」	周防国
山口県	734	田植唄〔六〕(かつま)	周防国
山口県	735	田植唄〔七〕(囃し田)	周防国
山口県	736-1	田植唄〔八〕(囃し田)「短い節」	周防国
山口県	736-2	田植唄〔八〕(囃し田)「ゆり節」	周防国
山口県	737	田植唄〔九〕	周防国
山口県	738	田植唄〔十〕	長門国
山口県	739	田植唄〔十一〕(囃し田)	長門国
山口県	740	田植唄〔十二〕(囃し田)	長門国
山口県	741	田植唄〔十三〕	長門国
山口県	742	田植唄〔十四〕	長門国
山口県	743	田植唄〔十五〕	長門国
山口県	744	田植唄〔十六〕	長門国
山口県	745	田植唄〔十七〕	長門国
山口県	746-1	田植唄〔十八〕(囃し田)「その1」	長門国
山口県	746-2	田植唄〔十八〕(囃し田)「その2」	長門国
山口県	747	田の草取唄〔一〕	周防国
山口県	748	田の草取唄〔二〕	周防国

都道府県	番号	曲名	旧国
山口県	749	田の草取唄〔三〕	周防国
山口県	750	田の草取唄〔四〕(思案橋)	周防国
山口県	751	田の草取唄〔五〕	長門国
山口県	752	田の草取唄〔六〕	長門国
山口県	753	田の草取唄〔七〕	長門国
山口県	754	田の草取唄〔八〕	長門国
山口県	755	田の草取唄〔九〕(ヨ-ヨ-節)	長門国
山口県	756	田の草取唄〔十〕	長門国
山口県	757	麦打唄	周防国
山口県	758	摺白唄〔一〕(粉挽)	周防国
山口県	759	摺白唄〔二〕(粉挽)	周防国
山口県	760	摺白唄〔三〕(粉挽)	周防国
山口県	761	摺白唄〔四〕(粉挽)	周防国
山口県	762	摺白唄〔五〕(粉摺)	周防国
山口県	763	摺白唄〔六〕(粉摺)	周防国
山口県	764	摺白唄〔七〕(白挽=粉摺)	長門国
山口県	765	摺白唄〔八〕(白挽=粉摺)	長門国
山口県	766	摺白唄〔九〕(白挽)	長門国
山口県	767	摺白唄〔十〕(白挽)	長門国
山口県	768	搗臼唄〔一〕(米搗=踏臼)	長門国
山口県	769	搗臼唄〔二〕(米搗=台柄搗)	長門国
山口県	770	餅搗唄	周防国
山口県	771	地形唄〔一〕(地搗)	周防国
山口県	772	地形唄〔二〕(地搗)	周防国
山口県	773	地形唄〔三〕(地搗)	周防国
山口県	774	地形唄〔四〕(地締=エントコ節)	周防国
山口県	775	地形唄〔五〕(土突=エントコ)	周防国
山口県	776	地形唄〔六〕(地搗)	長門国
山口県	777	地形唄〔七〕(地搗)	長門国
山口県	778	地形唄〔八〕(地搗)	長門国
山口県	779	ホリホリ節(砂糖黍葉むしり唄)	周防国
山口県	780	茶作唄〔一〕(茶揉唄=青揉)	周防国
山口県	781	茶作唄〔二〕(茶揉唄=上揉)	周防国
山口県	782	酒造唄(酩摺唄)	周防国
山口県	783	製糸唄〔一〕(木綿糸とり唄)	周防国
山口県	784	製糸唄〔二〕(糸紡唄)	周防国
山口県	785	機織唄	周防国
山口県	786	製紙唄〔一〕(楮皮むき唄)	周防国
山口県	787	製紙唄〔二〕(紙漉唄)	周防国
山口県	788	石切唄	周防国
山口県	789	石工唄	長門国
山口県	790	炭坑唄〔一〕(南蛮唄)	長門国
山口県	791	炭坑唄〔二〕(南蛮唄)	長門国
山口県	792	鉋山唄〔一〕(石刀節)	長門国
山口県	793	鉋山唄〔二〕(ふわ節)	長門国
山口県	794	鉋山唄〔三〕(とこや節)	長門国
山口県	795	鉋山唄〔四〕(たんこう節)	長門国
山口県	796	鉋山唄〔五〕(穴繰唄)	長門国
山口県	797	鉋山唄〔六〕(選鉋唄=じゅうべつ唄)	長門国
山口県	798	鉋山唄〔七〕(かなめ唄)	長門国
山口県	799	山行唄〔一〕(柴刈)	周防国
山口県	800	山行唄〔二〕(柴刈)	周防国
山口県	801	山行唄〔三〕(柴刈)	周防国
山口県	802	山行唄〔四〕(草刈)	周防国
山口県	803	山行唄〔五〕(柴刈)	周防国
山口県	804	木樵唄	周防国
山口県	805	木挽唄〔一〕	周防国
山口県	806	木挽唄〔二〕	長門国
山口県	807	馬子唄〔一〕	周防国
山口県	808	馬子唄〔二〕(追かけ馬子唄)	周防国

都道府県	番号	曲名	旧国
山口県	809	馬子唄〔三〕	長門国
山口県	810	馬子唄〔四〕	長門国
山口県	811	舟唄〔一〕(船漕唄)	周防国
山口県	812	舟唄〔二〕(船漕唄)	周防国
山口県	813	網引唄〔一〕(いりこ網引唄)	周防国
山口県	814	網引唄〔二〕 (手繰網曳唄=がでの手繰り)	周防国
山口県	815	鯨唄〔一〕	長門国
山口県	816	鯨唄〔二〕	長門国
山口県	817	塩田唄〔一〕(金子唄)	周防国
山口県	818	塩田唄〔二〕(板掻き唄)	周防国
山口県	819	塩田唄〔三〕(水取り唄)	周防国
山口県	820	塩田唄〔四〕(塩汲唄)	周防国
山口県	821	海女唄〔一〕(シヨンガエ節)	長門国
山口県	822	海女唄〔二〕	長門国
山口県	823	船おろし唄〔一〕(ホウランエ)	周防国
山口県	824	船おろし唄〔二〕(新造船筒立の唄)	周防国
山口県	825	船おろし唄〔三〕	長門国
山口県	826	弁天祭船歌	長門国
山口県	827	長持唄〔一〕	周防国
山口県	828	長持唄〔二〕	長門国
山口県	829	祝唄〔一〕(高い山)	周防国
山口県	830	祝唄〔二〕(しょうがい節)	周防国
山口県	831	祝唄〔三〕(しょうがい節)	長門国
山口県	832	亥の子唄	周防国
山口県	833	まんだい	周防国
山口県	834	ヨイショコショ節	長門国
山口県	835	博多節	長門国
山口県	836	天狗さま	長門国
山口県	837	関で惣嫁買うて	長門国
山口県	838	本調子さんご節	周防国
山口県	839	二上りさんご節	周防国
山口県	840	さんご節	長門国
山口県	841	男なら	長門国
山口県	842	盆踊唄(さんさ小島)	周防国
山口県	843	盆踊唄(うてうて太鼓)	周防国
山口県	844	盆踊唄(やんせ踊)	周防国
山口県	845	盆踊唄(音頭)	周防国
山口県	846	盆踊唄(くどき)	周防国
山口県	847	盆踊唄(さわり踊=早乙女音頭)	周防国
山口県	848	盆踊唄(さんさ音頭)	周防国
山口県	849	伊勢音頭	周防国
山口県	850	盆踊唄(きそん踊)	周防国
山口県	851	盆踊唄(岩国音頭)	周防国
山口県	852	盆踊唄(野島盆踊)	周防国
山口県	853	盆踊唄(思案橋踊)	周防国
山口県	854	盆踊唄(般若)	周防国
山口県	855	盆踊唄(思案橋)	周防国
山口県	856	盆踊唄(国府節踊)	周防国
山口県	857	豊年大漁踊	周防国
山口県	858	盆踊唄(白川踊)	周防国
山口県	859	盆踊唄(讃岐踊)	周防国
山口県	860	盆踊唄「石童丸くどき」	長門国
山口県	861	盆踊唄(盆くどき)	長門国
山口県	862	盆踊唄(浜田節)	長門国
山口県	863	盆踊唄(さんさ時雨)	長門国
山口県	864	盆踊唄(くどき「丹波与作」)	長門国
山口県	865	盆踊唄(思案橋)	長門国
山口県	866	盆踊唄	長門国
山口県	867	平家踊	長門国

都道府県	番号	曲名	旧国
山口県	868-1	花笠踊「道分け」	周防国
山口県	868-2	花笠踊「花の踊」	周防国
山口県	868-3	花笠踊「六調子踊」	周防国
山口県	868-4	花笠踊「巡礼踊」	周防国
山口県	868-5	花笠踊「四季の踊」	周防国

編者・執筆者一覧

河瀬 彰宏(かわせ あきひろ)(編著)

1983年生まれ. 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了. 博士(工学). 現在, 同志社大学文化情報学部助教. 専門は, 文化現象の計量分析.

柳澤 雅之(やなぎさわ まさゆき)(編)

1967年生まれ. 京都大学大学院農学研究科博士課程修了. 農学博士. 現在, 京都大学東南アジア地域研究研究所准教授. 専門は, ベトナム地域研究, 土地利用研究.

CIRAS Discussion Paper No.72

河瀬彰宏・柳澤雅之 編著

日本民謡の地域比較研究に向けて

西海道・山陰道・山陽道の地域性

発行 2017年3月

発行者 京都大学東南アジア地域研究研究所

京都市左京区吉田下阿達町46 〒606-8501

電話: 075-753-7302 FAX: 075-753-9602